

独立行政法人国立美術館の平成15年度に係る業務の実績に関する評価

1. 評価の理念

国民本位の効果的で質の高い行政を実現するため、法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかの視点に立ち、客観的な評価を行うことにより、行政の説明責任を果たし、あわせて業務の改善・活性化を図り、法人の自主性・自律性を担保する。

2. 評価の趣旨

事業年度において、中期計画の実施状況を調査・分析し、業務の実績の全体について総合的な評価を行うことにより、以降の業務運営の改善に資する。

3. 評価のプロセス

評価は、法人から事業の説明を受けヒアリングした後、各委員が書面評価した上で合議により決定した。また、資料として、実績報告書（自己点検評価を含む）、財務諸表、外部評価委員会の評価、監事・会計監査人からの意見及び展覧会の図録等を使用した。

全体評価

事業活動、業務運営について、項目別評価の結果等を踏まえつつ、法人の業務の実績について記述式により評価する。また、業務全体について横断的な観点から、評価の理念である法人が現代及び未来の日本の社会にどのように貢献するかに基づき国民的視点に立って評価する。

評価項目	評価の結果
事業活動	<p>平成15年度の国立美術館は、各館の目的及び基本方針に基づき、調査研究や展覧会への出品交渉など日常的な活動を通じて所有者に働きかけ、購入、寄贈、寄託により多くの貴重な美術品を外部有識者の意見を聴取するなどして収集し、各館にふさわしいコレクションの充実を図った。特に、人々の映画に対する期待が高まっている中で、東京国立近代美術館フィルムセンターにおいて、日本映画を中心に、映画製作会社等と連携しながら、映画フィルムの寄託の本数を格段に増やしていることは評価できる。</p> <p>また、その散逸、破損、海外流出等が問題とされる中で、優れた美術品を後世へ継承するという極めて重要な役割も果たした。</p> <p>保管についても、より良い保管環境とするための改善が継続して行われたことにより、作品の管理・保存が確実に行われたと評価できる。なお、24時間空調が行われていない施設については、保管に適切な温湿度の範囲を超えないよう、また、急激な温湿度変化が生じないようにする必要がある。保存・修復の専門的な知識を有する職員がいない館は、外部の研究者の協力を得るなどして、その強化に努めることが望ましい。</p> <p>また、修理については、緊急を要するものから計画的に実施し、保存カルテや修理データも確実に記録された。引き続き、美術品は継続的な修復が必要であることを周知しつつ、保存・修復に関するデータベースの共通規格化を検討することが望ましい。なお、美術品の取扱いについては、その知識と技術が重要であるとともに慎重さが求められることから、引き続き、職場での体験や研修を通じて、その継承に努める必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術品の収集は、その件数だけで評価されるものではないが、今後とも、美術品を収集しやすくするため、文化庁と連携・協力して、税制問題を含めてその推進方策を検討するとともに、国立美術館各館で情報交換を図りながら、各館にふさわしい美術品を収集していくことが望ましい。</p>
事業活動	<p>国民が国立美術館に対して期待を寄せる展覧会は、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした平常展、幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展、国内外に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供した地方巡回展・海外交流展など、様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する展覧会を行った。また、国立美術館4館全体で目標の入館者数約132万人を超える約160万人が観覧し、入館者に対するアンケート調査の結果においても、約8割から「良かった」との回答を得ている。</p> <p>入館者の目標については、その目標数の算出に難しい面もあったと思われるが、広報・宣伝などの自己努力の結果として、最終的に目標を上回る実績結果となった。</p> <p>国立美術館は、より多くの国民を引き付けていくために、展覧会の充実以外にも館の魅力を高める方策を進めていくことが重要である。そのためには、効果的な広報を行い、観光や地域の振興に果たす役割を持つような戦略などを引き続き検討し、いままで観覧したことのない人の興味も喚起し、何度でも足を運んでもらえるような改善を図る必要がある。</p> <p>その他、美術品の活用として、公私立の美術館等に対して、その貸与や特別観覧を行い、美術品を広く国民へ公開することにおおむね貢献できた。貸与については、引き続き、美術品の保管状態や自館での展示計画に留意し、貸与要望の主旨を十分考慮しながら、合理的な判断基準を明確に定めるなど、ナショナルセンターとしての役割を考慮して、公私立の美術館等からの求めに応じて、できる限り幅広く応えていくことが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展覧会場場の混雑緩和については、その改善に力を注いだが、今後とも、整理券や期限付きの入場券の発行、他館との共通入場券の導入等を検討し、より良い観覧環境を確保するための努力を続ける必要がある。また、見やすく、わかりやすい作品解説にするよう工夫するなど、展示の持つ教育普及効果に、十分配慮することが望ましい。</p>
調査研究	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は確実に行われ、美術品の収集や展示に反映するとともに、図録の刊行などに成果をあげた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。また、研究員の日常的な調査研究は、今後の収集・保管、展覧会、教育普及など美術館活動の基礎となるため、引き続き、研究成果の蓄積に努めることが望ましい。今後は研究機関としての機能も、一層充実していくことを期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 研究成果については、国立美術館が作成する図録や研究紀要等で公開されているが、研究紀要の発行等に際しては、編集方針を併記するなど学術的に高い水準を確保することが望ましい。また、研究成果については、学会等で発表するなど、広く公開していくことが望ましい。外部の研究者との交流については、今後も積極的に行い、高度な人的ネットワークを形成することが望ましい。</p> <p>展覧会は、美術館が創出する知的な財産・作品であり、展覧会の図録の刊行などの出版活動の活性化等を期待したい。また、展覧会に関するデータベースの構築は、国内外の研究者に資するものであり、ナショナルセンターとして、研究機能の成果の外部への公開が望まれる。</p> <p>なお、映画フィルムについては、その保存が重要であるが、引き続き、デジタル化での保存も含めて、検討を進めていくことが望ましい。</p>

教育普及	<p>国立美術館は、平成15年度も引き続き、年齢や職業など幅広い層を対象として、資料の公開、広報活動、講演会、ワークショップの実施、学校等との連携、友の会、ボランティアの活用など様々な教育普及活動に取り組み、年度計画以上の実績を上げた。これらの活動は、展示や解説を学術的に高い水準を維持しつつ、よりわかり易く提示するものとして評価できる。</p> <p>また、限られた人員と予算の中で充実した教育普及活動を行うためには、引き続き、国立美術館として果たすべき役割を検討し、そのうえで全般にわたる見直しを検討することが望ましい。特に、美術館の学芸員を養成する博物館実習生の受入れについては、他の業務とのバランスを勘案の上、目的を明確にして積極的な受け入れを検討する必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 収蔵品及び図書などの諸資料のデジタル化やその公開については、困難な面もあるが、より一層の取組が望まれる。また、今後は、教育普及活動に参加した人に、美術館をどのように利用すればよいかを示唆できるよう、内容をより一層工夫することが望ましい。</p>
その他の入館者サービス	<p>入館者に楽しく過ごしてもらうためには、展示会の質を充実していくとともに、展示以外のサービスについても、十分に配慮しなければならない。平成15年度は、アンケートの結果の分析等により、入館者の意見も十分採り入れながら、小・中学生の平常展の観覧料金の無料化の継続、開館日や開館時間の増、レストランのメニューやミュージアムショップの商品の充実など、誰もが利用しやすく、また、快適に過ごせる時間と空間を提供することに努めたと評価する。また、入館者と直に接する受付・案内の職員や看士員、及びレストラン、ミュージアムショップ等の職員の対応は重要であり、接客についての研修について、引き続き、充実していくことが望まれる。</p> <p>また、アンケート調査を継続的に実施するほか、モニター制度の導入を検討するなど積極的に入館者の声を聞き、入館者が充実した時間を過ごせるよう、展示会の企画、広報などあらゆる事業の改善にその結果を活用することが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国立美術館は、芸術文化振興に貢献してきているが、引き続き、日本人だけでなく、外国人にも親しまれる美術館としての活動に力を入れていく必要がある。今後は、館へのアクセス情報等、インターネットを活用したサービスについても、より積極的な検討が望まれる。また、引き続き、バリアフリーの対応を図っていくことが望ましい。</p>
業務運営	<p>国立美術館は、「国民に親しまれる美術館」を目指し、理事長、理事及び監事のトップマネジメントによる一体的で効率的かつ効果的な法人運営を行うとともに、各館の個性を尊重した取組を図っている。これを推進していくために、今後は、理事長及び理事が法人全体の横断的業務について役割分担して責任の所在を明らかにしていくことが必要である。</p> <p>また、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館のそれぞれの特徴を生かしつつ、平成13年4月に一つの独立行政法人として発足されてから、一体的な運営を行ってきたが、このような改革を進めていくためには、運営基盤の確立が求められ、運営効率を高めるとともに、独立行政法人としての特色を生かしていくことが必要である。また、国民のニーズに配慮した事業の展開や、利用者が親しみの持てるような企画への取組は評価できる。</p> <p>平成15年度は、美術館にとって重要な年齢層である小・中学生への積極的な働きかけをしたこと、開館日の増や夜間開館の実施、ボランティアの活用、各種イベントの開催など、幅広い層の人々が美術館に親しんでもらえるための事業を積極的に行い、多くの人々が国立美術館の展示会を観覧したことを評価する。</p> <p>国立美術館の運営においては、トップマネジメントの果たす役割が最も重要であり、今後とも、美術品、人材、情報など国立美術館の持っている資源を最大限に活用し、各館が一体となった効率的かつ効果的な運営を行っていくことを期待する。また、展示会の企画や独自の展示手法などに伴って発生しうる権利の問題についても、引き続き、検討することが望まれる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、国立美術館の館活動の支援者の育成や、地域社会との連携、施設の有効活用による収入拡充が望まれる。そのためにも、トップマネジメントの果たす役割は大きいと言える。 今後は、各館の特性を活かして、分担を明確にしていくことや、ダイナミックな改革を目指していくことが望まれる。また、独立行政法人化されたことにより、理事長及び理事がトップマネジメントとしての意識をもつことが必要である。</p>
財務	<p>平成15年度の総利益のうち、展示会の企画や各種のイベントの開催、広報の充実など法人としての経営努力をしたことにより、入場料収入、図録の販売等の収入を伸ばし、当初予算額に比べ1億1千万円増の利益をあげた。特に、平成15年度は、賛助会員制度の拡大等により、引き続き、増収を図ったことは評価できる。</p> <p>国立美術館が目指す効率化については、無駄な経費を節約し、できる限り小さいコストで、効果的により質の高いサービスを国民に提供するものでなければならない。平成15年度は、多くの人々が展示会を観覧し、それに応じた事業の充実を図るなど、より多くの経費を必要とする中で、業務全般について一元化を図ったり、省エネルギーや施設の有効利用に努力し、法人全体として1%の効率化を図ることに成功した。なお、そのことにより、事業活動の質の低下は見られなかったことを評価したい。</p> <p>平成15年度予算は、事業ごとの予算と決算に多少の差異が生じたが、平成16年度は、各事業の実績等を勘案した上で予算を作成し、コスト意識を持ちながら、柔軟かつ弾力的な執行を行い、その結果を自己点検していく必要がある。平成14年度の運営費交付金債務は、平成15年度に美術品の購入として執行され、また、平成15年度は、引き続き、運営費交付金債務が生じており、平成16年度に美術品の購入を行う予定である。なお、法人設立時の現物出資により生じた還付消費税は、経営努力により生じたものとは認められないため、積立金として適切に管理された。</p> <p>国立美術館が安定した運営を行うためには、国からの支援と自己収入の確保が不可欠である。その他、個人や民間企業からの寄附や協賛等を得るなどの渉外活動の充実を図る目的がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後とも、国立美術館は、その規模や目的に応じた活動により、国立の美術館としてふさわしい役割を果たし、社会の利益に奉仕していることについて、国民の理解が得られるよう努力を続けていかなければならない。また、美術品の特別観覧や施設使用の料金の設定は、国有財産の使用料に準拠しているが、今後、使用者やその目的などを勘案し、商業利用等については提供するサービスに見合った料金設定をするなど、独立行政法人として弾力的な取り扱いについて検討することが望ましい。</p>
人事	<p>国立美術館は、人的資源、物的資源、情報資源などを有しているが、その活用を人が決定するという点においては、人的資源が最も重要であると言える。そのため、必要な職員の配置を図るとともに、適正な配置による効率的かつ効果的な活用が大切であり、平成15年度においては、国立美術館の限られた人員の中で適正な配置がなされたと評価できる。</p> <p>事務職員については、主として、文化庁、文部科学省、国立大学等との定期的な人事交流により、安定した人員の供給と組織の活性化がなされているが、美術館業務固有の専門分野での人材育成に困難な面がある。このため、美術館運営など固有の業務についての知識を習得するための研修を実施していく必要がある。また、今後は、国立美術館で独自に事務職員を採用し、人材を養成することも必要と考える。</p> <p>なお、国立美術館として一体的な運営を目指すため、本部機能の充実を図り、各館における職員の人事交流も積極的に検討する必要がある。</p> <p>平成14年度の業務の実績に関する評価結果に対する役職員の給与や人事への反映状況については、適切に行われた。また、国立美術館の役職員の給与は国家公務員に準拠した額となっているが、役職員に対しインセンティブを与えるため、功績をあげた者への評価については、積極的に検討することが望ましい。</p>

		<p>【より良い事業とするための意見等】 国立美術館の研究職員については、美術品に関する専門的な知識とともに、独立行政法人における役割を十分理解し、館運営や広報等の美術館活動の重要性について正しい認識を持つことが必要である。そのため、経験と知識の専門性を尊重しつつ、文化庁や国立大学等との人事交流、または公私立の美術館や民間企業等からの採用についても、積極的に行っていくことが望ましい。 また、業務の効率化を推進するため、外部委託を可能な範囲で進めるとともに、外部の研究者、大学生・大学院生、ボランティア等の活用の可能性について、引き続き、検討していくことが望ましい。</p>
施 設		<p>国立美術館の施設については、平成15年度は、大阪市北区中之島に建設中であった国立国際美術館新館建設が完了するとともに、新館への移転準備に着手した。また、国立新美術館の建設工事を行っているところである。この中で、全館を通じて情報の提供やバリアフリー化への対応が進んできている。 施設については、国立美術館の館活動の基盤であるため、業務を確実に実施するための機能を有するとともに、安全で良好な環境を維持していかなければならない。そのため、常時、施設の状況の点検等を行い、今後とも修繕すべき施設の優先順位を法人として決定して、計画的に改修を図るとともに、来館者が快適に過ごすことができるような施設にすべく工夫していく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、国民に親しまれる美術館を目指して、国立美術館の各館のさらなるPRを含めて、施設の有効活用を推進していくことが望ましい。例えば、コンサート等イベントの実施について、平成15年度も国立美術館の施設を有効利用していくことが望ましい。 また、新しく整備している国立新美術館については、国民により理解が得られるよう、その在り方について、具体的に検討を進めていくことが望まれる。</p>
総 評		<p>国立美術館は、平成15年度においては、中期目標期間の3年目として、4館全体で目標の入館者数約132万人を超える約160万人が観覧し、多くの人々が評価する展覧会を開催した。 また、諸外国と比較すると圧倒的に少ない館職員の努力により、収集・保管、展示、調査研究、教育普及などの「国民に対して提供するサービス」、及び「業務運営の効率化」について年度計画以上の実績を上げた。また、特に、各種イベントやコンサート等の企画も始めるなど、新しい美術館の運営に積極的に取り組みはじめている。さらには、ナショナルセンターとして国際文化交流を推進するとともに、国内外の美術館活動の充実へ大きく貢献するなど、中期目標にある「国民に親しまれる美術館」を目指して、着実な成果を上げていると評価する。 映画フィルムの収集・保存等については、その重要性が指摘されている中で、文化庁とともに進めているフィルムセンターの在り方に関する検討を踏まえて、適切な対応を行っていくことが望ましい。 今後は、関係機関とのネットワーク化、グループ化を図り、近現代の優れた美術品を通じて、鑑賞の機会の充実を図ることで、国内外におけるナショナルセンターとして、21世紀の美術館の在り方を追求していく必要がある。また、関係機関等とさらなる人事交流を図るとともに支援組織を確立して、国立美術館のよりよい環境づくりに努めていくことが期待される。今後は、理事長を中心としたトップマネジメントの中で、国立美術館ならではの運営のビジョンを明確に示し、さらに強力なリーダーシップを発揮していくことが望ましい。</p>

項目別評価

中期計画の各項目ごとに段階的評価を行う。

段階的評価

- 「A」 中期計画を十分に履行し、中期目標に向かって着実に成果を上げている。
- 「B」 中期計画をほぼ履行し、中期目標に向かって概ね成果を上げている。
- 「C」 中期計画を十分には履行しておらず、中期目標達成のためには業務の改善が必要。
- 「-」 評価しない。

定性的評価

評価を出すに至った背景や理由、改善すべき項目、目標設定の妥当性等を記述する。

【東京国立近代美術館本館・工芸館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.業務の一元化 本部において、これまで行っている人事、共済、給与事務及び情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2.省エネルギー等(リサイクル)</p> <p>(1)光熱水量</p> <p>本館 ア.電気 使用量 2,531,674kw(前年度比94.8%) 料金 38,817,440円(前年度比92.2%) イ.水道 使用量 13,110m³(前年度比91.7%) 料金 7,510,584円(前年度比88.6%) ウ.ガス 使用量 395,701m³(前年度比101.1%) 料金 17,896,708円(前年度比48.0%)</p> <p>工芸館 ア.電気 使用量 365,919kw(前年度比101.1%) 料金 7,001,820円(前年度比99.7%) イ.水道 使用量 970m³(前年度比125.3%) 料金 430,140円(前年度比128.4%)</p> <p>(2)廃棄物処理量</p> <p>本館 ア.一般廃棄物 13,400Kg(前年度比93.4%) 料金 281,400円(前年度比93.4%) イ.産業廃棄物 4,610Kg(前年度比128.4%) 料金 159,734円(前年度比128.4%)</p> <p>工芸館 ア.一般廃棄物 4,830Kg(前年度比149.5%) 料金 101,430円(前年度比149.5%) イ.産業廃棄物 980Kg(前年度比163.3%) 料金 33,954円(前年度比163.3%)</p> <p>(3)その他 古紙の再利用、OA機器等のトナーカートリッジリサイクルによる再生使用</p> <p>3.施設の有効利用:講堂等の利用率9%(32日/366日)</p> <p>4.外部委託 平成15年度も下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。 (1)会場管理業務 (6)収入金等集配業務 (2)設備管理業務 (7)レストラン運営業務 (3)清掃業務 (8)アトライブラリ運営業務 (4)保安警備業務 (9)ミュージアムショップ運営業務 (5)機械警備業務</p> <p>5.OA化 館内LANは全館内に整備されており、各職員が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。館内LANは文書ファイルの共有、Eメールによる事務連絡に活用しており、事務の効率化を図った。</p> <p>6.一般競争入札 (1)本館,工芸館 一般競争入札件数 4件(総契約件数 134件) (2)フィルムセンター 一般競争入札件数 1件(総契約件数 52件)</p> <p>7.評議員会:開催回数 1回(平成16年2月18日(水))</p>	A	<p>東京国立近代美術館本館・工芸館については、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1.1%の効率化を図った。</p> <p>今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、必要な業務を精選する中で、適切に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図ることが望ましい。また、平成14年度に増改築した本館等の施設の有効利用を一層図る必要がある。</p>
	<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1.140%</p> <p>効率化係数計算式 (A-B)÷A (2,606,913,713 - 2,577,195,487) ÷ 2,606,913,713 = 0.01140</p> <p>A:(15年度予算額 - 15年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (2,802,149,000 - 210,420,000 - 37,770,199 + 26,885,775) ÷ 0.99 = 2,606,913,713</p> <p>B:15年度決算額 - 15年度特殊要因決算額 2,762,594,663 - 185,399,176 = 2,577,195,487</p>	B	

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 (東京国立近代美術館) 近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。 また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 購入 108件</p> <p>2. 寄贈 95件</p> <p>3. 寄託 306件</p> <p>4. 特記事項 平成15年度の新収集作品の中で、川合玉堂の《小松内府》(1899)は玉堂の初期の代表作であると同時に、明治30年代の歴史画の隆盛を伝える典型例として、近代美術史の通史的展観を補完するものである。また、受贈による収集成果として、特に加山作品の16点の寄贈は、作家とのかかわりの中から、加山展を契機として寄贈されたものであり、日頃の地道な努力が活かされたものと考えられる。さらに、美術作品の取り扱いに関する研究員の指導としては、当館主任研究官がこれに当たったほか、新規採用の研究員は、東京文化財研究所保存科学部による「博物館・美術館等の保存担当学芸員研修」を履修した。 なお、当館は平成15年度の新収集作品を含めて、すべての所蔵作品について、修理データ等を記載したカードを制作しているが、作品の状態や修理については作品の形式に準じた個別的な要因が多く、共通規格に基づくデータベース化の可能性については4館学芸課長で引き続き検討していきたい。</p>	A	<p>東京国立近代美術館本館・工芸館の収集方針に基づき、展覧会の出品交渉など地道な活動を通じて美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図った(川合玉堂「小松内府」等)。 特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、美術館への高い信頼によって大きな成果を上げた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、メディア・アートに対する対応を考えていくことが望ましい。また、購入・寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。</p>		
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 温湿度 (1)本館 展覧会場(空調実施時間 24時間) 温度 25.0 湿度 55%(夏期) 温度 21.5 湿度 53%(冬期) *上記の数値は、入館者が入ったときの設定(目標)値である。 収蔵庫(空調実施時間 24時間) 温度 20.0 湿度 55%(日本画等) 温度 20.0 湿度 53%(油彩画等)</p> <p>(2)工芸館 展覧会場(空調実施時間 9:00~17:00) 温度 22.0 湿度 50% 収蔵庫(空調実施時間 9:00~17:00) 温度 22.0 湿度 50%</p> <p>2. 照明 すべての蛍光灯は紫外線防止3,000K(博物館美術館用)、無段階調光可能、高演色タイプ</p> <p>3. 空気汚染 2か月に1回、建築物における衛生的環境の確保に関する法律に基づき空気環境測定を実施。本館展示室では炭酸ガス排出のための排気ファンを24時間運転している。</p> <p>4. 防災 機械警備による監視、及び中央監視室(工芸館は事務室)での監視。本館及び工芸館において消防訓練を実施。</p> <p>5. 防犯 本館 有人警備(8:00~19:00、金曜日は21:00まで) 工芸館 有人警備(8:30~18:15) *本館、工芸館共に建物が無人となるときは機械警備を実施。</p> <p>6. 特記事項 平成15年度の新収集作品を含めて、すべての所蔵作品の記録カードを作成している。また、24時間空調の実施によって、展覧会場、収蔵庫ともに適切な保存環境が整備されている。作品の状態をチェックし、修理が必要な作品について所蔵作品データベース上に結果を記載する作業を進めているが、平成15年度は、緊急性の高い漆工、染織、陶芸部門のチェックを終了した。</p>	A	<p>24時間空調により、温湿度や照明等に配慮した適切な保管がされている。また、保存カルテも着実に作成した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術作品は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得るなどして、より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。また、保存状況の記録カードについては、国立美術館各館共通化に努力することが望ましい。 また、工芸館は、温湿度が保管に適切な範囲を超えないよう、また、空調の切り替え時に、急激な変化が生じないようにすることが望ましい。</p>		
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 修理件数 49件 日本画 5件 洋画 3件 水彩・素描 5件 版画 31件 彫刻 0件 陶磁 0件 漆工・木工・竹工 2件 染織 3件 金工 0件</p> <p>2. 特記事項 抜本的な修理を行なうか、それとも部分的な修理を施して、その後の経過を継続的に観察していくかなど、処置の方法については修理業者と綿密な話し合いを行った上で委託し、修理報告書の提出を義務づけている。</p>	A	<p>美術作品の保存状態の調査を行い、展示に使用する作品を中心に修理を行った。また、修理データも確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、保存科学の専門職員をおくことが望ましいが、外部の専門家との連携を図っていくことが望まれる。また、保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実に、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>		
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p>	展覧会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 常設展 (1)本館 展示替 5回(屏風及び軸装の日本画等については、原則的に各会期間に展示替えを行った。) (2)工芸館</p>	A	<p>東京国立近代美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「青木繁と近代日本のロマンティズム」展や「野見山皓治」展など幅広い層を対象とし、国</p>		

<p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6～7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5～6回程度</p>			<p>展示替 3回</p> <p>2. 特別展・共催展 11回 (1) 本館(中期計画記載回数:年3～5回) 青木繁と近代日本のロマンティズム 展 特集展示「牛腸茂雄」展 地平線の夢 - 昭和10年代の幻想的風景表現 「野見山暁治」展 旅 - 「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン ヨハネス・イッテン - 造形芸術への道 「国吉康雄」展 *「青木繁と近代日本のロマンティズム展」展の会期は平成15年3月25日から *「国吉康雄」展の会期は平成16年5月16日まで (2) 工芸館(中期計画記載回数:年2～3回) 「今日の人形芸術 - 想念の造形」展 「オーストラリア現代工芸3人展: 未知のかたちを求めて」 「三代藍堂 宮田宏平展 - 金属工芸の先駆け」 現代の木工家具「現代の木工家具」展 「あかり: イサム・ノグチが作った光の彫刻」 *「今日の人形芸術 - 想念の造形」展の会期は平成15年3月28日から</p> <p>3. 入館者数 415,091人(平成14年度 462,138人)</p> <p>4. 海外交流展 0回</p> <p>5. 地方巡回展 0回</p> <p>6. 国立美術館巡回展 1回 5,588人</p>		<p>民の関心をより強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を与えた地方巡回展など様々な内容のものをバランスよく行った。また、目標の入館者数約31万人を超える約41万人が観覧した。本館、工芸館ともに常設展が充実し、目標入場者を上回った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 本館と工芸館の回遊性を確保することが望ましい。</p>
<p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>常設展[本館]</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 295日間</p> <p>2. 会場 本館 2階～4階</p> <p>3. 出品作品数 延1,389件(うち重要文化財17件)</p> <p>4. 入場料金 一般420円 大学生130円 高校生70円 一般(団体)210円 大学生(団体)70円 高校生(団体)40円</p> <p>5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入 8,784,480円 (目標入場料収入 10,079,000円))</p> <p>6. アンケート調査 第1回 アンケート回収数 151件(母集団48,264人) 15年度43,001人 アンケート結果 ・良い85.5%(129件)・普通13.2%(20件)・悪い11.3%(2件) 第2回 アンケート回収数 145件(母集団19,780人) アンケート結果 ・良い67.6%(98件)・普通28.3%(41件)・悪い14.1%(6件) 第3回 アンケート回収数 190件(母集団32,326人) アンケート結果 ・良い71.5%(98件)・普通23.2%(44件)・悪い15.3%(10件) 第4回 アンケート回収数 250件(母集団35,291人) アンケート結果 ・良い68.4%(171件)・普通30.0%(75件)・悪い11.6%(4件) 第5回 アンケート回収数 194件(母集団14,920人) アンケート結果 ・良い71.7%(139件)・普通27.3%(53件)・悪い11.0%(2件)</p>	<p>A</p>	<p>東京国立近代美術館の方針に基づいて体系的に収集した約9千点の収蔵品(寄託を含む)により、館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。特に1年に5回の展示替えで、のべ約1400点の作品を出品し、近代日本の美術史をわかりやすく紹介したことは高く評価される。展示の構成にも工夫をこらし入館者数を着実に増やした。 今後とも、多くの国民に常設展を観覧してもらえよう、効果的な後方を検討することが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展示替えやテーマ展示のスケジュールを積極的に広報することが望ましい。 作品解説に、より一層の工夫をすることが望ましい。</p>
<p>広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>共催展[本館] 「青木繁と近代日本のロマンティズム」展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成15年3月25日～平成15年5月11日 (平成15年4月1日～平成15年5月11日) 15年度</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー</p> <p>3. 共催協賛 日本経済新聞社、石橋財団石橋美術館</p> <p>4. 出品点数 145件(うち国宝 0件、重要文化財 8件)</p> <p>5. 入場料金 個人: 一般1,200円 学生900円</p> <p>6. 入場料収入 8,542,490円(目標入場料収入 14,192,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 20年ぶりの青木繁回顧展として、重要文化財《海の幸》《わだつみのいるこの宮》を含む青木の作品77点を展示。加えて、その精神を受け継ぐ作家たち、中村彝、村上華岳、村山槐多、関根正二ら19人の作品68点を併せて展覧し、多様な視点から近代日本美術史における青木繁の位置付けを探った。全体を「神話の渾沌から」「海のフォークロア」「生命礼賛」「恋愛あるいは永遠の女性」「古代の発見」「望郷あるいは晩帰」の6章で構成した。</p> <p>8. 講演会等 3回 参加人数 373人</p> <p>9. アンケート調査 アンケート回収数 249件(母集団56,713人) 15年度52,713人 アンケート結果 ・良い85.2%(212件)・普通14.0%(35件)・悪い10.8%(2件)</p>	<p>A</p>	<p>入館者数は目標を下回っていたが、青木繁の主要作品を網羅し、また青木の精神的後継者とも言えるべき19人の作家の作品をあわせて展示したことで見応えのある展示となった。石橋美術館との共同研究の成果が生かされたことは評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 展示方法、広報など、より一層の工夫をすることが望ましい。</p>
<p>特集展示[本館] 「牛腸茂雄」展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成15年5月24日～平成15年7月21日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館本館 ギャラリー4</p> <p>3. 出品点数 87件(うち国宝 0件、重要文化財 0件)</p> <p>4. 入場料金 一般420円 大学生130円 高校生70円</p> <p>5. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。</p> <p>6. 展覧会の内容 写真家牛腸茂雄の遺した3冊の写真集に収録された作品を中心に、牛腸の仕事を回顧した。日々(18点)、SELF AND OTHERS(60点)の二つのシリーズについてはオリジナル・プリントを展示。見慣れ</p>	<p>A</p>	<p>小規模な展示であったが、作家の本格的な回顧展として意欲的な企画であった。ギャラリートークを行ったことも評価される。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 写真作品の展示の会場構成について、より一層の工夫をすることが望ましい。</p>

				た街の中で (47画像)については液晶プロジェクターによる画像投映により紹介した。またインクプロット作品 扉をあげると (4点)、マーブリング作品 水の記憶 (4点)を併せて展示した。 7. 講演会等 ギャラリートーク 2回 157人 8. アンケート調査 アンケート回収 163件(母集団15,082人) アンケート結果 ・良い68.7%(112件)・普通27.0%(44件)・悪い4.3%(7件)。		
入館者数	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人未満	15,082人	A	
企画展[本館] 「地平線の夢-昭和10年代の幻想絵画」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年6月3日~平成15年7月21日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 出品点数 79件(うち国宝 0件,重要文化財 0件) 4. 入場料金 個人:一般630円 大学生340円 高校生250円 5. 入場料収入 4,515,830円(目標入場料収入 6,091,000円) 6. 展覧会の内容 わが国で昭和10年代にさかんに描かれた幻想絵画は、これまでシュルレアリスムの模倣と見なされてきたが、本展は、そうした幻想絵画の再評価の糸口として地平線の表現に着目し、26人の洋画家による79点の作品を一堂に集めて展示した。 7. 講演会等 講演会:1回 63人 ギャラリートーク:1回 41人 8. アンケート調査 アンケート回収数 152件(母集団10,621人) アンケート結果 ・良い66.4%(101件)・普通27.0%(41件)・悪い6.6%	B	近代日本美術史をとらえ直そうとする意欲的な企画であった。目標入場者数は下回ったが、学術的な専門性と一般の観覧者との両立に苦慮したことが伺える。 【より良い事業とするための意見等】 広報に関してより一層努力することが望まれる。
入館者数	19,000人以上	13,300人以上 19,000人未満	13,300人未満	10,621人	C	
共催展[本館] 「野見山暁治」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年8月12日~平成15年10月5日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 共催 日本経済新聞社 4. 出品点数 85件(うち国宝 0件,重要文化財 0件) 5. 入場料金 個人:一般1,200円 大学生900円 高校生500円 6. 入場料収入 5,746,470円(目標入場料収入 4,936,000円) 7. 展覧会の内容 油彩65点,素描20点。その内、油彩画については、戦前の初期作から渡欧まで(第1章),滞欧時代から1980年まで(第2章),1981年以降の近作(第3章)の3つの章で構成した。 8. 講演会等 3回(追加講演会を含む) 490人 9. アンケート調査 アンケート回収数 212件(母集団30,884人) アンケート結果 ・良い70.3%(149件)・普通23.1%(49件)・悪い6.6%	A	現代日本を代表する作家の回顧展として説得性のある企画と展示であった。 【より良い事業とするための意見等】 エッセイストと画家という関連を展示に反映させるなどの検討をすることが望ましい。 ギャラリートークが好評であり、今後とも工夫して行うことが望ましい。
入館者数	24,000人以上	16,800人以上 24,000人未満	16,800人未満	30,884人	A	
企画展[本館] 「旅-「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年10月28日~平成15年12月21日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 助成 協賛 協力 モンドリアン財団 コニカミノルタ JAL,吉野石膏(株) 4. 出品点数 39件(うち国宝 0件,重要文化財 0件) 5. 入場料金 個人:一般850円 大学生450円 高校生250円 6. 入場料収入 9,093,550円(目標入場料収入 7,183,000円) 7. 展覧会の内容 「旅」というテーマを切り口に、国内外の現存・物故を含めた作家10人(組)の作品を展示した。出品作家とその出身地,作品のジャンルは以下の通りである。ジョゼフ・コーネル(アメリカ,立体)/ペーター・フィッシュリ&ダヴィッド・ヴァイス(スイス,写真)/雄川愛(日本,インスタレーション)/大岩オスカル幸男(ブラジル,絵画)/小野博(日本,写真)/瀧口修造(日本,オブジェ)/エリック・ファン・リースハウト(オランダ,映像インスタレーション)/ビル・ヴィオラ(アメリカ,同)/渡辺剛(日本,写真・インスタレーション)/安井仲治(日本,写真) 8. 講演会等 8回 484人 9. アンケート調査 アンケート回収数 297件(母集団18,624人) アンケート結果 ・良い62.6%(186件)・普通28.3%(84件)・悪い9.1%(27件)	A	「旅」というテーマを切り口に工夫された展示企画であった。図録も工夫されていた。 【より良い事業とするための意見等】 多様な作品であったが展示が散漫な印象もある。観覧経路が分かりづらい所もあり、鑑賞者へ配慮することが望ましい。
入館者数	17,000人以上	11,900人以上 17,000人未満	11,900人未満	18,624人	A	
企画展[本館] 「ヨハネス・イッテン-造形芸術への道」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成16年1月14日~平成16年2月29日 2. 会場 東京国立近代美術館本館 企画展ギャラリー 3. 共催 後援 協賛 京都国立近代美術館 スイス大使館 アサヒビール芸術文化財団 4. 出品点数 359件(うち国宝 0件,重要文化財 0件) 5. 入場料金 個人:一般850円 大学生450円 高校生250円 6. 入場料収入 9,981,650円(目標入場料収入 6,338,000円) 7. 展覧会の内容	A	優れた画家であり美術教育者でもあったヨハネス・イッテンの初めての本格的な紹介であり、充実した展覧会であった。広報の効果もあり、入場者数も多く、アンケートでも8割以上が「良かった」と答えている。また、図録の販売割合が非常に高く、来館者の関心の高さが伺える。

			<p>出品作品は、絵画・水彩・素描・版画・写真・日記・書籍・織物・立体作品など359点である。全体は、美術教育者としてのイッテンと彼の生徒の作品からなる「第 章 造形芸術への道」、画家としてのイッテンの作品からなる「第 章 ヨハネス・イッテンの世界」、イッテンと交流のあった日本人画家や彼に教えを受けた生徒たちの作品からなる「第 章 ヨハネス・イッテンと日本」の3章で構成した。</p> <p>8. 講演会等 2回 参加人数 239人</p> <p>9. アンケート調査 アンケート回収数 408件(母集団 16,777人) アンケート結果 ・良い181.4%(332件)・普通16.4%(67件)・悪い12.2%(9件)</p>		<p>【より良い事業とするための意見等】 未だ我が国には十分な紹介のされていない海外の著名な作家も少なくなく、それらの紹介に努めることが望ましい。</p>	
入館者数	15,000人以上	10,500人以上 15,000人未満	10,500人未満	16,777人	A	
常設展[工芸館]	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 開会期間 174日間</p> <p>2. 会場 工芸館 2階</p> <p>3. 出品作品数 延276件(うち重要文化財0件)</p> <p>4. 入場料金 一般200円 大学生70円 高校生40円 一般(団体)100円 大学生(団体)40円 高校生(団体)20円</p> <p>5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入 8,784,480円 (目標入場料収入 10,079,000円)</p> <p>6. アンケート調査 第1回 アンケート回収数 231件(母集団 8,517人) アンケート結果 ・良い64.1%(148件)・普通29.9%(69件)・悪い16.0%(14件) 第2回 アンケート回収数 166件(母集団 14,876人) アンケート結果 ・良い71.1%(118件)・普通27.1%(45件)・悪い11.8%(3件)</p>	A	<p>展示の工夫や広報活動の努力などがあり、目標を上回る入館者数があったことは評価できる。「名品コーナー」の設置のような工夫をより充実させることが望ましい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 重要文化財である建物のメリットを生かした企画や効果的な展示等を検討することが望ましい。観覧者のニーズの把握と、日常的な広報活動への努力をすることが望ましい。</p>
入館者数	22,000人以上	15,400人以上 22,000人未満	15,400人未満	35,026人	A	
共催展[工芸館] 「今日の人形芸術―想 念の造形」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 開会期間 平成15年3月28日～平成15年5月18日(平成15年4月1日～5月18日)</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館工芸館</p> <p>3. 共催 TBS, 毎日新聞 後援 文化庁</p> <p>4. 出品点数 101件(うち国宝0件, 重要文化財0件)</p> <p>5. 入場料金 一般800円 学生650円</p> <p>6. 入場料収入 3,110,650円(目標入場料収入 1,651,000円)</p> <p>7. 展覧会の内容 近代以降、作家個人の創作の対象となった人形芸術について、その自律した造形性と意味について検証した。第1部として昭和初期に高まった人形創作熱の動向を、第2部では現在活躍する作家の多様な作品を取り上げ、人形芸術の可能性を探った。25作家101点で構成した。</p> <p>8. 講演会等 7回 786人 (内、第1回は平成14年度中に実施、103名が参加)</p> <p>9. アンケート調査 アンケート回収数 167件(母集団22,379人) アンケート結果 ・良い77.8%(130件)・普通20.4%(34件)・悪い11.8%(3件)</p>	A	<p>人形芸術を今日的視点で紹介した興味深い展覧会であった。幅広い観客層の関心に答えた企画で評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 人形の制作技法への関心も強く、技法的な展示の拡充を検討することが望ましい。</p>
入館者数	14,000人以上	9,800人以上 14,000人未満	9,800人未満	22,379人(内、平成15年度 21,134人)	A	
企画展[工芸館] 「オーストラリア現代 工芸3人展：未来のか たちを求めて」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 開会期間 平成15年5月27日～平成15年6月29日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館 工芸館</p> <p>3. 主催 東京国立近代美術館, 京都国立近代美術館, アジアリンク 企画協力 ジャムファクトリー・コンテンポラリー・クラフト・アンド・デザイン 協賛 豪日交流基金, オーストラリア・カウンシル</p> <p>4. 出品点数 27件(うち国宝0件, 重要文化財0件)</p> <p>5. 入場料金 一般200円 大学生70円 高校生40円</p> <p>6. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。</p> <p>7. 展覧会の内容 現在オーストラリアで活躍する3人の女性工芸家、ロビン・ベスト(磁器), スー・ロレイン(金工), キヤサリン・トルーマン(木工)によるオブジェの新作展。3作家27点。また、所蔵作品による「近代工芸の名作：友禅と型染」も同時開催。</p> <p>8. 講演会等 ギャラリー・トーク 5回 59人</p> <p>9. アンケート調査 アンケート回収数 195件(母集団3,463人) アンケート結果 ・良い52.3%(102件)・普通36.4%(71件)・悪い11.3%(22件)</p>	B	<p>3人の女性工芸家の27点を工芸館の一室に展示した小規模の企画展で、オーストラリアの現代工芸には一般の関心が薄いか入館者は少なかったが、海外関係機関との交流や連携の推進が図られたことの意義は認められる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 新分野の紹介や規模の小さな企画展示の場合は、広報する対象をどこに向けるか十分に検討することが望ましい。</p>
入館者数	4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人未満	3,463人	B	
企画展[工芸館] 三代藍堂 宮田宏平展 ―金属造形の先駆け―				<p>1. 開会期間 平成15年7月8日～平成15年9月7日</p> <p>2. 会場 東京国立近代美術館 工芸館</p> <p>3. 主催 東京国立近代美術館, 新潟県立近代美術館</p> <p>4. 出品点数 105件</p> <p>5. 入場料金 一般200円 大学生70円 高校生40円</p> <p>6. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。</p> <p>7. 展覧会の内容 1927年、佐渡島に生まれた宮田宏平は、家業の蠟型鑄金の技法を基礎から学んだ。東京美術学校卒業後は、日展、現代工芸美術展を中心に活動し、用を前提としない前衛的な作品で蠟型鑄金の技法を表現と</p>	A	<p>蠟型鑄造という伝統的な技法で制作する作家の展覧会として、充実した内容の回顧展であった。共催館である新潟県立近代美術館との共同研究の成果を交換できたという点も評価される。</p>

				して読みかえていった。半世紀におよぶその活動を、オブジェ作品とジュエリーに大きく2つにわけ、展示。作品点数105点。 8. 講演会等 ギャラリートーク 7回 299人 9. アンケート調査 アンケート回収数 165件(母集団8,170人) アンケート結果 ・良い71.5%(118件)・普通23.0%(38件)・悪い5.5%(9件)			
	入館者数	7,000人以上	4,900人以上 7,000人未満	4,900人未満	8,170人	A	
	企画展[工芸館] 「現代の木工家具」展				1. 開会期間 平成15年9月20日～平成15年11月30日 2. 会場 東京国立近代美術館工芸館 3. 出品点数 79件(うち国宝 0件, 重要文化財 0件) 座れる椅子のコーナー 14点(出品作家作品12点, 当館蔵2点) 4. 入場料金 一般 630円 大学生 340円 高校生 250円 5. 入場料収入 6,082,970円(目標入場料収入 2,849,000円) 6. 展覧会の内容 現代の木工作家9名をとりあげ、家具という造形芸術の分野を主導的に開拓してきた彼らのスタンダードといえる作品70点 テーブル、椅子、棚・キャビネット、机等 を出陳した。国内外の伝統を基調とする創作と個の造形やデザインへの指向を發揮した創作を作家ごとに配置して個々の特質とオリジナリティを明らかにしたが、なかに作品のテーマに即して実際の生活空間の演出もおり込んだ。9作家70点。 7. 講演会等 作家座談会(出品作家による)本館講堂にて 1回 80人 ギャラリートーク 5回 416名 8. アンケート調査 アンケート回収数 124件(母集団16,935人) アンケート結果 ・良い77.5%(96件)・普通19.4%(24件)・悪い3.1%(4件)	A	近年、注目されている木工家具を総体的に取りあげた企画として評価できる。「座れるイスのコーナー」の設置は企画として優れたものである。 【より良い事業とするための意見等】 家具等デザイン作品の展示の場合は、来館者が使用できるような展示等を検討することが望ましい。
	入館者数	9,000人以上	6,300人以上 9,000人未満	6,300人未満	16,935人	A	
	特集展示[工芸館] 「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」				1. 開会期間 平成15年10月28日～平成15年12月21日 2. 会場 本館ギャラリー4 3. 主催 東京国立近代美術館 工芸館 協力 イサム・ノグチ財団, イサム・ノグチ日本財団, オゼキ 4. 出品点数 48件(うち重要文化財 0件) 5. 入場料金 一般420円 大学生130円 高校生70円 6. 入場料収入は、常設展入場料収入に含まれる。 7. 展覧会の内容 イサム・ノグチがデザインした照明器具「あかり」に焦点をしばり、「あかり」を多角的に紹介。200種類ほどある「あかり」の中から約50点を選んで出品した。照明を使った彫刻作品「ルナー彫刻」を制作していたイサム・ノグチが戦後来日し、建築家谷口吉郎やデザイナー剣持勇らとの交友を通じて日本の地場産業に目を向けるようになり、岐阜の提灯産業と出会ったことにより「あかり」が誕生する。このような「あかり」の誕生の背景を、写真資料等により紹介した。また、過去の「あかり」の展覧会の様子やイサム・ノグチのアトリエの様子を紹介するスライドショー、ビデオ映像等を上映することにより、「あかり」の年代的な変遷も紹介した。 8. 講演会等 4回 170人 9. アンケート調査 アンケート回収数 281件(母集団29,406人) アンケート結果 ・良い73.3%(206件)・普通22.4%(63件)・悪い4.3%(12件)	A	一般的に関心の高いイサム・ノグチがデザインした照明器具「あかり」を作品写真関連資料と共に紹介しており、入場者数も多く評価される。地場産業との関連での制作過程も紹介され、興味深いものとなった。 【より良い事業とするための意見等】 照明器具の展示であり、光の扱いをもっと工夫するなど展示方法について検討することが望ましい。
	入館者数	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満	29,406人	A	
	国立博物館・美術館巡回展「受容と発展：花開く近代洋画」展				1. 開会期間 平成16年2月14日～平成16年3月14日 2. 会場 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 3. 主催 東京国立近代美術館, 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館, 財団法人ミモカ美術振興財団, 丸亀市教育委員会 後援 朝日新聞高松支局, 産経新聞高松支局, 山陽新聞社, 四国新聞社, 日本経済新聞社高松支局, 毎日新聞高松支局, 読売新聞高松総局 4. 出品点数 47件 5. 入場料金 一般 950円 大学生 650円 高校生以下無料 6. 展覧会の内容 東京国立近代美術館, 京都国立近代美術館, 国立国際美術館, 国立西洋美術館が所蔵する、日本人画家が影響を受けた西洋の作品を含む名作47点を通じて、日本近代洋画の展開を概観するもの。 7. 講演会等 講演会 1回 92人 ギャラリートーク 4回 120人 ファミリー・ギャラリートーク 2回 14人	B	地方においても、国立美術館の優れた美術作品を観覧する機会を提供した。対象館が1館にとどまったことは大きな課題である。 【より良い事業とするための意見等】 企画の段階からテーマの検討や観覧者のニーズなど受入館と十分な検討を行うことが望ましい。
	入館者数	5,979人以上	4,185人以上 5,979人未満	4,185人未満	5,588人	B	
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			貸与・特別観覧の件数 (1)本館 貸与 120件, 特別観覧 158件 (2)工芸館 貸与 37件, 特別観覧 52件	A	公私立の美術館等からの要望等に対して応えるものなので、必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが、広く美術品の貸与や特別観覧を行い、広く国民に公開することに貢献した。

				<p>【より良い事業とするための意見等】 東京国立近代美術館の所蔵品を積極的に紹介する機会でもあることから、美術品の保管状態や展示計画等に留意しつつも、貸与要望の主旨を考慮しながら、今後とも幅広く応えることが望ましい。 また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について勘案して、商業利用等については提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 本館 『東京国立近代美術館 所蔵品目録 絵画』(中林和雄他) 「[小企画展]『美術と音楽』によせて」(古田亮) 「[講演会報告]所蔵作品をめぐって《花ひらく木をめぐる抽象》 パウル・クレーの反復の芸術」(三輪健仁) 「[作品研究]麦僊の庭 土田麦僊《舞妓林泉》について」(中村麗子) 工芸館 「松田権六「桜螺鈿椀」と紫陽花寺の「明月碗」(金子賢治) 「内藤四郎「銀流線文箱」(北村仁美) 「稲垣稔次郎「型絵染屏風」に染められた「平家物語」(今井陽子) 「前史雄「沈金箱 朝霧」(諸山正則) 「岩田藤七「ガラス飛文平茶碗」(木田拓也) (2) 展覧会のための調査研究 本館 牛腸茂雄に関する調査研究(牛腸茂雄展:増田玲,保坂健二郎) 昭和10年代の洋画にみられる“地平線”の意味と、その浪漫主義的傾向についての調査研究(「地平線の夢」展)(「地平線の夢」展:大谷省吾,鈴木勝雄) 野見山暁治に関する研究(「野見山暁治展」)(「野見山暁治展」:都築千重子,鈴木勝雄) 現代美術における「旅」のテーマに関する研究(「旅 『ここではないどこか』展」:蔵屋美香,保坂健二郎) 国吉康雄に関する研究(「国吉康雄展」)(「国吉康雄展」:蔵屋美香,尾崎正明) 工芸館 戦後プロダクトデザインの成立と展開に関する研究(「イサムノグチのあかり」展) 現代木工と家具制作の特質についての研究(「現代の木工家具」展) 明治時代の工芸概念の胚胎と変遷のための資料調査(「近代工芸の百年」展) (3) 収集・保管・展示・教育普及に関する調査研究 本館 「東京国立近代美術館の半世紀」連載18「教育普及活動のあゆみ 友の会について(1)」(蔵屋美香) 「東京国立近代美術館の半世紀」連載19「教育普及活動のあゆみ 友の会について(2)」(蔵屋美香) 「東京国立近代美術館の半世紀」連載20「教育普及活動のあゆみ 京橋時代」(一條彰子) 「[教育普及レポート]夏休み!こども美術館」(一條彰子) 「[教育普及レポート]来館者とともに見る・考える MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド」(一條彰子) (4) 科学研究費補助金による調査研究 「日本文化の多重構造 近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年-1980年」(本館) 2. 客員研究員等の招聘実績 工芸館 1名(年度計画記載人数: 工芸館 1人)</p>	<p>A</p> <p>収蔵品や展覧会に直接に関係する調査研究を中心にして着実にを行い、美術品の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしての役割を考えると、調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。国立美術館4館共同の紀要の作成についても、検討していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>
<p>4 教育普及 (1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。 (1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。 (1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。 (5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。 (5)-2 国内外に広く情報を提供することが</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1 資料の収集及び公開 本館 収集件数 5,371件 公開場所 本館アトライブラリ(本館2階) 利用者数 2,315人 貸出件数 5,545件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。) 工芸館 収集件数 3,604件 公開場所 工芸館図書閲覧室(工芸館1階) 利用者数 260人 貸出件数 1,047件(館内閲覧のみ、館外貸出はしていない。) 2 広報活動の状況 刊行物による広報活動 10種 ホームページによる広報活動 本館・工芸館のホームページにおいては、画面上の展覧会情報に会場風景、作品図版、各種トピック及び用語解説(工芸作品)を掲載するほか、最新情報(「トピックス」欄)や、講演会・ギャラリートーク等イベント情報(「イベント」欄)の充実を図った。また、「こどものページ」を開設し、本館・工芸館の所蔵品・展覧会の普及や、春休み等の児童生徒向けプログラムの告知に努めた。さらに、更新頻度を増やして閲覧者の興味を高めるとともに、インターネットにおける情報検索時の露出を向上させるよう努めた。また、平成15年度からの取り組みとして、メールマガジンの発行(毎月発行)を開始し、展示作品や展示予告を始めとして、来館者のニーズに対して、美術館の側から積極的に配信する試みを始めた。 マスメディアの利用による広報活動 本館では、各展覧会開催に際して、雑誌(美術専門誌や情報誌)・新聞・テレビ向けの資料(プレス・</p>	<p>A</p> <p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり実施した。 特に、ホームページへのアクセス件数がかなり伸びていることを評価する。また、公立3館共通のNACSIS図書館所蔵検索システムへの参加を高く評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民に東京国立近代美術館を利用されるように、利用しやすい館の運用と広報を積極的に行っていくことが望ましい。 収蔵品のデジタル化や文化財情報については有料提供も検討を行い、その公開についての取組が望まれる。美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権がその障害となっているため、その対応について検討することが望ましい。</p>

<p>できるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>					<p>リリース)にカラー印刷による図版を掲載し、見所を簡潔に要約するなど、その充実を図った。また、代表的な情報誌「びあ」の展覧会紹介欄を年間枠で買い取り、定期的な広報媒体とするなど、広報力の強化を図った。</p> <p>工芸館では、次の3誌に所蔵品を取り上げた連載を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図っている。</p> <p>ア.「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』 イ.「細部の真実 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(平成15年4月～12月) ウ.「古典が息づく現代の工芸 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(平成16年1月～)</p> <p>また、次の2誌に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。</p> <p>ア.「展覧会情報」『ICLUB』(発行:伊勢丹) イ.「私だけが知っている人間国宝 泣きっ面 ふくれっ面 笑い声」『婦人画報』(発行:アシェット婦人画報社)</p> <p>3 デジタル化の状況 本館 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 480件 工芸館 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 1,100件</p>		
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>				<p>1 児童生徒を対象とした事業 児童生徒を対象とした事業としては、申し込みに基づく随時の講演会、ギャラリートーク、職場見学の受入れ等を行っている。</p> <p>本館 小学校: 7件(246人) 中学校: 10件(83人) 高校: 2件(57人) (参考)小中高校教員の研究会等への協力: 5件 ホームページ内に「こどものページ」を設けている。 ボランティアのガイドスタッフによる子ども向けギャラリートーク(所蔵作品解説)12回 工芸館 中学校: 2件(12人) (参考)大学: 2件(51人)、高校の教員の研究会: 1件 ホームページ内に「こども工芸館」を設けている。 所蔵作品展「近代工芸の名品-花」に関連して、児童生徒を対象としたワークショップ(「花を染める」)を開催した。</p> <p>2 講演会等の事業 本館 講演会 15回 1,599人 ギャラリー・トーク 17回 652人 所蔵品ガイド(ボランティアによる)200回 2,521人 パフォーマンス 1回 118人 工芸館 講演会 0回 0人 対談・座談会ほか 3回 415人 ギャラリー・トーク 39回 1,611人</p>	<p>A</p>	<p>児童生徒を対象とした活動のほか、講演会等を計画どおり実施して、参加者数が増加した。今後は、大学・大学院で専門の勉強を始めた学生等に向けたプログラムについても検討が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 企画をさらに工夫していくため、外部の意見を聞いていく場を作っていくことが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。</p>
	<p>出版件数</p>	<p>「現代の眼」</p>	<p>6回以上</p>	<p>4回以上6回未満</p>	<p>6回</p>	<p>A</p>	
		<p>展覧会案内</p>	<p>1回</p>	<p>1回以上1回未満</p>	<p>1回</p>	<p>A</p>	
	<p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>129,602件以上</p>	<p>90,721件以上129,602件未満</p>	<p>90,721件未満</p>	<p>5,133,194件</p>	<p>A</p>	
	<p>講演会(本館)</p>	<p>回数</p>	<p>8回以上</p>	<p>6回以上8回未満</p>	<p>6回未満</p>	<p>16回</p>	<p>A</p>
		<p>人数</p>	<p>183人以上</p>	<p>128人以上183人未満</p>	<p>128人未満</p>	<p>1,599人</p>	<p>A</p>
		<p>アンケート</p>	<p>80%以上</p>	<p>56%以上80%未満</p>	<p>56%未満</p>	<p>73.6%</p>	<p>B</p>
	<p>ギャラリートーク(本館)</p>	<p>回数</p>	<p>9回以上</p>	<p>6回以上9回未満</p>	<p>6回未満</p>	<p>17回</p>	<p>A</p>
		<p>人数</p>	<p>140人以上</p>	<p>98人以上140人未満</p>	<p>98人未満</p>	<p>652人</p>	<p>A</p>
		<p>アンケート</p>	<p>80%以上</p>	<p>56%以上80%未満</p>	<p>56%未満</p>	<p>77.8%</p>	<p>B</p>
	<p>ギャラリートーク(工芸館)</p>	<p>回数</p>	<p>23回以上</p>	<p>16回以上23回未満</p>	<p>16回未満</p>	<p>39回</p>	<p>A</p>
		<p>人数</p>	<p>208人以上</p>	<p>146人以上208人未満</p>	<p>146人未満</p>	<p>1,611人</p>	<p>A</p>
		<p>アンケート</p>	<p>80%以上</p>	<p>56%以上80%未満</p>	<p>56%未満</p>	<p>70.4%</p>	<p>A</p>

<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>		<p>1 研修の取組 本館 平成15年度は、国立美術館キュレーター実務研修生の受け入れなし。 工芸館 なし</p> <p>2 大学等との連携 [本館] 博物館実習生の受け入れ 平成15年8月25日～平成15年8月29日(5日間)(8人) 大学授業、学界等への協力 8件11回(472人) 生涯学習施設等への協力 6件8回(175人) 大学等との協力のもとに講演会を実施 1件(122人)</p> <p>[工芸館] 博物館実習生の受け入れ 平成15年8月21日～平成15年8月27日(5日間)(4人) 校外授業として熟覧を実施 平成15年7月21日(武蔵野美術大学芸術文化学科5人) 校外授業として熟覧を実施 平成16年1月12日(多摩美術大学工芸学科陶プログラム46人)</p> <p>3 ボランティアの活用状況 本館 登録人数 20名(平成14年12月21日～15年5月10日の研修期間終了後、正式に登録) 平成15年5月23日より、常設展開催期間中の毎日、「MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド」を実施した。 工芸館 登録人数 20名(平成16年5月16日の研修終了後、正式に登録。) 工芸館では平成16年6月から展覧会での解説および触知による作品鑑賞補助のためのボランティア導入を予定している。平成15年度は、ボランティア導入実施に向けて、募集・教育を実施した。</p>	<p>A</p>	<p>公私立の美術館の学芸担当職員への研修については受け入れ希望がなかったため、美術館の学芸員を養成する博物館実習生の受け入れについて計画どおり実施した。 また、新たに常設展のボランティアガイドスタッフを導入した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 公私立の美術館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修の実施に当たってはプログラムを更に検討することが望ましい。また、今後とも、大学・大学院との連携を図っていくことが望ましい。 また、美術館が持つ教育・学習の機能をどのように展開するのかがついて、国立美術館4館で検討していくことが望ましい。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>		<p>下記のとおり、展覧会において各企業から協賛、協力等を得た。 「青木繁と近代日本のロマンティズム」展 協賛：三井不動産、東レ 「旅 - 『ここではないどこか』を生きるための10のレッスン」 助成：モンドリアン財団 協賛：コニカミノルタ 協力：JAL、吉野石膏株式会社 「ヨハネス・イッテン - 造形芸術の道」展 後援：スイス大使館 協力：アサヒビール芸術文化財団 「オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて」 企画協力：ジャムファクトリー・コンテンツラリー・クラフト・アンド・デザイン 協賛：豪日交流基金、オーストラリア・カウンシル 「あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻」 協力：イサム・ノグチ財団、イサム・ノグチ日本財団、オゼキ</p>	<p>A</p>	<p>展覧会等において、企業から協力や助成金を受け、連携を深めてきていると評価できる。 今後とも、より積極的にやっていく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 支援団体にに対し特別内覧会を行うなど、美術館活動を理解してもらうための取組を検討することが望ましい。 今後は、なるべく多くの企業・個人等との関係を強化していくことが望ましい。</p>
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>		<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等</p> <p>(1) 本館 障害者トイレ 3個所(1階 1個所, 2階 1個所, 地下1階 1個所) 障害者エレベータ 2基 段差解消(スロープ) 2個所(正面玄関) 貸出用車椅子 5台(1階)</p> <p>(2) 工芸館 障害者トイレ 1箇所(1階) 障害者エレベータ 1基(1階)(障害者対応ではない) スロープ 1個所(正面玄関) リフト 1基(正面玄関) 貸出用車椅子 3台(1階)</p> <p>2. 観覧環境の充実 音声ガイド(日本語)を「青木繁と近代日本のロマンティズム」展で実施。 (貸出件数 3, 152件(利用率5.56%))</p> <p>3. 夜間開館 51日間</p> <p>4. 昨年度に引き続き、常設展及び共催展における小中学生の入場料無料化を実施。</p> <p>5. 江戸開府400年記念事業 江戸開府400年記念事業「ぐるっとパス(常設展共通入場券)」に参加し、入場料金の低廉化を図った。 本館 6,960人, 工芸館 4,425人, フィルムセンター 3,816人</p> <p>6. 外国人観光客への対応(クーポン券) 「ウエルカムカード」外国人来館者に対し常設展を割引料金とした。 本館 割引利用者 200人(外国人総入場者数 6,083人), 工芸館 割引利用者 40人(外国人総入場者数 3,350人) 常設展フロアプラン(会場ガイド)について、これまでの日・英の二カ国語版に加え、(財)東芝国際交流財団の助成を得て、独・仏・中・韓の4カ国語版を新たに作成。</p> <p>7. 毎月第1日曜日の常設展及び文化の日(特別展も含む)に加え、5月18日「国際博物館の日」も常設展観覧料金を無料化。</p> <p>8. 一般入館者等の要望の反映 ・駅ホーム内の美術館の案内表示の明瞭化、地下鉄出口の交差点の案内板の新設等。 ・「チケットぴあ」との年間販売委託契約による広報活動の促進。 ・四月上旬及びゴールデンウィーク中の月曜日を閉館。また、年末年始について、従来休館日であった12月27日、12月28日、1月2日を閉館。 (年末年始開館日の入場者数：本館 130人(27日), 234人(28日), 291人(2日) 工芸館 101人(27日), 194人(28日), 454人(2日))</p> <p>9. レストラン・ミュージアムショップの充実 ・美術館4階休憩室に飲物の自動販売機(販売価格を安価に設定)を設置。 ・当館主催の特別展・企画展に伴う展覧会の関連書籍コーナーの設置等による販売物の充実。</p>	<p>A</p>	<p>平成14年度から導入した小・中学生の展覧会料金の無料化等の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。 外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献したが、さらに音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことが望ましい。 また、本館と工芸館の回遊性について、今後の利便化が必要である。</p>

【フィルムセンター】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 業務の一元化 本部において、これまで行っている一元化に加え、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等 〔フィルムセンター〕 ア. 電気 使用量 937,178kwh(前年度比 101.40%) 料金 20,352,535円(前年度比 101.53%) イ. 水道 使用量 3,504m³(前年度比 107.00%) 料金 2,053,293円(前年度比 106.88%) ウ. 一般廃棄物 11,720Kg(前年度比 285.16%) 料金 214,009円(前年度比 143.33%) エ. 産業廃棄物 12,850Kg(前年度比 318.86%) 料金 344,448円(前年度比 53.91%) 〔相模原分館〕 ア. 電気 使用量 1,072,286kwh(前年度比 111.39%) 料金 14,883,162円(前年度比 109.69%) イ. 水道 使用量 96m³(前年度比 69.06%) 料金 17,343円(前年度比 65.72%) ウ. 一般廃棄物 - Kg(前年度比 - %) 料金 - 円(前年度比 - %) エ. 産業廃棄物 3,614Kg(前年度比 - %) 料金 310,432円(前年度比 - %)</p> <p>3. 施設の有効利用 小ホール利用率 21.37%(78日/365日) 相模原分館映写ホール利用率 1.64%(6日/365日)</p> <p>4. 外部委託: 15年度も下記の外部委託を行い業務の効率化を図った。 (1)清掃業務 (2)機械設備等維持及び運転管理業務 (3)受付、出札、警備等の会場管理業務 (4)上映ホールの映写業務 (5)夜間及び休館日の機械警備業務 (6)その他、設備関係のメンテナンス業務</p> <p>5. OA化 館内LANは文書ファイルの共有、Eメールによる事務連絡に活用されており、事務の効率化が図られている。</p> <p>6. 一般競争入札 映画フィルムの購入契約は、著作権者との契約による購入となるため、競争入札では入手できない。そのほかは東京国立近代美術館に含まれる。</p> <p>7. 評議員会: 開催回数 2回(平成15年5月28日(水)、平成16年2月25日(水))</p>	A	東京国立近代美術館フィルムセンターについては、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1.1%の効率化を図った。 今後も、フィルムセンター本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。 外部委託については、必要な業務を精選する中で、適切に行っている。
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	<p>1.140%</p> <p>効率化係数計算式 (A - B) ÷ A (2,606,913,713 - 2,577,195,487) ÷ 2,606,913,713 = 0.01140</p> <p>A: (15年度予算額 - 15年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (2,802,149,000 - 210,420,000 - 37,770,199 + 26,885,775) ÷ 0.99 = 2,606,913,713</p> <p>B: 15年度決算額 - 15年度特殊要因決算額 2,762,594,663 - 185,399,176 = 2,577,195,487</p>	B	【より良い事業とするための意見等】 今後も、フィルムセンター本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図ることが望ましい。また、施設の有効利用を一層図る必要がある。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(東京国立近代美術館)</p> <p>近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。美術・工芸に関してはコレクションにより近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。</p> <p>また、映画フィルム等については、残存するフィルムを可能な限り収集するとともに積極的に復元を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 購入 281本</p> <p>2. 寄贈 1,663本</p> <p>3. 寄託 2,375本</p> <p>4. 特記事項</p> <p>平成15年度は、企画上映及び収蔵作品の充実のため日本映画各社の劇映画を中心とした作品を購入するとともに、清水宏監督(2作品)の英語字幕版プリント、アニメーション映画の購入も行った。また、平成8年及び平成10年に調査・確認されたロシア所在の戦前日本劇映画及び文化・記録映画の購入も、前年に引き続き行った。</p> <p>映画フィルムの寄贈に関しては、財団法人川喜多記念映画文化財団から、6月と8月の二度にわたり外国劇映画、文化・記録映画を中心に、『冬の宿』など歴史上貴重な作品である日本劇映画を含む385作品、614本という大量の寄贈を受けた。日本文化・記録映画では、明治末期の企業家の葬儀や大正12年の関東大震災の記録など、資料的価値の高い作品を個人コレクター等から寄贈を受けた。また、平成14年度に引き続き、FIAF会員のジョージ・イーストマン・ハウスとの交換寄贈を行うとともに、ワーナー・ブラザース社から、外国劇映画を主に213作品の大量の永久貸与を受けた。</p> <p>社団法人映像文化製作者連盟を通じた呼びかけに応じて平成13年度から始まった、戦後製作された日本文化・記録映画などの原版フィルムの寄贈は、平成14年度に引き続き大量(9社から原版類344作品/731本、併せて2社からボジフィルム350作品/354本)の寄贈を受けた。日本文化・記録映画の散逸を防ぎ、映像文化・映像資料として将来の活用に備えることを目指して始まったこの事業を、今後とも着実に進展させていきたい。</p> <p>映画フィルムの寄託については、角川大映映画から平成15年5月に2,375作品/12,711缶の原版フィルムの寄託を受けた。</p>	A	フィルムセンターの収集方針に基づき、幅広く映画フィルムを収集し、着実にコレクションの充実を図った。 特に、フィルムセンターの重要性が高まってきていることから、日本文化・記録映画の寄贈・寄託で高い成果を上げた。
							【より良い事業とするための意見等】 フィルムセンターでは日本劇映画の14%しか収集していないため、貴重な映画フィルムの散逸等を防ぐため、その重要性に鑑み、今後とも、積極的に収集することが望ましい。

<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度 (1) フィルムセンター 展示会場 空調実施時間 9:30~18:00 温度 22 ± 2 (ただし、夏季は24 ± 2) 湿度 50% ± 5% *原則として設定された温・湿度で管理を行っているが、外気温度との差により入館者のために最高25までを許容温度としている。 *24時間空調が望ましいが、経費等を考慮して入館時間のみの運転時間としている。 収蔵庫 空調実施時間 10:00~20:00 (ただし、土・日・月曜日は10:00~18:00) 温度 23 ± 2 湿度 55% ± 5% *設備管理要員がいる間のみ運転としているが、地下3階に位置し、収蔵庫に出入りがない場合は、殆ど温・湿度に変化が生じない。</p> <p>(2) 相模原分館 収蔵庫 空調実施時間 24時間 (地下1階保存庫) 温度 10 ± 2 湿度 40% ± 5% (地下2階保存庫) 温度 5 ± 2 湿度 40% ± 5% (特別保存庫) 温度 2 ± 2 湿度 35% ± 5%</p> <p>2. 照明 フィルムセンター7階展示室内のポスター、スチル写真等は100ルクスを上限とするとともに入館者の有無を自動的に感知して照明の起動が行われるように設定し、作品への影響の低減化及び省エネルギー化を行っている。</p> <p>3. 空気汚染 空調熱源に関しては、全て電気で賄っているため、施設設備からの空気汚染は発生していない。</p> <p>4. 防災 (1) フィルムセンター収蔵庫の消火設備は二酸化炭素消火設備を設置 (2) 相模原分館保存庫の消火設備は八口ゲンガス消火設備を設置</p> <p>5. 防犯 (1) フィルムセンターは、各階毎の機械警備(昼夜)の導入により、防犯を実施。 (2) 相模原分館は、各棟毎に機械警備(昼夜)の導入により、防犯を実施。</p>	<p>B</p>	<p>基本的には、温湿度等に配慮した適切な保管がされている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 収集件数が増えていく中で、貴重な国民の財産である映画フィルムを適切に保管するために、必要な体制整備を図っていくことが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 映画フィルム洗浄 120作品(所要経費: 2,765,640円) 映画フィルムデジタル復元 2作品(所要経費: 6,701,875円)</p> <p>2. 修理の記録 洗浄を実施した映画フィルムに関しては、所蔵作品データベース上へ記録を行っている。</p>	<p>B</p>	<p>緊急を要するものから計画的に修復・復元を行った。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、デジタル化への対応についても検討していくことが望ましい。</p>
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3~5回程度 工芸館 年2~3回程度 フィルムセンター 年5~6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6~7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5~6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くこと</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 企画上映等 9番組(中期計画記載回数: 年5~6番組) (企画上映) 「逝ける映画人を偲んで 1998-2001(2)」 「発掘された映画たち2003」 「映画監督 市川崑」 (共催上映) 「シリーズ・日本の撮影監督(1)」 「短篇映像メディアに見る現代日本」 「日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在」 「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」 「小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術」 「特集上映 清水宏 生誕100年」</p> <p>2. 展覧会 2回(内1回は平成14年度から継続) 「展覧会 映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより」展 「映画資料で見る蒲田時代の小津安二郎と清水宏」展 (併設: 展覧会 映画遺産 - 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより)展</p> <p>3. 入館者数 企画上映等 100,010人(平成14年度 78,568人) 展覧会 10,799人(平成14年度 5,811人)</p> <p>4. 優秀映画鑑賞推進事業 176会場</p>	<p>A</p>	<p>幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画上映、地方でも優れた映画を鑑賞する機会を与えた優秀映画鑑賞推進事業、映画について楽しく理解してもらうための「映画遺産」など様々な内容のものをバランス良く企画し、幅広い層が満足する上映会等を行った。また、目標の入館者数約15万6千人を超える約19万2千人が観覧した。</p> <p>フィルムセンターの上映会は、既に映画館で上映されなくなった日本映画、外国映画、無声映画、戦後映画など様々な作品を鑑賞する機会を提供するものとして貴重であり、今後とも積極的に行うことが望ましい。</p> <p>また「発掘された映画たち2003」短編映像メディアに見る現代日本」は、目標入館者数には届かなかったが意欲的な活動であった。</p>
<p>企画上映 「逝ける映画人を偲んで1998-2001(2)」</p>	<p>企画上映の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年4月8日~平成15年5月18日(36日間/72回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 36作品(1作品2回上映): 延72回上映 4. 入場料金 一般500円、高校・大学生300円、小・中学生100円 5. 入場料収入 5,465,800円(目標入場料収入 5,079,780円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容 日本映画界にそれぞれの足跡を残し逝去した映画関係者の業績を代表作品で偲び、回顧する恒例企画である。今回は1998年1月1日から2001年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどを対象とした。4年半ぶりの開催となったため、市川右太衛門、高田浩吉、新珠三千代、吉村公三郎、宮川一夫の各氏をはじめ、90名以上の映画人を94作品・86番組で追悼する大型企画であ</p>	<p>A</p>	<p>日本映画界に輝かしい足跡を残した監督・俳優・技術スタッフなどの映画関係者の作品を集めたもので、そのラインナップだけでも壮観であった。</p> <p>また、目標を上回る者が観覧し、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。</p>

<p>もに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>				り、平成14年度に実施した企画の第2部として36作品を上映した。				
	入館者数	13,000人以上	9,100人以上 13,000人未満	9,100人未満	8. アンケート回収数 39件(母集団13,649人) アンケート調査 良い79.4%(31件)・普通5.2%(2件)・悪い10.0%(0件)	13,649人	A	
企画上映 「発掘された映画たち2003」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開催期間 平成15年5月27日～平成15年7月13日(42日間/84回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 28プログラム/53作品(1プログラム3回上映):延84回上映 4. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 5. 入場料収入 4,651,500円(目標入場料収入 4,884,410円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容 フィルムセンターの映画フィルムの収集・復元・保存事業の成果を集中的に上映する機会として、ロシアの Gosfilmofond で発見された日本映画とその他様々な経緯により収集・復元が可能となった作品を併せ、これまでの「発掘された映画たち」シリーズより大幅に規模を拡大し53作品(28プログラム)を上映した。 8. アンケート回収数 11件(母集団11,767人) アンケート調査 良い72.7%(8件)・普通0.0%(0件)・悪い10.0%(0件)		A	フィルムセンターの映画フィルムの収集・復元・保存事業の成果を集中的に上映したもので、目標入館者数には届かなかったが、映画アーカイブとしての役割を果たす良い企画であった。 【より良い事業とするための意見等】 上映作品による入場者見込み数の検討を十分行い、上映日数やスケジュールを決めることが望まれる。
入館者数	12,500人以上	8,750人以上 12,500人未満	8,750人未満		11,767人	B		
企画上映 「映画監督 市川崑」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開催期間 平成15年7月22日～平成15年10月5日(66日間/126回) 2. 会場 2階大ホール 3. 上映作品数 66作品/63プログラム(1プログラム2回上映):延126回上映 4. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 5. 入場料収入 11,443,400円(目標入場料収入 8,596,560円) 6. 講演会等 初日(7月22日)午後3時の回において市川崑監督の舞台挨拶を実施。 7. 企画上映の内容 大胆な実験精神とスタイリッシュな演出で現在も活躍中の市川崑監督の業績を顕彰する大規模な上映企画である。劇映画はもちろん、アニメーションから記録映画まで幅広い分野の作品を集め、全体を2期に分けて66作品(63プログラム)を上映した。 8. アンケート回収数 22件(母集団27,977人) アンケート調査 良い72.7%(16件)・普通18.1%(4件)・悪い10.0%(0件)		A	現在も活躍してしている市川崑監督の作品を大規模に上映した企画であり企画初日に同監督の舞台挨拶を入れるなど新たな試みも行われた。多くの作品を集めメディアにも多数取りあげられ目標入場者を大きく上回る者が観覧した。
入館者数	17,500人以上	12,250人以上 17,500人未満	12,250人未満		27,977人	A		
共催上映 「シリーズ・日本の撮影監督(1)」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開催期間 平成16年2月3日～平成16年3月28日(48日間/92回) 2. 会場 東京国立近代美術館フィルムセンター2階大ホール 3. 上映作品数 48作品/46プログラム(1プログラム2回上映):延92回上映 4. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 5. 入場料収入 5,557,200円(目標入場料収入 3,907,530円) 6. 講演会等 なし 7. 企画上映の内容 映画の具体的な画面づくりを担う撮影監督の仕事にフォーカスを当て、日本映画の歴史上重要な撮影監督とその作品を選んで上映した。第1期となる今回は、日本映画の勃興期を形作った14名の撮影監督に照準を合わせ、48作品(46プログラム)を上映した。 8. アンケート回収数 30件(母集団14,450人) アンケート調査 良い23.3%(7件)・普通76.7%(23件)・悪い0.0%(0件)		A	撮影監督という新たな切り口による上映企画であり、フィルムセンターならではの企画として評価できる。同様の手法により他のセクション企画も可能であろう。また現代の著名なカメラマンによるトークを行ったり往年の撮影機を展示するなど工夫が見られる。
入館者数	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人未満		14,450人	A		
共催企画上映 「短篇映像メディアに見る現代日本」	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開催期間 平成15年9月16日～平成15年9月28日(12日間/36回) 2. 会場 地下1階小ホール 3. 共催 社団法人映像文化製作者連盟 4. 上映作品数 18プログラム/66作品(1プログラム2回上映):延36回上映 5. 入場料金 一般500円,高校・大学生300円,小・中学生100円 6. 入場料収入 609,800円(目標入場料収入 781,510円) 7. 講演会等 なし 8. 企画上映の内容 本年創立50周年を迎える社団法人映像文化製作者連盟との共催により、戦時中から戦後、現代に至る日本の諸相に関する記録映画、教育映画、産業PR映画、科学映画など多様なノンフィクション映画を紹介し、もう一つの映画文化の豊かさを探った。 9. アンケート回収数 300件(母集団1,639人) アンケート調査 良い84%(252件)・普通6.6%(20件)・悪い10.3%(1件)		A	目標入場者数に届かなかったが、社団法人映像文化製作者連盟と提携したノンフィクション映画の上映を行い、映画の多様性を紹介したことは評価できる。上映作品の大半が寄贈されるなどフィルム収集事業面でも貢献している。
入館者数	2,000人以上	1,400人以上 2,000人未満	1,400人未満		1,639人	B		
共催企画上映 「日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。				1. 開催期間 平成15年10月9日～平成15年10月19日(10日間/20回) 2. 会場 2階大ホール 3. 共催 駐日トルコ大使館		A	現代トルコのアート映画からの厳選であり、上映本数が減ったことにより目標人数には届かなかったが、「日本におけるトル

<p>画の現在」</p>		<p>4. 上映作品数 10作品(1作品2回上映):延20回上映 5. 入場料金 一般800円, 高校・大学生600円, 小・中学生400円 6. 入場料収入 1,857,600円(目標入場料収入1,172,260円) 7. 講演会等 なし 8. 共催上映の内容 「日本におけるトルコ年」を記念して,文化庁の協力のもと,駐日トルコ大使館との共催により,現代トルコのアート映画を代表するゼキ・デミルクブズ監督作品や,スター俳優の出演する商業的なヒット作など,近年評価の高まっているトルコ映画の近作10本を上映した。 9. アンケート回収数 22件(母集団2,751人) アンケート調査 良い68.1%(15件)・普通4.5%(1件)・悪い0.0%(0件)</p>		<p>コ年」を記念する好企画であった。</p>
<p>入館者数</p>	<p>3,000人以上 2,100人以上 3,000人未満 2,100人未満</p>	<p>2,751人</p>	<p>B</p>	
<p>共催企画上映 「聖なる映画作家,カール・ドライヤー」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ,各委員の協議により,評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年10月28日~平成15年11月9日(12日間/24回) 2. 会場 東京国立近代美術館フィルムセンター2階大ホール, 朝日ホール 3. 共催 財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン), 朝日新聞社 4. 上映作品数 8作品(1作品3回上映):延24回上映 5. 入場料金 一般1,500円, 高校・大学生1,400円, 小・中学生1,000円 6. 入場料収入 2,391,500円(目標入場料収入1,367,630円) 7. 講演会等 座談会1回 参加人数227人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) 8. 企画上映の内容 財団法人国際文化交流推進協会(エース・ジャパン), 朝日新聞社との共催により,世界映画史上,著名なデンマークの映画監督,カール・ドライヤーの全長篇作品,主要な短篇作品を複数の会場で上映した。中でもフィルムセンター大ホールでは,その経歴の初期に当たる8本の作品を,英国人伴奏ピアニスト,ニール・ブランド氏の生演奏とともに紹介した。 9. アンケート回収数 10件(母集団5,345人) アンケート調査 良い70%(7件)・普通0.0%(0件)・悪い10%(1件)</p>	<p>A</p>	<p>財団法人国際文化交流協会と朝日新聞社との共催展として複数の会場での上映を行い,地方での古典的な映画上映が可能となったことは評価できる。また,ピアノの生演奏とともに作品を紹介するなど,フィルムセンターならではの意欲的な企画である。</p>
<p>入館者数</p>	<p>3,500人以上 2,450人以上 3,500人未満 2,450人未満</p>	<p>5,345人</p>	<p>A</p>	
<p>共催企画上映 「小津安二郎誕生100年記念 小津安二郎の藝術」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ,各委員の協議により,評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年11月18日~平成16年1月25日(53日間/157回) 2. 会場 2階大ホール 3. 共催 松竹株式会社 4. 上映作品数 41作品(36プログラム)(1プログラム3~5回上映):延157回上映 5. 入場料金 通常上映 一般1,300円, 高校・大学生1,000円, 小・中学生800円 ピアノ伴奏付き上映 一般1,500円, 高校・大学生1,200円, 小・中学生1,000円 6. 入場料収入 8,459,900円(目標入場料収入7,815,050円) 7. 講演会等 シンポジウム1回(2日間) 参加人数 人(詳細は「教育普及」講演会等欄へ) 8. 企画上映の内容 日本映画史上,著名な撮影監督,小津安二郎の生誕100年・没後40年記念として,松竹株式会社の共催により,小津監督の現存する全37作品,さらに小津監督が原作などに関わった関連4作品を紹介した。サイレント映画については,日本の7名のピアニストが生演奏を付けて上映した。 9. アンケート回収数 45件(母集団19,850人) アンケート調査 良い88.8%(40件)・普通6.6%(3件)・悪い%(0件)</p>	<p>A</p>	<p>小津安二郎監督の誕生100年没後40年を記念する企画で,メディアによる作品上映などと重なったため,目標入場者には届かなかったが,全作品を上映した充実した企画であった。サイレント映画に日本のピアニストが生演奏を付けるなどの工夫も評価できる。</p>
<p>入館者数</p>	<p>20,000人以上 14,000人以上 20,000人未満 14,000人未満</p>	<p>19,850人</p>	<p>B</p>	
<p>共催企画上映 「特集上映 清水宏誕生100年」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ,各委員の協議により,評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年11月22日~平成15年11月30日(9日間/26回) 2. 会場 地下1階小ホール及び有楽町朝日ホール 3. 共催 特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会 4. 上映作品数 フィルムセンター:8作品(1作品3回上映):延24回上映 有楽町朝日ホール:2作品(1作品1回上映):延2回上映 5. 入場料金 フィルムセンター:一般1,000円, 高校・大学生800円, 小・中学生600円 有楽町朝日ホール:前売券1,200円, 当日券1,500円 ピアノ伴奏付き上映・S席前売券2,500円, S席当日券3,000円 A席前売券2,000円, A席当日券2,500円 6. 入場料収入 フィルムセンター開催分のみ1,050,900円(目標入場料収入 - 円) 7. 講演会等 なし 8. 企画上映の内容 第4回東京フィルメックスとの共催企画として,小津安二郎と同じく本年生誕100年を迎えた清水宏監督の代表作10本(フィルムセンター小ホール8作品,有楽町朝日ホール2作品)を上映した。すべての作品には英語字幕が付された。 9. アンケート回収数 273件(母集団2,582人) アンケート調査 良い69.9%(191件)・普通2.5%(7件)・悪い0.0%(0件) 10. その他 小津安二郎と同じ2003年に生誕100年を迎える映画監督・清水宏については,誕生日が平成14年度である平成15年3月28日であることや,年度全体の経費上の問題もあり,年度計画には含めなかった。しかし,平成15年度に入ってから,NPO法人東京フィルメックス実行委員会が清水宏の生誕100年記念上映を計画し,フィルムセンターに対し作品借用又は共同開催について打診があった。同委員会と経費や役割分担等について協議した結果,小津安二郎監督特集の時期に,同映画祭の回顧上映部門として,急速,小ホールを会場とし,共催上映することとした。</p>	<p>A</p>	<p>東京フィルメックスとの共催企画で同映画祭の方針に沿い,全作品に英語字幕を付けており,映画祭関係者を始めとする海外からの観客に対しても清水作品を紹介しており評価できる。</p>

入館者数	2,500人以上	1,750人以上 2,500人未満	1,750人 未満	2,582人	A	
「展覧会 映画遺産—東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開催期間 平成15年4月8日～平成15年10月19日(154日間) (平成14年11月26日から継続開催) 平成15年11月18日～平成16年3月28日(102日間) 2. 会場 7階展示室 3. 出品点数 363件(平成15年11月18日から198件に縮小) 4. 入場料金 個人ノ一般200円,大学生70円,高校生40円,小・中学生無料 団体ノ一般100円,大学生40円,高校生20円,小・中学生無料 5. 入場料収入 平成15年10月19日まで397,050円(目標入場料収入 766,320円) 6. 講演会等 なし 7. 展覧会の内容 映画部門専用となったフィルムセンター展示室の開幕企画となった本展は、フィルムセンターの前身であるフィルム・ライブラリー時代から50年の間に収集した膨大な映画資料の中から、映画人の遺品や初期の映画機材など 特に公開の機会が限られていた珍しいコレクション360点あまりを集めて展示する。 8. アンケート回収数 31件(母集団5,305人) アンケート調査 良い80.6%(25件)・普通6.4%(2件)・悪い16.4%(2件)	A	これまでフィルムセンターが収集してきたポスターや映写機などの映画資料から選りすぐったものを展示したもので、入館者が楽しめるようビデオ・モニターや上映など様々な工夫が行われた。
入館者数	5,000人未満	3,500人以上 5,000人未満	3,500人 未満	5,305人	A	
「映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開催期間 平成15年11月18日～平成16年3月28日(102日間) 2. 会場 7階展示室 3. 出品点数 企画展「蒲田時代の小津安二郎と清水宏」 363点 4. 入場料金 一般200円,シニア・大学生70円,高校生40円,小・中学生無料 5. 入場料収入 434,490円(目標入場料収入 459,790円) 6. 講演会等 なし 7. 展覧会の内容 「展覧会 映画遺産」の展示面積を1/2に縮小し、展示室内に新たに企画展用のスペースを確保し、使用して行う最初の展覧会として、小津安二郎と清水宏の生誕100年を記念した上映企画「小津安二郎の藝術」,「清水宏 生誕100年」の関連企画として実施した。2人がデビューし、若き日を過ごした松竹蒲田撮影所時代には、小津が35本、清水が96本の作品を完成させている。しかし、このうちそれぞれ17本、85本が現存していない。今回の企画では、これらの現存しない作品をスチル写真など映画資料363点で回顧した。 8. アンケート回収数 85件(母集団5,494人) アンケート調査 良い27.0%(23件)・普通70.6%(60件)・悪い2.4%(2件)	A	上映企画に関連した展示企画として優れたものであった。同時代の作家二人を比べたことにも意義が感じられる。
入館者数	3,000人以上	1,400人以上 3,000人未満	1,400人 未満	5,494人	A	
優秀映画鑑賞推進事業	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開催期間 平成15年7月10日から平成16年3月13日までの間 2. 会場 栃木県,埼玉県,鹿児島県を除く全国44都道府県の176会場 3. 主催 文化庁,東京国立近代美術館フィルムセンター 協力 (社)日本映画製作者連盟,全国興行生活衛生同業組合連合会 その他 各開催会場において協力等の団体あり 4. 出品点数 20プログラム(各4作品,計80作品) 5. 入館者数 入場者数計:81,293人(目標66,637人以上) 6. 入場料金 500円以内 7. 入場料収入 - 円 8. 内容 「優秀映画鑑賞推進事業」は、文化庁とフィルムセンターが、日本映画製作者連盟,全国興行環境衛生同業組合連合会などの協力のもと、全国各地の公立文化施設などと共同して、優れた日本映画の良質な35mmプリントを提供する巡回上映事業のプログラムである。平成15年度の上映作品は4作品を1プログラムとし、20プログラムでの実施となった。 9. アンケート調査 調査期間 平成15年7月10日～平成16年3月13日 調査方法 アンケート用紙を配布し、集計されたものを各会場より回収する アンケート回収数 15058件(平成16年3月31日までに回答のあった153会場について) アンケート結果 ・良い78%(件)・普通7%(件)・悪い2%(件)・無回答13%(件) 内訳 通常プログラム 13033件(127会場) 有効回答数 13005件 良い78%・普通7%・悪い2%・無回答13% 親子プログラム 大人 1608件(26会場) 有効回答数 1604件 良い75%・普通4%・悪い1%・無回答20% 親子プログラム 子供 449件(22会場) 有効回答数 449件 良い81%・普通2%・悪い13%・無回答4%	A	フィルムセンターが所蔵する優れた映画を、地方においても鑑賞する機会を提供した。また、プログラムの工夫や会場数の増により観覧者数を伸ばし、アンケートでも約8割から「良かった」との回答を得ている。
会場	130会場以上	91会場以上 130会場未満	91会場 未満	176会場	A	
入館者数	66,637人以上	46,646人以上 66,637人未満	46,646人 未満	81,293人	A	

<p>(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。</p>	<p>貸与の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 貸与・特別観覧の件数 映画フィルム 貸与 29件(63本) 特別映写 90件(231本) 複製利用 38件(69本) 映画資料 貸与 8件(116点) 特別観覧 28件(89点)</p>	<p>A</p>	<p>映画に関する研究者や映画祭主催者等に対して、映画フィルムの貸与及び特別映写等を行い、広く国民へ公開することに貢献した。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも、協力を続けていくことが望ましい。また、著作権、フィルム破損等の問題について対応していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究 (1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。 収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等 (1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。 (2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	<p>調査研究の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 ・反町コレクション(衣笠貞之助及び大映関係資料)の調査研究 (2) 展覧会のための調査研究 ・「発掘された映画たち2003」に関する調査研究 ・市川崑監督作品に関する調査研究 ・現代トルコ映画に関する調査研究 ・カール・ドライヤー監督作品に関する調査研究 ・小津安二郎監督作品に関する調査研究 ・日本映画勃興期の撮影監督に関する調査研究 ・蒲田撮影所時代の小津安二郎と清水宏についての調査研究 (3) 保存・修理に関する調査研究 ・アメリカの無声映画の残存率についての調査研究(デイヴィッド・ピアス論文の翻訳) ・スウェーデンにおける映画保存、アーカイヴについての調査研究 ・アメリカにおける映画保存、アーカイヴについての調査研究(ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館) ・カラー映画フィルムの褪色に関する世界の取り組みについての調査研究(FIAF会議での講演と報告) ・デジタル技術を用いた映画フィルムの修復に関する調査研究 ・ナイトレート・フィルムの保存と修復に関する調査研究 (4) 映画関係資料に関する調査研究 平成14年度の「展覧会 映画遺産」のために発掘した最古の和製映写機(早稲田大学演劇博物館所蔵)については研究員レベルで調査結果をまとめ所蔵館にも報告を行ったほか、関係者の所在などもつきとめた。 (5) 研究活動の活用等 当センターの調査研究の成果は、隔月で発行している「NFCニュースレター」に掲載した。NFCニュースレターは、大学等の研究機関、図書館等の団体と映画研究者や評論家等の約700件に配布し、研究者等の参考に資している。 (6) シンポジウムの開催 ダン・ニッセン講演会 上映企画「聖なる映画作家、カール・ドライヤー」の関連イベントとして、ドライヤー映画の保存と研究の専門家ダン・ニッセン氏を講師として招聘し、講演会を行った(開場は朝日ホール) 小津シンポジウム 小津安二郎生誕100年記念の共催上映、展示企画にあわせて、朝日新聞社、松竹(株)、国際交流基金とシンポジウムを共同で開催した。小津に関する高い国際的評価を反映して、国の内外から著名な映画監督、評論家を集めての大規模な会合となった。 ヨハン・プライス講演会 世界的な映画フィルムの修復技術者ヨハン・プライス氏を講師として招聘し、ナイトレート・フィルムの保存と修復に関して包括的な講演会を開催した(立命館大学、鳥取県三朝町との共催企画)。 (7) 特別映写等による外部への研究協力 大学等の映画に関する研究・教育等及び映画製作等の製作のための調査への協力の一つとして特別映写の機会を提供している。この制度を活用して、平成15年度は、4月から東京芸術大学の映像・舞台芸術実験授業に、10月からNPO法人映画美学学校が主催する映画上映専門家養成講座の上映講義への協力を、継続的に行った。8月には協力事業として小ホールで開催された、東京大学大学院文化資源学研究室等主催によるシンポジウム「関東大震災と記録映画～都市の死と再生」に関わる特別映写を行った。また、早稲田大学、成城大学、明治学院、武蔵野美術大学、京都造形芸術大学、立命館大学などの映画研究者や、アメリカ、イギリス、スペイン等海外の日本映画研究者にも、論文執筆や研究発表のために特別映写の機会を提供した。その他、撮影監督協会、シナリオ作家協会、NPO法人日本映画映像文化振興センター等映画関連団体の研修や、「丹下左膳」の再映画化や「森は生きている」の舞台化等に際して、映画制作会社や劇団等に協力した。</p> <p>2. 客員研究員等の招聘実績(年度計画記載人数: 3人) (1) 所蔵映画フィルムの総合的なデータ分析とカタログ及び目録作成 客員研究員氏名: 北小路隆志(千葉大学非常勤講師, 他) 研究内容: 戦前期の所蔵日本ニュース映画の目録作成のために、各プリント内容の調査研究、データの集積及び必要に応じて不足分データの補充と、データベースとして全体の統一を図るための調査研究。 (2) 所蔵映画関連資料に関するデータ構築と総合的な研究調査及び書誌作成 客員研究員氏名: 安澤秀太(フリー編集者, 翻訳者) 研究内容: 平成10年度にNHK放送文化研究所から寄贈された「反町茂雄コレクション」(映画監督・衣笠貞之助の生涯資料ならびに映画会社・大映の内部資料)の整理・特定・分類調査、ならびに登録・データベースの構築(継続)。 (3) 外国映画に関する事業等の企画の共同研究 客員研究員氏名: 溝口彰子(フリー翻訳者) 研究内容: 平成15年度以降に実施を検討している上映事業にかかわる調査、及びFIAF加盟の同種機関との映画史的、アーカイブ的な事例に関する調査等。</p>	<p>A</p>	<p>収蔵品や展覧会に関する調査研究は着実に進められ、映画フィルムの収集、展覧会及びニュースレターの発行等に成果を上げた。 その他にも、外部の研究者との連携・協力により、例えば、韓国映像資料院等と共同で充実した調査研究が行われた。 【より良い事業とするための意見等】 調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。</p>
	<p>客員研究員招聘人数</p>	<p>3人以上 2人以上 3人未満 2人未満</p>	<p>3人</p>	<p>A</p>	

<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 資料の収集及び公開</p> <p>(1) 件数 995件(目標 - 件)</p> <p>(2) 公開場所 フィルムセンター図書室(4階)</p> <p>(3) 公開日数 174日間</p> <p>(4) 公開件数等</p> <table border="1"> <tr><td>利用者数</td><td>3,174人</td></tr> <tr><td>公開資料数</td><td>22,377件</td></tr> <tr><td>閉架利用件数</td><td>1,067件</td></tr> <tr><td>複写利用数</td><td>1,290件(16,953枚)</td></tr> </table> <p>2. 広報活動の状況</p> <p>(1) 刊行物による広報活動</p> <p>NFCニューズレター 偶数月発行(発行回数6回,発行部数6冊)(年度計画記載発行回数6回)</p> <p>カレンダー(上映会予定表) 企画番組毎1回発行(発行回数6回)(年度計画記載発行回数6回)</p> <p>(2) ホームページによる広報</p> <p>フィルムセンターでの一般的な利用案内のほか、企画上映等の催し物案内やフィルムセンター刊行物・映画に関してフィルムセンターが取り組んでいる事業などを紹介し、映画鑑賞の普及や映画文化の振興に努めている。平成15年度は新たに「NFCメールマガジン」を創刊し、フィルムセンターの企画や刊行物に関する最新情報を発信している。</p> <p>(3) マスメディアの利用による広報活動</p> <p>各上映会毎にプレスリリースをマスコミ各社へ送付するとともに一般雑誌へ積極的に広報を依頼し、共催上映等の特別な事業については、その都度、記者内見会を実施し、広報普及に努めている。</p> <p>3. 所蔵作品のデジタル化</p> <p>(1) 所蔵映画フィルムについてのデータベース構築のための文字情報のデジタル化を実施。</p> <p>平成15年度にデジタル化したデータ件数 1,944件(目標 - 件)</p> <p>平成15年度末収蔵作品数 36,508件</p> <p>平成15年度末デジタル化作品数 36,508件</p> <p>(2) 所蔵映画関係資料についてのデータベース構築のための文字情報のデジタル化を実施。</p> <p>平成15年度にデジタル化したデータ件数 7,747件(ID付与の作業分を除く)</p> <p>平成15年度末収蔵資料数 約44,400件(スチル写真及びポスター,撮影台本)</p> <p>平成15年度末デジタル化資料数 53,886件</p>	利用者数	3,174人	公開資料数	22,377件	閉架利用件数	1,067件	複写利用数	1,290件(16,953枚)	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、ニューズレター等の発行、映画に関する情報のデジタル化など計画どおり実施した。</p> <p>ホームページは、所蔵図書の検索システムを公開する等の充実を図り、アクセス件数を伸ばした。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>文字情報のデジタル化を一層図っていくことが望ましい。</p>
利用者数	3,174人												
公開資料数	22,377件												
閉架利用件数	1,067件												
複写利用数	1,290件(16,953枚)												
<p>(2) 新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3) 美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業</p> <p>(1) 小・中・高校生を対象とした「こども映画館」の実施</p> <p>実施日数 10日(19回)(平成14年度実績12日(24回))</p> <p>参加者数 1,293人(平成14年度実績959人)</p> <p>(2) 相模原分館における児童生徒を対象とした上映会</p> <p>実施回数 2回(平成14年度実績5回)</p> <p>参加者数 214人(平成14年度実績401人)</p> <p>2. 講演会等の事業</p> <table border="1"> <tr><td>シンポジウム</td><td>1回</td><td>1,538人</td></tr> <tr><td>講演会</td><td>2回</td><td>378人</td></tr> </table>	シンポジウム	1回	1,538人	講演会	2回	378人	<p>A</p>	<p>子どものための「こども映画館」などの、児童生徒を対象とした活動の他、講演会などを計画どおり着実に実施した。</p> <p>また、小津安二郎シンポジウムは好評だった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>「こども映画館」や講演会などに多くの国民が参加できるように、広報やプログラムを、一層工夫することが望ましい。</p>		
シンポジウム	1回	1,538人											
講演会	2回	378人											
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 人材養成</p> <p>(1) 映画製作専門家養成講座</p> <p>研修期間 4日間</p> <p>開催場所 東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール</p> <p>参加者数 101人(内修了者数60人)(平成14年度実績115人)</p> <p>担当した研究員数 2人</p> <p>事業内容</p> <p>平成15年度で第7回を数える映画製作専門家養成講座は、平成9年度の第1回から日本映画の黄金時代(1950年代)を築き上げた数々の映画人を講師に迎え、映画をめぐる技と匠を次世代の映画人に継承することを目的として実施されてきた。第3回までは映画作りの部門別に講座を開催してきたが、第4回からは映画芸術に多大な功績を残した人物の業績をたどった。今回は、現在、活躍中の人物を迎えて、講師自らが継承してきたものを探りつつ、受講生が映画製作を学べる場を提供している。</p> <p>2. 大学等との連携</p> <p>(1) 博物館実習生の受け入れ</p> <p>受入期間 平成15年7月29日~平成15年8月2日(5日間)</p> <p>参加者数 12人(平成14年度実績9人)</p>	<p>A</p>	<p>映画の専門的知識を有する者に対する映画製作専門家養成講座や博物館実習生の受入等について計画どおり実施した。特に、現場のベテランを講師に迎えて行った養成講座は高く評価したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>ボランティア等として、大学生・大学院生、また映画関係者について活用を図っていくことを検討することが望ましい。</p>								

<p>(6)-2 企業との連携等，国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。</p>	<p>1. 企業等との連携 共催上映の実施 ・「短篇映像メディアに見る現代日本」(社団法人映像文化製作者連盟) ・「日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在」(駐日トルコ大使館) ・「聖なる映画作家，カール・ドライヤー」(財団法人国際文化交流推進協会，朝日新聞社) ・「清水宏 生誕100年」(NPO法人東京フィルメックス実行委員会) ・「小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術」(松竹株式会社) 「こども映画館」を実施するに当たり，企業の協力により記念品の提供を行った。 講演会等の実施 ・「小津安二郎シンポジウム」(朝日新聞社，松竹株式会社，国際交流基金) ・「ヨハン・ブライス講演会」(立命館大学，鳥取県三朝町)</p>	<p>A</p>	<p>共催上映，講演会などについて増加しているのは，広報の面で大きな成果を上げているからであると評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も，引き続き，積極的に行うことが望ましい。</p>
<p>7. その他の入館者サービス (1)-1 高齢者，身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため，各館の方針に従って展示方法，表示，動線，施設設備の工夫，整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため，観覧環境の整備プログラム等を策定し，計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し，調査結果を展示等に反映させるとともに，必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに，見やすさにも配慮する。また，音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し，入者に対するサービスの向上を図る。 (2)入館者のニーズを把握，分析し，夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など，入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い，気軽に利用でき，親しまれる美術館となるよう努力する。 (3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど，入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ，各委員の協議により，評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 1 箇所 (1 階 1 箇所) 障害者エレベータ 2 基 段差解消 (スロープ) 1 箇所 (正面玄関) 貸出用車椅子 2 台 (1 階) 自動ドア 1 箇所 (正面玄関) 展示室内の映像モニター鑑賞用に椅子を配置 2. 観覧環境の充実 7階展示室での映像モニターの導入により，わかりやすい展示環境を整備した。 3. 夜間開館等の実施状況 (1) 上映開始時間の変更 平成14年度に引き続き，平日夜の回の上映開始時間を30分繰り下げ，午後7時からとした。 (3) 入場者料金の取り組み ア. 小中学生の入場料の低廉化の一環として，展示室の小中学生料金を無料とした。 イ. 展示室の学生料金を大学生料金と高校生料金に分け，高校生料金を下げることで，料金の低廉化を図った。 ウ. 65歳以上の入館者に対する観覧料金は学生料金を適用した。 エ. 上映会観覧当日に限り，展示室観覧料は団体料金を適用した。 (4) その他の入館者サービス ア. 館内での案内情報の充実 ・ 1階受付カウンターで館内の案内情報の提供を行っている。 ・ 1階，2階，4階及び7階の来館者が利用できるフロアにパンフレット台を設置し，上映プログラムや展覧会等のチラシを配布した。 イ. 休憩スペースの充実 7階展示ロビーに開設した「映画の広場」を来館者の休憩場所とした。 4. 一般入館者等の要望の反映 開場前に並んでいる入場者の便宜を図るため，2階エレベータホールへ18席の椅子及び上映会場入口へ通じる階段部の踊り場へ椅子を設置した。 5. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3) レストランは火曜日から金曜日は午前10時30分から午後8時30分，土曜日及び日曜日は午前10時30分から午後6時まで営業。 フィルムセンターでは，施設規模の面からミュージアムショップ等のスペース確保が難しいため，会場入口の受付において出版物等の販売の実施。</p>	<p>A</p>	<p>平成14年度から導入した小・中学生の展覧会料金の無料化に続いて，上映開始時間の変更等による入館者サービスの向上に努めた。</p>

【京都国立近代美術館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。 具体的には、下記の措置を講ずる。 (1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化 (2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進 (3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進 (4)外部委託の推進 (5)事務のOA化の推進 (6)連絡システムの構築等による事務の効率化 (7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 業務の一元化 平成13年度から実施したものに、情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2. 省エネルギー等(リサイクル) (1)光熱水量 引き続き通知文書の発信、節水・節電の励行等、職員に対し省エネルギーの啓蒙を行った。平成14年度と比較すると、水道使用量は節約し得たが、電気、ガス使用量は増加した。これは、夏季において気温が平年並みに高い上、降水量が平年に比して多かったため、温度・湿度の管理を前年より強力に行う必要があり、その動力である電気・ガスの使用量が増加したことによる。夏季の降水量が多く庭樹の散水回数が減少したため水道料使用量を減少できたが、使用量単価が上昇したことにより使用料は増加した。しかし、光熱水料全体の金額比は1.7%減少している。これは、水道使用量の節約と電気使用量単価の低下によるものである。 ア. 電気 使用量 1,242,221kwh (平成14年度比 103.14%) 料金 22,418,115円 (平成14年度比 96.62%) イ. 水道 使用量 7,034 m³ (平成14年度比 90.65%) 料金 3,100,994円 (平成14年度比 89.55%) ウ. ガス 使用量 125,202 m³ (平成14年度比 106.54%) 料金 6,031,771円 (平成14年度比 101.50%)</p> <p>(2) 棄物処理量 一般廃棄物量の減少について、展覧会のディスプレイ製作の際、使用する資材の使用量を抑制し、これに伴い発生する廃棄物量も抑制した。館内LANによる通知文書の発信及びファイルサーバーの更新に伴うサーバー保存文書の共通利用、会議資料他の両面コピー等により更なるペーパーレス化を推進した。産業廃棄物量の減少について、平成14年度の館内清掃・整理作業の際、大量に大型ごみ等を処分したため、平成15年度は廃棄物が多く発生しなかった。また、耐用年数を超過している物品でも利用可能な物は廃棄せず使用している。 ア. 一般廃棄物 16,390Kg (平成14年度比 92%) 料金 0円 (平成14年度比 0%) イ. 産業廃棄物 130Kg (平成14年度比 3%) 料金 73,650円 (平成14年度比 23%)</p> <p>3. 施設の有効利用 展覧会のイベントとして講演会やシンポジウムを行い、他に団体鑑賞申込時に展覧会解説の申し出があれば、可能な限り、解説を行った。また、博物館実習、中学生のチャレンジ体験にも使用した。これらの内、施設使用許可書の発行と使用料の徴収(一部無料)を行って、各種団体に対し講堂・会議室等の使用を許可した。 講堂等の利用率 23% (84日/366日)</p> <p>4. 外部委託 引き続き下記の業務につき外部委託を実施した。 1. 電気・機械設備運転管理業務 3. 機械警備業務 5. レストラン運営業務 2. 清掃業務 4. 収入金等集配金業務 6. ミュージアムショップ運営業務</p> <p>5. OA化 館内LANの整備状況 全館内に整備されており、各職員(含非常勤職員)が1台ずつパソコンを使用できる環境にある。ファイルサーバーを更新しサーバー内の文書フォルダを整備したことによりフォルダ内の文書を共通利用でき、また、電子メールにより事務連絡を行っている。</p> <p>6. 一般競争入札 一般競争入札件数 10件(総契約件数 36件) 本来、美術館は所蔵作品を多数保有しているという点、また、観覧者サービスという点から、一般競争入札は相応しくないが、経費節減に鑑み、平成14年度に引き続き清掃業務、電気・機械設備運転管理業務他について一般競争入札を行っている。</p>	<p>A</p> <p>京都国立近代美術館については、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1.5%の効率化を図った。 今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。 外部委託については、必要な業務を精選する中で、適切に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図ることが望ましい。また、施設の有効利用を一層図る必要がある。</p>			
	<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>	<p>1.0%未満</p>	<p>1.465% 効率化係数計算式 (A - B) ÷ A (511,585,014 - 504,090,618) ÷ 511,585,014 = 0.01465 A : (15年度予算額 - 15年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (516,920,000 - 10,697,169 - 0 + 246,333) ÷ 0.99 = 511,585,014 B : 15年度決算額 - 15年度特殊要因決算額 696,022,573 - 191,931,955 = 504,090,618</p>	<p>B</p>	

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。 (京都国立近代美術館) 近代美術史における重要な作品など近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域性に立脚した収蔵品の充実に配慮する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 購入 36件</p> <p>2. 寄贈 222件</p> <p>3. 寄託 38件</p> <p>4. 陳列品購入費 予算額 218,917,000円 決算額 407,945,000円</p> <p>5. 特記事項 当館の活動を支援してきた堂本印象記念近代美術振興財団が解散するにあたり、その基本財産が当館に寄贈され、当館はこれを作品購入にあてることとして受贈した。そのため平成15年度は例年の予算に191,231,955円が加わったため、通常では購入することが困難な高額の作品、坂本繁二郎 松間馬、堂本印象 江上の鷓舟、村上華岳 冬ばれの山 の3点をこれによって収集することができた。なお、この他に陶芸では八木一夫の黒陶6点など、日本画では富岡鉄斎、竹内栖鳳、菊池契月などの京都画壇の作家の優作や前田青邨、安田靉彦などの東京画壇の作家の秀作、山崎隆、大野淑高、下村良之介など戦後の前衛的日本画家の作品を収集した。洋画については須田国太郎の代表作をはじめ黒田重太郎、三井文二らの記念的作品、写真ではユージン・スミスの作品10点を収集した。また、日本画家、上田萬秋、小川千鶴、土田麦僊、三輪晃勢、神阪松涛、秦テルヲ、?本一洋、洋画家、田村宗立、伊藤久三郎、関根勢之助、版画家、川西英、テキスタイルデザイナー、粟辻博などの遺族から作品及び資料の寄贈を受けるとともに、染織の磯邊晴美、日本画の下保昭、洋画の田淵安一、片山昭弘、版画の川西祐三郎など作家自身からの寄贈もあった。さらに川西英旧蔵の『白と黒』などの版画誌及び資料のまとまった寄贈も今回の特色であった。なお、平成15年度は寄託作品として新たに38件が加わり、オディロン・ルドンやモリス・ユトリロ、パブロ・ピカソのほか、小磯良平、佐伯祐三などの洋画、北野恒富、中村大三郎などの日本画を受託し、所蔵品の欠を補うことができた。</p>	A	<p>京都国立近代美術館の収集方針に基づき、展覧会の出品交渉など地道な活動を通じて美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図った。特に、堂本印象記念近代美術振興財団の解散をきっかけに、その基本財産等を得た収集活動は大きい。</p> <p>特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、美術館への高い信頼によって大きな成果を上げた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、メディア・アートに対する対応を考えていくことが望ましい。また、購入・寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。</p>		
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	保管の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 温湿度 (1) 展覧会場 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季22±1 夏季25±1 湿度 冬季57±2% 夏季53±2% * 展覧会により設定は異なる。 * 入館者が入ったときの温湿度管理について * 1日4回温度と湿度を測定している。 * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。</p> <p>(2) 収蔵庫(24時間空調は行っていない) 空調実施時間 9:00~17:00 温度 冬季21±1 夏季23±1 湿度 50%(ただし、日本画・染織・漆芸は57±2%) * 24時間空調を行わない理由 建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を行う必要がない。</p> <p>2. 照明作品を劣化させる紫外線を含まない蛍光灯などの照明を使用している。</p> <p>3. 空気汚染 年2回ばい煙測定を行うことにより大気汚染物質を排出しないよう監視している。 また、燻蒸は実施していない。</p> <p>4. 防災 管理室・機械室において自動火災報知器により管理している。時間外は機械警備により管理。</p> <p>5. 防犯 時間中は監視による巡回警備を行い、時間外は機械警備により管理している。</p> <p>6. 特記事項 保存カルテ作成件数は258件である。 収蔵品の保存及び管理環境の維持充実を図るため美術品の種類、保管場所等の違いにより、温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限にとどめるよう努力しており、損傷もなく現在に至っている。展覧会場や収蔵庫は24時間空調を行っていないが、これは建物の設計上外気の影響を受けにくい構造であるため、閉館後空調を止めても作品保存の上で影響はない。むしろ現実に対応した省エネ型の保存対応と考えている。なお、平成15年度からは当館所蔵品による全国的巡回展を開始し、当年度は日本画作品を巡回したため、日本画作品を点検する好機となった。</p>	A	<p>温湿度や照明などに配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術作品は貴重な国民の財産であるため、外部の研究者の協力を得ることや、より良い保存環境の整備のために収蔵庫の改修等を計画的に行っていくことが望ましい。また、保存状況の記録カードについては、国立美術館各館共通化に努力することが望ましい。</p>		
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	修理の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 日本画 17件 洋画 1件 緊急に修復を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野毎に計画的に修復を行った。</p> <p>2. 決算額 円(決算額については、追って記載)</p> <p>3. 修理経費 予算額 16,228,000円 決算額 11,002,971円</p> <p>4. その他 修理報告書は各作品について作成しているが、データベース化については引き続き検討中である。</p> <p>5. 特記事項 収蔵時に修理を必要とするものであっても、そのために格安で購入したり、あるいは寄贈を受けることで、タイミングを逃さず収蔵することに積極的に取り組んでいる。そのため収蔵後数年を経て修理する場合もあるが、各年度当初において、中・長期的にみて緊急を要するもの(傷み具合、早期展示の必要性等)から順に修理を行うべく計画性をもって対応している。今回は平成13年度に寄贈を受けた山口八九子の作品を集中的に修理し、近く常設展のテーマ展示としてその成果を公開する予定である。なお、修理業者に対しては、修理の方法について美術史的な観点から指導するとともに、鑑賞的な観点から表具や額装についても指導を行っている。</p>	A	<p>緊急を要するものから計画的に修理を行った。また、修理データも確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 今後は、保存科学の専門職員をおくことが望ましいが、外部の専門家との連携を図っていくことが望まれる。また、保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>		
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設</p>	展覧会の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 常設展 (展示替 13回)</p> <p>2. 特別展・共催展 10回 「知られざる西アフリカの美術 富と権力、王国2000年の歴史」</p>	A	<p>京都国立近代美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、「神坂雪佳」など地域性を生かした国民の関心をよ</p>		

展・企画展や企画上映を実施する。
 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。
 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。

- (東京国立近代美術館)
本館 年3～5回程度
工芸館 年2～3回程度
フィルムセンター 年5～6番組程度
- (京都国立近代美術館)
年6～7回程度
- (国立西洋美術館)
年3回程度
- (国立国際美術館)
年5～6回程度

(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。

(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。
 (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。
 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となる

よう努める。
 また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。
 (3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。

常設展		<p>「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展」 「横尾byヨコオ：描くことの悦楽 - イメージの遍歴と再生」展 「神坂雪佳展 - 琳派の継承・近代デザインの先駆者」 「オーストラリア現代工芸3人展：未知のかたちを求めて」展 「ヨハネス・イッテン - 造形芸術への道」 「デカダンから光明へ 異端画家・秦テルヲの軌跡 - そして竹久夢二・野長瀬晩花・戸張孤雁・・・」 「京都国立近代美術館コレクションから 日本洋画の130年-見つめ、感じ、表現する画家たち-」展 「彫刻家 堀内正和の世界展」 「東松照明の写真1972-2002」</p> <p>3. 入館者数 364,311人(目標入場者数343,000人) 4. 国立美術館巡回展 1回 12,422人 京都国立近代美術館巡回展 5回 40,763人</p>	
<p>1. 開会期間 305日間(所蔵品展のみの開催期間46日間) 2. 会場 4階常設展場 3. 出品点数 延1,921件 4. 入場料金 一般420円(210円),大学生130円(70円),高校生70円(40円),中学生以下無料()内は団体 5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計3,332,860円)(目標入場料収入5,010,000円) 6. アンケート回収数 1,705件(母集団18,211人) アンケート結果 ・良い 39.8%(678件)・普通 27.9%(475件)・悪い 3.5%(59件)・無記入 20.6%(351件)</p>	<p>126,000人以上 88,200人以上 88,200人以上 126,000人未満 126,000人未満 126,000人未満</p>	<p>124,885人</p>	B
<p>企画展 「知られざる西アフリカの美術 富と権力、王国2000年の歴史」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成15年4月4日(金)～5月11日(日)(33日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館 後援 ナイジェリア大使館, NHK京都放送局, JAL日本航空株式会社, 京阪電鉄 企画協力 アプトインターナショナル 4. 出品点数 218件 5. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料()内は前売り・団体 6. 入場料収入 4,551,510円(目標入場料収入9,160,000円) 7. 展覧会の内容 広大なアフリカ大陸の中でも、特に豊かな歴史と多様性を誇る西アフリカ地域の美術を総合的に紹介。 8. 講演会等 1回 参加人数 59人 9. アンケート回収数 139件 アンケート結果 ・良い72.7%(101件)・普通17.3%(24件)・悪い2.2%(3件)・無記入7.9%(11件)</p>	B
<p>共催展 「韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展」展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成15年5月20日(火)～6月29日(日)(36日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館, 韓国国立中央博物館, 朝日新聞社, NHK京都放送局, NHKきんきメディアプラン 後援 外務省, 文化庁, 駐日韓国大使館, 韓国文化院, 日韓文化交流会議, 京都府, 京都市, 京都府教育委員会, 京都市教育委員会 助成協力 日韓文化交流基金, 東亜日報社, 全日空, 日本貨物航空, アシアナ航空 4. 出品点数 70件 5. 入場料金 一般1,200円(1,000円)/大・高生800円(600円)/中・小生以下無料()内は前売り・団体 6. 入場料収入 8,743,210円(目標入場料収入11,540,000円) 7. 展覧会の内容 韓国国立中央博物館が所蔵する日本の近代美術品から横山大観, 錦木清方らの日本画45点, 松田権六, 前大峰らの工芸25点の計70点を日本で初公開した。 8. 講演会等 2回 参加人数 102人 9. アンケート回収数 467件 アンケート結果 ・とても良かった46.0%(215件)・良かった40.3%(188件)・まあまあ9.2%(43件)・あまり良くなかった0.4%(2件)・良くなかった0.0%(0件)・無記入4.1%(19件)</p>	B
<p>入館者数</p>	<p>55,000人以上 38,500人以上 38,500人以上 55,000人未満 55,000人未満 55,000人未満</p>	<p>46,070人</p>	B

り強く喚起した企画展、地方にも優れた美術作品を鑑賞する機会を与えた国立美術館及び館独自の地方巡回展など様々な内容のものをバランス良く行った。目標入館者に届かなかったのは、その数を増やすだけの企画に安易に走らず、館の方針を貫いたためと思われるが、企画や広報を工夫し多くの国民に観覧してもらえるよう努力する必要がある。なお、他の館と比べて展示面積が狭い中で健闘している。

【より良い事業とするための意見等】
 観覧者のニーズへ、どのように対応するのか、また広報のあり方についても検討することが望ましい。

京都近代美術館の方針に基づいて体系的に収集した約8千点の収蔵品(寄託品を含む)により、各館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、年間13回、延べ約1900点におよぶ展示替えや企画展に合わせたテーマ展を意欲的に行うなど、入館者に楽しんでもらえるよう努力した。今後とも、多くの国民に常設展を観覧してもらえるよう、効果的な広報を検討することが望ましい。

【より良い事業とするための意見等】
 限られた展示スペースの中での効果的な展示の在り方について検討することが望ましい。

美術史的にも多彩な地域であると西アフリカの美術を紹介する日本で初めての展覧会で画期的である。日本での関心が高くない分野の企画については広報活動などへの配慮が十分行われることが必要である。

【より良い事業とするための意見等】
 広報に関するより一層の努力が必要である。

韓国国立中央博物館が収蔵する日本の近代美術作品約200点の「幻のコレクション」から約70点を展示したもので日韓の歴史を踏まえた意義ある展覧会であった。話題性の高い展覧会ではあったが、入場者数は目標に達せず広報の在り方に検討を要する。

【より良い事業とするための意見等】
 広報の在り方について十分検討し、努力することが望ましい。

企画展 「横尾byココオ 描く ことの悦楽：イメージ の遍歴と再生」展	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評定 を決定する。	1. 開会期間 平成15年7月8日(火)～8月17日(日)(36日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館 広報協力 毎日新聞社 協力 京阪電鉄 4. 出品点数 216件 5. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/ 高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料 ()内は前売り・団体 6. 入場料収入 8,882,010円(目標入場料収入 9,590,000円) 7. 展覧会の内容 作家自身が自作と対話しながら、自作の中から重要ないくつかのイメージ展開を分析し ていく。過去に制作された150点と新たに制作された20点を鍵に作家自身が「現在」 という視点から自作を再構成する。 8. 講演会等 2回 参加人数 480人 9. アンケート回収数 439件 アンケート結果 ・とても良かった29.8%(131件)・良かった37.8%(166件) ・まあまあ18.0%(79件)・あまり良くなかった4.3%(19件) ・良くなかった1.4%(6件)・無記入8.7%(38件)	A	若い年齢層の来館者が多かったことは評 価できる。横尾忠則が舞台美術を担当した 新作狂言「王様と恐竜」を美術館特設舞台 で上演したことも企画にふさわしいもので ある。 【より良い事業とするための意見等】 作家が「美術館と共に作る展覧会」は、 観覧者が求めているものと考えられ、現代 美術においてはそれを念頭においた企画を 行うことが望まれる。
入館者数	19,000人 以上 13,300人以上 19,000人未満 13,300人 未満	22,145人	A	
共催展 「神坂雪佳 琳派の継 承・近代デザインの先 駆者」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評定 を決定する。	1. 開会期間 平成15年8月30日(土)～10月13日(月・祝)(39日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館、パーミングハム美術館(米国)、朝日新聞社 後援 京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NHK京都放送局 協力 日本航空、国際交流基金、サントリー文化財団、E・ローズ&レオナ・B・カーペンター 財団、合衆国芸術基金、ブレイクモア財団、メトロポリタン東洋美術研究センター 4. 出品点数 250件 5. 入場料金 一般1,200円(1000円・900円)/大学生800円(600円・500円)/ 高校生600円(400円・300円)/中学生以下無料 ()内は前売り・団体 6. 入場料収入 6,917,780円(目標入場料収入 4,868,000円) 7. 展覧会の内容 明治から昭和初にかけて京都で活躍した、画家・図案家である神坂雪佳(1866-1942) の戦後初の回顧展。国内外に所蔵される作品・資料250件で、絵画・工芸両分野にわた る活動の全域に迫る。 8. 講演会等 3回 参加人数 292人 9. アンケート回収数 501件 アンケート結果 ・とても良かった43.1%(216件)・良かった39.9%(200件) ・まあまあ10.6%(53件)・あまり良くなかった0.8%(4件) ・良くなかった0.2%(1件)・無記入5.4%(27件)	A	神坂雪佳の戦後初の回顧展で、内容も充 実しており、海外で評価の高い作家の再発 見といった点からも評価できる。アメリカ のパーミングハム美術館との共催も意義あ るものである。 【より良い事業とするための意見等】 作家の再発見、再評価という観点からの 企画にも積極的に取り組むことが望まれ る。
入館者数	21,000人 以上 14,700人以上 21,000人未満 14,700人 未満	36,497人	A	
企画展 「オーストラリア現代 工芸3人展 未知のか たちを求めて」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評定 を決定する。	1. 開会期間 平成15年9月9日(火)～10月13日(月・祝)(31日間) 2. 会場 京都国立近代美術館4階常設展場 3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館、アジアリンク 企画協力 ジャム・ファクトリー・コンテンポラリー・クラフト・アンド・デザイン 協賛 豪日交流基金、オーストラリア・カウンシル 4. 出品点数 27件 5. 入場料金 一般420円(210円)/大学生130円(70円)・高校生70円(40円)/ 中学生以下無料 ()内は団体 6. 入場料収入は常設展入場料収入に含まれる。 7. 展覧会の内容 オーストラリア現代クラフトの最新動向を、陶芸、木工、金工の分野から3人の作家 27点を選び紹介。 8. 講演会等 1回 参加人数 108人 9. アンケート回収数 142件 アンケート結果 ・良い36.6%(52件)・普通41.5%(59件)・悪い9.9%(14件) ・無記入12.0%(17件)	A	3人の女性工芸家の作品を展示した企画 で、オーストラリアの現代工芸には一般の 関心が薄いのか入館者は少なかったが、海 外関係機関との交流や連携の推進が図られ たことの意義は認められる。 【より良い事業とするための意見等】 新分野の紹介や規模の小さな企画展示の 場合は、広報する対象をどこに向けるか十 分に検討することが望ましい。
入館者数	5,000人 以上 3,500人以上 5,000人未満 3,500人 未満	21,709人	A	
特別展 「ヨハネス・イッテン 造形芸術への道」展	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評定 を決定する。	1. 開会期間 平成15年10月21日(火)～11月30日(日)(36日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館、東京国立近代美術館 後援 スイス大使館 協力 アサヒビール芸術文化財団、京阪電鉄 4. 出品点数 350件 5. 入場料金 一般830円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/ 高校生250円/(200円・130円)/中学生以下無料 ()内は前売り・団体 6. 入場料収入 6,656,890円(目標入場料収入 5,840,000円) 7. 展覧会の内容 スイスのヨハネス・イッテン財団で企画された美術教育資料をもとにした展示を第1部 とし、これにわが国独自にイッテンの作品80点を加えた第2部、さらにイッテンと日本 のかわりを示した第3部によって構成。 8. 講演会等 2回 参加人数 164人 9. アンケート回収数 200件 アンケート結果 ・とても良かった26.2%(107件)・良かった45.5%(186件)	A	作家、教育者としてのヨハネス・イッテ ンを紹介する我が国最初の企画として非常 に充実していた。若い年齢層の来館が多い ことも評価できる。

				・まあまあ15.2%(62件)・あまり良くなかった2.0%(8件) ・良くなかった0.7%(3件)・無記入10.5%(43件)		
入館者数	11,000人以上	7,700人以上 11,000人未満	7,700人 未満	16,115人	A	
共催展 「デカダンから光明へ 異端画家 秦テルヲ の軌跡—そして竹久夢 二・野長瀬挽花・戸張 孤雁・・・」	法人による自己点検評価の結果を踏 まえつつ、各委員の協議により、評定 を決定する。			1. 開会期間 平成15年12月9日(火)~平成16年1月25日(日)(33日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場 3. 主催 京都国立近代美術館, 日本経済新聞社, 京都新聞社 後援 京都府, 京都市, 京都府教育委員会, 京都市教育委員会 4. 出品点数 200件 5. 入場料金 一般1,100円(1,000円・900円)/大学生800円(700円・500円)/ 高校生400円(300円・200円)/中学生以下無料()内前売り・団体 6. 入場料収入 1,575,310円(目標入場料収入 4,448,000円) 7. 展覧会の内容 秦テルヲと彼と交流のあった竹久夢二, 野長瀬挽花, 戸張孤雁らの作品約200点によ って, 秦テルヲの芸術の軌跡と彼が生きた時代を辿る。 8. 講演会等 1回 参加人数 104人 9. アンケート回収数 341件 アンケート結果 ・とても良かった25.8%(88件)・良かった44.0%(150件) ・まあまあ16.4%(56件)・あまり良くなかった2.1%(7件) ・良くなかった0.3%(1件)・無記入11.4%(39件)	B	京都画壇で活躍した秦テルヲの初めての 回顧展であり、京都国立近代美術館で開催 されたことは評価できる。地道な研究成果 の現れであり企画展を通じて多くの作品や 資料が発見されたことも注目される。 【より良い事業とするための意見等】 広報の在り方について十分検討し、努力 することが望ましい。
入館者数	20,000人以上	14,000人以上 20,000人未満	14,000人 未満	12,350人	C	
共催展 「京都国立近代美術館 コレクションから 日 本洋画の130年—見 つめ、感じ、表現する 画家たち—」				1. 開会期間 平成16年2月3日(火)~3月7日(日)(30日間) 2. 会場 京都国立近代美術館3階企画展示場及び4階常設展場の一部 3. 主催 京都国立近代美術館, 京都新聞社 後援 京都府教育委員会, 京都市教育委員会 4. 出品点数 150件 5. 入場料金 一般800円(700円・560円)/大学生450円(350円・250円)/ 高校生250円(200円・130円)/中学生以下無料()内前売り・団体 6. 入場料収入 2,636,380円(目標入場料収入 3,064,000円) 7. 講演会等 2回 参加人数 86人 8. アンケート回収数 341件 アンケート結果 ・とても良かった25.8%(88件)・良かった44.0%(150件) ・まあまあ16.4%(56件)・あまり良くなかった2.1%(7件) ・良くなかった0.3%(1件)・無記入11.4%(39件)	A	コレクションによって近現代の日本洋画 の流れが一望できる展示であり、コレク ションのみで構成された企画展に目標を上回 る来館者があった意義は大きい。
入館者数	10,000人以上	7,000人以上 10,000人未満	7,000人 未満	14,934人	A	
テーマ展示 「東松照明の写真1 972-2002」				1. 開会期間 平成15年4月8日(火)~平成15年5月5日(月)(25日間) 平成15年6月24日(火)~平成15年7月27日(日)(30日間) 平成15年7月29日(火)~平成15年8月31日(日)(30日間) 平成15年10月15日(水)~平成15年11月24日(月)(36日間) 平成15年12月23日(火)~平成16年2月8日(日)(33日間) 平成16年3月9日(火)~平成16年4月4日(日)(24日間) (平成16年3月9日(火)~平成16年3月31日(日)(20日間)) 2. 会場 京都国立近代美術館4階常設展場 3. 主催 京都国立近代美術館 4. 出品点数 全305件(36, 50, 50, 75, 36, 58) 5. 入場料金 一般420円(210円)/大学生130円(70円)・高校生70円(40円)/ 中学生以下無料()内団体 6. 入場料収入は常設展入場料収入に含まれる。 7. 展覧会の内容 1950年代から現代まで、日本写真界の最前線で活躍を続けている東松照明の業績を 全6回のシリーズで紹介する。 8. 講演会等 1回 参加人数 62人 9. アンケート回収数 351件 アンケート結果 ・良い 26.8%(94件) ・普通 36.5%(128件) ・悪い 4.8%(17件) ・無記入 31.9%(112件)	A	一年間に6回という連続した展示で多く の写真を紹介したのは興味深い試みであ る。しかし、6回にわけたことで、何度も 来館しなくてはならず、必ずしも鑑賞する 側に立った方法とは言えない側面もあり、 検討が必要であろう。
入館者数	55,000人以上	38,500人以上 55,000人未満	38,500人 未満	57,381人	A	
国立美術館巡回展 「独立行政法人国立美 術館所蔵 日本画名品 展 美しい日本の四 季」展				1. 開会期間 平成16年1月2日(金)~平成16年2月1日(金)(27日間) 2. 会場 鹿児島市立美術館 3. 主催 京都国立近代美術館, 鹿児島市立美術館, 南日本新聞社 後援 鹿児島県, 鹿児島市教育委員会 特別協賛 仁田尾の知覧茶園 協力 鹿児島音協 4. 出品点数 50件 5. 入場料金 一般(大学生以上)1,000円(800円)/高・中生500円(400円)/ 小学生200円()内は前売り 6. 展覧会の内容 京都国立近代美術館, 東京国立近代美術館が所蔵する近代日本画を代 表する秀作から四季の花鳥画を中心に展示した。	A	地方においても、国立美術館の優れた美 術作品を観覧する機会を提供した。対象館 が1館にとどまったことは大きな課題であ る。 【より良い事業とするための意見等】 企画の段階からテーマの検討や観覧者の ニーズなど受入館と十分な検討を行うこと が望ましい。

			<p>7. 講演会等 1月18日 1,409人「美しい日本の四季と花鳥画」京都国立近代美術館学芸課長 島田康寛</p> <p>8. アンケート回収数 193件 アンケート結果 ・良い 68%(131件)・普通 21%(42件)・悪い 7%(14件) ・無記入 3%(6件)</p>		
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>貸与・特別観覧の件数</p> <p>貸与 73件(662点)</p> <p>特別観覧 74件(387点)</p>	A	<p>公私立の美術館等からの要望等に対して応えるものなので、必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが、広く美術品の貸与や特別観覧を行い、広く国民に公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 京都国立近代美術館の所蔵品を積極的に紹介する機会でもあることから、美術品の保管状態や展示計画等に留意しつつも、貸与要望の主旨を考慮しながら、今後とも幅広く応えることが望ましい。 また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について、使用者やその目的等を勘案して、商業利用等については提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2)調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 収蔵品の調査研究 新収日本画作品についての調査研究 所蔵洋画作品についての調査研究</p> <p>2. 展覧会のための調査研究 ドイツ工作連盟に関する調査研究 韓国国立中央博物館所蔵の近代日本美術品についての同館との共同研究 神坂雪佳の総合的研究(アメリカ・パーミングハム美術館との共同研究) 横尾忠則の総合的研究 中央アジアの染織を中心とする工芸の調査研究 秦テルヲの総合的研究(笠岡市立竹橋美術館との共同研究) ヨハネス・イッテンに関する調査研究(スイス・ベルン美術館との共同研究) 堀内正和に関する調査研究(神奈川県立近代美術館との共同研究) オーストラリア現代工芸に関する調査研究(東京国立近代美術館との共同研究) 東松照明に関する調査研究 他の美術館等における調査研究に対する協力 ・亀井茲明コレクションに関する総合研究(科学研究費補助金・東京大学大学院人文社会系研究文化資源学専攻) ・京都を中心とした、日本の伝統工芸の過去・現在・将来(国際日本文化研究センター) ・水木コレクションの形成過程とその史的意義(国立歴史民族博物館)</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 琳派の系譜 その継承と交流 - 神坂雪佳を中心(日本学術振興会)</p> <p>4. その他助成金 ヘルマン・ムテジウスおよび日本とドイツの言説 - 1887~1891年(鹿島美術財団)</p>	A	<p>収蔵品や展覧会に直接に関係する調査研究を中心にして着実にを行い、美術品の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしての役割を考えると、調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。国立美術館4館共同の紀要の作成についても、検討していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>
<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。 また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普</p>	美術館に関する情報の収集及び公開の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	<p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 1,256件</p> <p>2. 広報活動の状況 刊行物による広報活動 3種 ホームページによる広報活動 マスメディアの利用による広報活動</p> <p>3. デジタル化の状況 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 500件(目標500件)</p>	A	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり実施した。特に、ホームページへのアクセス件数がかなり伸びていることを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民に京都国立近代美術館を利用されるように、利用しやすい館の運用と広報を積極的に行っていくことが望ましい。 収蔵品のデジタル化や文化財情報については有料提供も検討を行い、その公開についての取組が望まれる。美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権がその障害となっているため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開していくことが望ましい。 他の美術館・美術系大学図書館等との連携を積極的に進めていくことが望ましい。</p>

<p>及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>京都国立近代美術館所蔵名品集「洋画」</p> <p>展覧会カレンダー</p> <p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>1回以上</p> <p>3回以上</p> <p>88,000人以上</p>	<p>-</p> <p>2回以上 3回未満</p> <p>61,600人以上 88,000人未満</p>	<p>0回</p> <p>2回未満</p> <p>61,600人未満</p>	<p>1回</p> <p>3回</p> <p>233,521件</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>	
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p> <p>子供のためのワークショップ</p> <p>企画展における講演会</p> <p>大学との協力によるシンポジウム</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p> <p>1回以上</p> <p>2回以上 1回未満</p> <p>1回以上</p> <p>1回以上</p>	<p>-</p> <p>6人以上 8人未満</p> <p>1回以上 2回未満</p> <p>536人以上 766人未満</p> <p>56%以上 80%未満</p> <p>-</p> <p>41人以上 58人未満</p>	<p>0回</p> <p>0回</p> <p>1回未満</p> <p>536人未満</p> <p>56%未満</p> <p>0回</p> <p>41人未満</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 ワークショップ 4回 子ども168人 保護者43人 生き方探究・チャレンジ体験 7回(2日間) 20人</p> <p>2. 講演会等の事業 講演会 12回 993人(平成14年度実績 1,394人) シンポジウム 2回 136人(平成14年度実績 72人) スーパー狂言 1回 300人</p> <p>4回</p> <p>14回</p> <p>993人</p> <p>70.6% (回答数378件) ・良い 70.6%(267件)・普通 20.1%(76件) ・悪い 1.9%(7件)・無記入7.4%(28件)</p> <p>1回</p> <p>80人</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p>	<p>児童生徒を対象とした活動のほか、講演会等を計画どおり実施して、参加者数が増加した。今後は、大学・大学院で専門の勉強を始めた学生等に向けたプログラムについても検討が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 企画をさらに工夫していくため、外部の意見を聞いていく場を作っていくことが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。</p>
<p>(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。</p> <p>(4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員(キュレーター)の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。</p> <p>(4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。</p> <p>(4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。</p> <p>(6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。</p>	<p>研修等の取組み状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>			<p>1. 研修の取組 美術館等運営研究協議会の開催 73人(2日間)</p> <p>2. 大学等との連携 博物館実習生の受け入れ 34人(5~10日間)</p> <p>3. ボランティアの活用状況 平成15年度は展覧会聞き取りアンケート及び図録等発送作業を実施 延べ208名</p>	<p>A</p>	<p>公私立の美術館の学芸担当職員への研修については受け入れ希望がなかったが、大学等との連携については成果があった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 公私立の美術館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修の実施に当たってはプログラムを更に検討することが望ましい。また、今後とも、大学・大学院との連携を図っていくことが望ましい。 また、美術館が持つ教育・学習の機能をどのように展開するののかについて、国立美術館4館で検討していくことが望ましい。</p>
<p>(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。</p>	<p>渉外活動の状況</p>				<p>1. (社)京都市観光協会との連携 (社)京都市観光協会が実施している「京都修学旅行パスポート」事業に協賛し、小中学生の入場料無料化とは別に「京都修学旅行パスポート」を持参の修学旅行の高校生を団体料金で入場できるようにした。また、受付にて絵はがきのプレゼントを、喫茶にて割引サービスを実施した。</p> <p>2. 京都織物卸商業組合との連携 京都織物卸商業組合が実施している「京都きものパスポート」事業に協賛し、きもの産業の活性化及び入館者増を図るため、きもの着用者に特別入場料金を団体料金で優待。</p> <p>3. 京都市交通局との連携 京都市交通局が「スルッと関西」交通網を利用して実施する「京都1dayチケット」事業へ協賛し、当該チケット利用者に対し特別展料金を前売料金で優待。</p> <p>4. 京都市と京都陸上競技協会との連携 京都市と京都陸上競技協会とが実施する「京都シティーハーフマラソン」に協賛し、当該マラソン参加者に対し、共催入場料金を団体料金扱いとした。</p> <p>5. 京都市産業観光局との連携 京都市が制定した「伝統産業の日」に因み実施する事業に協賛し、きもの着用者を常設展を無料とした。</p> <p>6. (財)大阪21世紀協会との連携 (財)大阪21世紀協会が発行する関西で唯一の英・日併記の情報誌「MEET OSAKA」に関西地区の美術</p>	<p>A</p>	<p>展覧会等において、企業や地元の地域から協力や助成金を受け、連携を深めてきており、地道な努力が成果を上げつつあると評価できる。 今後とも、より積極的に行っていく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 支援団体に対し特別内覧会を行うなど、美術館活動を理解してもらうための取組を検討することが望ましい。 今後は、なるべく多くの企業・個人等との関係を強化していくことが望ましい。</p>

			<p>館、博物館が展覧会情報を掲載し、経済界と連携した広報活動を行い、日本を訪れる外国人の入場者増を図る。</p> <p>7. 単独開催展覧会の前売券の発売 民間企業とのタイアップし、利用者のチケット入手の利便性を高めるとともに、入場者増を図った。</p> <p>8. (財)京都市駐車場公社との連携 (財)京都市駐車場公社と連携し、岡崎公園駐車場を利用の有料入館者に対し、駐車場料金の割引をした。</p> <p>9. 朝日友の会との連携 朝日友の会事業と連携し、会員(朝日メイト)に対し、企画展(一部除く)観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>10. (社)日本自動車連盟(JAF)との連携 (社)日本自動車連盟(JAF)と連携し、JAF会員に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>11. 京都学生祭典との連携 京都学生祭典「学生の日」に協賛し、期間中、「京都学生祭典クーポン券」を提示の利用者に対し、常設展及び企画展の観覧料金を団体料金扱いとした。</p> <p>12. 「関西元気文化圏」への参加 文化庁が提唱した「関西元気文化圏」へ参加し、展覧会ポスター、チラシ等にロゴマークを印刷するなど。</p> <p>13. 「関西文化の日」への協力 関西広域連携協議会及び関西元気文化圏推進協議会が実施する「関西文化の日」事業に協力し、11月1日～3日までの常設展及び11月3日の企画展観覧料金を無料とした。</p> <p>14. 「国際博物館の日」事業への協力 (財)日本博物館協会が実施する「国際博物館の日」事業に協力し、5月18日の常設展料金を無料とした。</p> <p>15. トマト倶楽部との提携 京都新聞社のトマト倶楽部事業と提携し、会員に対し、企画展観覧料金を団体扱いとした。</p>																																								
<p>7. その他の入館者サービス</p> <p>(1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。</p> <p>(1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。</p> <p>(1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>	<p>その他の入館者サービスの状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 (1)-1</p> <table border="0"> <tr><td>障害者トイレ</td><td>1個所(1階 1個所)</td></tr> <tr><td>障害者エレベーター</td><td>1基</td></tr> <tr><td>段差解消(スロープ)</td><td>3個所(正面玄関、喫茶室)</td></tr> <tr><td>貸出用車椅子</td><td>5台(座席昇降機能付き2台を含む)</td></tr> </table> <p>2. 観覧環境の充実 (1)-2, (1)-4</p> <p>(1) 音声ガイド</p> <table border="0"> <tr><td>展覧会名</td><td>韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展</td></tr> <tr><td>貸出期間</td><td>平成15年5月20日～6月29日</td></tr> <tr><td>貸出件数</td><td>2,762件(利用率 6%)</td></tr> </table> <p>3. 夜間開館等の実施状況 (1)-3</p> <p>(1) 夜間開館実施状況</p> <table border="0"> <tr><td>ア.開催日数</td><td>24日間(4月4日～10月13日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)</td></tr> <tr><td>イ.入館者数</td><td>1,899人(総入場者数 17,589人,夜間開館入場率 10.8%)</td></tr> </table> <p>(2) 小中学生の入場料の低廉化 昨年に引き続き、平成15年度開催の全ての共催展で小中学生の無料化が実現した。</p> <p>(3) (2)以外の入場者料金の取り組み方 平成15年4月1日から常設展の学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施するとともに、特別展の高校生料金の低廉化を実施した。</p> <p>(4) その他の入館者サービス</p> <p>4. アンケート調査 (1)-3</p> <table border="0"> <tr><td>調査期間</td><td>平成15年5月20日～6月29日(4日間)「日本近代美術展」</td></tr> <tr><td></td><td>平成15年7月24日～7月27日(4日間)「横尾byヨコオ」</td></tr> <tr><td></td><td>平成15年9月18日～9月21日(4日間)「神坂雪佳展」</td></tr> <tr><td></td><td>平成15年11月6日～11月9日(4日間)「ヨハネス・イッテン」</td></tr> <tr><td></td><td>平成15年12月18日～12月21日(4日間)「秦テルヲの軌跡」</td></tr> <tr><td></td><td>平成16年3月4日～3月7日(4日間)「日本洋画の130年」</td></tr> </table> <p>調査方法 各展覧会会期中の4日間にボランティアによる聞き取りアンケートを実施した。また、館内にアンケート箱を設置しており、入館者の意見を随時受け入れている。</p> <p>アンケート回収数 2,636件</p> <table border="0"> <tr><td>とても良かった</td><td>32.3%(851件), 良かった</td><td>43.9%(1157件)</td></tr> <tr><td>まあまあだった</td><td>14.2%(375件), あまり良くなかった</td><td>1.8%(48件)</td></tr> <tr><td>良くなかった</td><td>0.4%(11件), 無記入</td><td>7.4%(194件)</td></tr> </table> <p>アンケート結果 立地、施設、展示内容については概ね70点以上の評価を得たが、観覧料金、接客で60点程度の評価であった。</p> <p>5. 一般入館者等の要望の反映 (2) 京都国立近代美術館では、常時アンケート調査を実施しており、苦情、要望等への迅速な対応のほか、入館者のニーズの把握に努め、例えば、作品内容を解説した説明パネルやキャプションの文字を見やすく大きくしたり、館内案内表示の増設等を行った。</p> <p>6. レストラン・ミュージアムショップの充実 (3) 喫茶室では食器類のデザインを一新し、展覧会ごとのテーマメニューの提供を行った。また、喫茶室の禁煙化を実施した。ミュージアムショップでは、関西経済連合会の主宰による「ミュージアムグッズの共同開発」の一員となり、お客様の要望に応える商品開発に取り組み始めた。</p>	障害者トイレ	1個所(1階 1個所)	障害者エレベーター	1基	段差解消(スロープ)	3個所(正面玄関、喫茶室)	貸出用車椅子	5台(座席昇降機能付き2台を含む)	展覧会名	韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展	貸出期間	平成15年5月20日～6月29日	貸出件数	2,762件(利用率 6%)	ア.開催日数	24日間(4月4日～10月13日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)	イ.入館者数	1,899人(総入場者数 17,589人,夜間開館入場率 10.8%)	調査期間	平成15年5月20日～6月29日(4日間)「日本近代美術展」		平成15年7月24日～7月27日(4日間)「横尾byヨコオ」		平成15年9月18日～9月21日(4日間)「神坂雪佳展」		平成15年11月6日～11月9日(4日間)「ヨハネス・イッテン」		平成15年12月18日～12月21日(4日間)「秦テルヲの軌跡」		平成16年3月4日～3月7日(4日間)「日本洋画の130年」	とても良かった	32.3%(851件), 良かった	43.9%(1157件)	まあまあだった	14.2%(375件), あまり良くなかった	1.8%(48件)	良くなかった	0.4%(11件), 無記入	7.4%(194件)	<p>A</p> <p>平成14年度から導入した小・中学生の展覧会料金の無料化等の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。</p> <p>外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献したが、さらに音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことが望ましい。</p>
障害者トイレ	1個所(1階 1個所)																																										
障害者エレベーター	1基																																										
段差解消(スロープ)	3個所(正面玄関、喫茶室)																																										
貸出用車椅子	5台(座席昇降機能付き2台を含む)																																										
展覧会名	韓国国立中央博物館所蔵 日本近代美術展																																										
貸出期間	平成15年5月20日～6月29日																																										
貸出件数	2,762件(利用率 6%)																																										
ア.開催日数	24日間(4月4日～10月13日までの特別展・共催展開催期間中の金曜日午後8時まで)																																										
イ.入館者数	1,899人(総入場者数 17,589人,夜間開館入場率 10.8%)																																										
調査期間	平成15年5月20日～6月29日(4日間)「日本近代美術展」																																										
	平成15年7月24日～7月27日(4日間)「横尾byヨコオ」																																										
	平成15年9月18日～9月21日(4日間)「神坂雪佳展」																																										
	平成15年11月6日～11月9日(4日間)「ヨハネス・イッテン」																																										
	平成15年12月18日～12月21日(4日間)「秦テルヲの軌跡」																																										
	平成16年3月4日～3月7日(4日間)「日本洋画の130年」																																										
とても良かった	32.3%(851件), 良かった	43.9%(1157件)																																									
まあまあだった	14.2%(375件), あまり良くなかった	1.8%(48件)																																									
良くなかった	0.4%(11件), 無記入	7.4%(194件)																																									

【国立西洋美術館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化、リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	効率化の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			<p>1.業務の一元化 情報公開制度の共通的な事務を一元化し、本部を中心とした文書管理システムを稼働人事記録、給与計算等の人事事務、収入、支出、保険契約等の会計事務及び保険請求事務等共済事務で各館で行っていたもののうち、共通的な事務を本部へ一元化し、業務の効率化を図っている。</p> <p>2.省エネルギー等 ア.電気 使用量 5,386,322kwh (平成14年度比100.37%) 料金 76,600,148円 (平成14年度比90.48%) イ.水道 使用量 24,145m³ (平成14年度比 95.77%) 料金 18,462,660円 (平成14年度比95.57%) ウ.ガス 使用量 677,691m³ (平成14年度比 95.21%) 料金 32,825,167円 (平成14年度比98.42%) エ.一般廃棄物 20,960Kg (平成14年度比 83.09%) 料金 388,592円 (平成14年度比83.09%) オ.産業廃棄物 8,460Kg (平成14年度比 81.70%) 料金 217,842円 (平成14年度比81.70%)</p> <p>3.施設の有効利用:講堂等の利用率 25.7% (94日/365日)</p> <p>4.外部委託:平成15年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。 (1)会場管理業務 (2)設備管理業務 (3)清掃業務 (4)保安警備業務 (5)機械警備業務 (6)情報案内業務 (7)広報物等発送業務 (8)美術館情報システム等運用支援業務 (9)収入金等集配金業務 (10)レストラン業務 (11)ミュージアムショップ業務 (12)ホームページサーバ運用管理業務 (13)ホームページ改訂・更新業務</p> <p>5.OA化:全館内にLANが整備されており、館内LANシステムの活用による職員への連絡業務効率化、ペーパーレス化を推進し、共通情報の各種ファイルを共有化することによって事務の省力化を図っている。また、収入、支出、財産管理等企業会計を効率的に処理するための会計情報システムを導入し、各種伝票作成時に帳簿類へ自動記帳化を図るなど、事務処理の正確・迅速化及び、省力化が成されるよう努めている。</p> <p>6.一般競争入札:代替性の無い、極めて貴重な文化遺産である西洋美術作品を所蔵しているため、保安上の観点から会場管理業務、清掃業務については指名競争入札を実施している。また、複数の業者から見積書を徴収するなどして市場調査を行い、コストに対する意識を高め、経費の削減に努めている。</p> <p>7.評議員会:開催回数 1回(平成15年6月9日(月))</p> <p>8.研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善 放送大学・同大学院受講、TOEIC・英検受験、英会話研修、消防訓練、普通救命講習、接遇研修の実施、文部科学省、人事院、日本博物館協会及びその他外部機関等研修への積極的な派遣を行い、研修等を通じて職員の資質の向上及び組織の活性化が図られた。</p>	A	国立西洋美術館については、業務全般については、一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1.7%の効率化を図った。 今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。 外部委託については、必要な業務を精選する中で、適切に行っている。
	効率化の達成率	1.5%以上	1.0%以上 1.5%未満	1.0%未満	<p>1.661%</p> <p>効率化係数計算式 (A - B) ÷ A (973,722,075 - 957,547,368) ÷ 973,722,075 = 0.01661</p> <p>A:(15年度予算額 - 15年度特殊要因額 - 次年度債務繰越額 + 前年度債務繰越額) ÷ 0.99 (964,699,000 - 0 - 38,775,235 + 38,061,089) ÷ 0.99 = 973,722,075</p> <p>B:15年度決算額 - 15年度特殊要因決算額 960,811,268 - 3,263,900 = 957,547,368</p>	A	【より良い事業とするための意見等】 今後は、メディア・アートに対する対応を考えていくことが望ましい。寄贈、寄託の件数を増やすとともに、その活用を図っていく必要がある。また、購入・寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>(国立西洋美術館) 中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	美術作品の(購入・寄贈・寄託)の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			<p>1.購入 123件</p> <p>2.寄贈 1件</p> <p>3.寄託 1件</p> <p>4.特記事項 平成15年度購入絵画作品は、国内のコレクターが所蔵していたジョルジュ・ド・ラ・トゥールの《聖トマス》である。これは、すでに平成14年度に寄託作品として当館で預かり、展示していた作品である。昨年の段階で、すでに購入候補としてあがっていたものであるが、作品帰属に慎重を期し、とりあえず、寄託作品として預かり、十分な時間をかけて調査をおこなったものである。寄託制度のひとつの運用方法として、今後ともこのような方法も積極的に考えていきたい。</p>	A	国立西洋美術館の収集方針に基づき、展覧会の出品交渉など地道な活動を通じて美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図っていることは評価できる。 特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、美術館への高い信頼によって大きな成果を上げた(ラ・トゥール「聖トマス」など)。
							【より良い事業とするための意見等】 今後は、メディア・アートに対する対応を考えていくことが望ましい。寄贈、寄託の件数を増やすとともに、その活用を図っていく必要がある。また、購入・寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。

<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世へ伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵品を適切な環境で管理・保存する。また、保存体制の整備・充実を図る。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 温湿度(空調実施時間 24時間) 展示会場 作品への影響を最低限とするため、下記範囲の中で一定の温湿度となるよう努めている。 通 期： 温度 20～22 湿度 50～55% 夏期のみ： 温度 22～24 湿度 50～55% 夏期の展示会場内温度については、来館者へ配慮し温度を2度高く設定している。 温度 20～22 湿度 50～55% 2. 照明 器具： 蛍光灯(紫外線カット)、スポットライト(紫外線・赤外線カットフィルター) 照度： 紙作品などの光に弱いもの 50ルクス以下 それ以外の作品 200ルクス以下 3. 空気汚染 館内数十箇所において空気汚染調査を継続的に行っている。また、各種工事後には必ず空気測定を行い、発生した有害物質が無くなったことを確認後に作品を展示している。 4. 防災 監視 火災総合受信盤及び監視カメラによる監視。(中央監視室・総合受付)、消火設備、自動火災報知器を設置 防災対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防災マニュアル(地震、火災、停電)の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行っている。 平成15年10月14日(火)及び平成16年3月8日(月)に、上野消防署の立会い、指導の下、消防・消火訓練、災害時作品搬出訓練、119番通報訓練を行った。訓練後、更に手際良く消火活動を行えるよう、館全体の消火器等の配置図を職員に周知し、防災意識を高めた。 5. 防犯 開館時間中は看視・警備員による巡回警備と立哨警備の併用及び、監視カメラによる警備 絵画には美術館システムによる機械警備、収蔵庫は随時監視カメラと機械警備の併用 保安対策について調査を継続的に実施し、緊急時対応の防犯マニュアル(作品接触、破壊、盗難)の整備・見直しをするなど、必要に応じた改善を行った。 6. 特記事項 版画素描専用の収蔵庫の改装工事が完成。既存の収蔵庫と併せて、より機能的な使用が可能となった。</p>	<p>A</p>	<p>国立美術館4館の中では唯一、保存・修復の専門的な知識を持つ職員を配置し、24時間空調を行うことにより、温湿度や照明等に配慮した適切な保管がされている。 また、保存カルテも着実に作成した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 美術作品は貴重な国民の財産であるため、今後とも、より良い保管環境の整備に努めることが望ましい。また、保存状況の記録カードについては、国立美術館各館共通化に努力することが望ましい。</p>
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。</p> <p>(3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 絵画 5件 彫刻 7件 タピスリー 1件 額縁 4件 2. 特記事項 当館では保存修復室及び保存科学室を設置しており、このスタッフを中心として外部技術者等を活用し、収蔵作品の適切な保存、調査及び計画的修復を行っている。 平成10年度に行われたロダン作「地獄の門」(彫刻)免震化工事の報告書『《地獄の門》免震化と修復』を刊行した。本書では、免震化の意義や問題点、工事のプロセスに及んだ詳細を記録した。 プールデル作「弓を引くヘラクレス」(彫刻)の免震化工事を実施し、前庭への設置を行った。</p>	<p>A</p>	<p>保存修復室、保存科学室を持つ国立西洋美術館の、保存修復への対応は十分評価できる。緊急を要するものから計画的に修理を行った(プールデル「弓を引くヘラクレス」(彫刻)の免震化工事を行い前庭に設置等)。 また、修理データも確実に記録した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 保存修復室、保存科学室を持つ美術館として、今後は、この分野での指導的役割を担っていくことが望まれる。保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>
<p>2 公衆への観覧</p> <p>(1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある 質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>(1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。</p> <p>(1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。</p> <p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度</p> <p>(京都国立近代美術館) 年6～7回程度</p> <p>(国立西洋美術館) 年3回程度</p> <p>(国立国際美術館) 年5～6回程度</p> <p>(1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くことと</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展 展示替 1回(企画展開催に伴う一部作品の入替) 版画展示 3回(「受難伝-国立西洋美術館所蔵のドイツ・ルネサンス版画による-」、 「ジャック・カロの版画-17世紀フランス、イタリアの人々、宮廷、戦争-」、 「ファウストとハムレット：ドラクロワ-ロマン派石版画の魅力」) 子どもから楽しめる美術展 1回(「ココロのマド-絵のかたち」)(常設展と併設) 小企画展 1回(「織りだされた絵画-国立西洋美術館所蔵17-18世紀タピスリー」)(常設展と併設) 2. 企画展等 3回(中期計画記載回数：年3回程度) 自主企画展「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」 共催展「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」 共催展「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証-古代ローマ人と肖像」 3. 入場者数 662,854人(平成14年度 983,045人) 4. 特記事項 平成15年度は展示の充実以外の面における活動についても推進を図っており、より多くの人々に美術館に親しむ機会を持っていただくことを目標に、地域や観光事業と連携した様々な普及広報事業の実施に努めた。</p>	<p>A</p>	<p>国立西洋美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展など幅広い層を対象とし国民の関心をより強く喚起した企画展など様々な内容のものを行った。また、目標の入館者約55万人を超える約66万人が観覧している。これは前年度入場者の約98万人より大きく減少しているが、大量動員のある展覧会がなかったためであり、常設展、企画展ともに充実したものであった。ジュニア・パスポートの試みなど評価できる。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 社会的な状況、観覧者のニーズの変化に対応しうる柔軟な企画を行うことが望ましい。</p>
<p>常設展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年4月1日～平成16年3月31日(306日間) 2. 会 場 前庭 屋外1階、本館 1階～2階、新館 1階～2階、企画展示館 地下2階～地下3階 3. 出品点数 187件(常設作品点数：前庭 6件、本館 82件、新館 99件) 4. 入場料金 一般420円、大学生130円、高校生70円、一般(団体)210円、大学生(団体)70円、 高校生(団体)40円、小中学生無料 5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入の合計23,186,280円) 6. アンケート回収数 300件(母集団 2,712人) アンケート結果 大変良い29.3%(88件)、良い55.4%(166件)、まあまあだった10.7%(32件)、 あまり良くなかった1.3%(4件)、良くなかった0.3%(1件)、無回答3.0%(9件)</p>	<p>A</p>	<p>国立西洋美術館の常設展はその名のとおり、基本的に展示替えは行わず代表的な所蔵作品を年間を通して展示しており、目標を上回る者が観覧し、アンケートでも85%から「良かった」との回答を得ている。その他に、美術館への理解を深めるため、「子どもから楽しめる美術館」や版画・素描コレクション展を行った。</p>
<p>入館者数</p>	<p>173,000人以上</p>	<p>121,100人以上 173,000人未満 121,100人未満</p>	<p>271,641人</p>	<p>A</p>	

<p>もに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。</p> <p>(1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。</p> <p>(1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。</p> <p>なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。</p> <p>また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。</p> <p>(3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める</p>	<p>小企画展 「織り出された絵画― 国立西洋美術館所蔵17- 18世紀タピスリー―」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年3月18日～平成15年5月25日(48日間) (3月18日からの総開催日数60日間)</p> <p>2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階</p> <p>3. 主催 国立西洋美術館 協力 西洋美術振興財団</p> <p>4. 出品点数 7件</p> <p>5. 入場料金 無料</p> <p>6. 入場料収入 0円</p> <p>7. 展覧会の内容 当館には、これまで、タピスリー芸術の頂点ともいわれる、ルイ14世治下のフランスで織られた著名なゴブラン織り連作 王の城づくし 中の1点《シャンポール城：9月》が所蔵されていた。しかし、繊細で脆弱な絹糸が用いられていることによる保存上の理由と、展示効果の観点から、なかなか公開の機会に恵まれてこなかったが、平成13年度に糖業協会および、日本興業銀行(寄贈当時)より、かつて松方コレクションに属していた計6点の見事なタピスリーの寄贈を受けたことで、17世紀から18世紀のタピスリー芸術の精華であるこれら7点の作品を初めて公開した。なお、本展覧会は多くの人々に鑑賞の機会を提供し、また、寄贈を受けた作品が美術館活動の中で有意義に活用されているという実情を理解してもらうために、全ての入場者の入場料金を無料とした。</p> <p>8. 講演会等 2回 参加人数220人 スライドトーク等 2回 参加人数80人</p> <p>9. アンケート回収数 200件(母集団5,009人) アンケート結果 大変良い46.0%(92件)、良い45.5%(91件)、まあまあだった7.5%(15件)、あまり良くなかった0%(0件)、良くなかった0%(0件)、無回答1.0%(2件)</p>	<p>B</p>	<p>平成13年度に寄贈された旧松方コレクションの6点のタピスリーと当初からの館所蔵のタピスリー1点を含めた展示で、無料公開を行った。あまり展示されることのないタピスリーの展示、無料公開等、公的な美術館としての独自性が発揮されており、評価される。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 工芸品に関する展示企画の実施を検討することが望ましい。</p>
	<p>入館者数</p>	<p>46,000人以上 32,200人以上 46,000人未満 32,200人未満</p>	<p>38,101人</p>	<p>B</p>	
	<p>企画展 「ドレスデン版画素描 館 ドイツ・ロマン主義 の風景素描」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年6月24日(火)～8月24日(日)(54日間)</p> <p>2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階</p> <p>3. 主催 国立西洋美術館、西洋美術振興財団 後援 東京ドイツ文化センター、ドイツ連邦共和国大使館 助成 財団法人東芝国際交流財団 協力 全日本空輸(ANA)</p> <p>4. 出品点数 103件</p> <p>5. 入場料金 一般850円、大学生450円、高校生250円、一般(団体)600円、大学生(団体)250円、高校生(団体)100円 一般(割引)800円、大学生(割引)400円、高校生(割引)200円、一般(前売)700円、大学生(前売)350円、高校生(前売)150円、小中学生無料</p> <p>6. 入場料収入 24,652,350円</p> <p>7. 展覧会の内容 本展覧会は、かねてより交流の深いドレスデン版画素描館との共催により、これまで日本でまとめて紹介されたことのないドイツ・ロマン主義の素描に焦点を合わせたものである。ナザレ派の指導的立場にあったユリウス・シュノル・フォン・カールスフェルトの「イタリア風景画帳」を中心に、フリードリヒ・カールス等の代表的作家の風景素描103点を展示した。イタリアに拠点を置いて活動したナザレ派と、ドイツに留まり北方の幻想的な風景を描き続けたフリードリヒらの風景素描を比較検討することで、当時のドイツの作家たちの多様性を知ることのできる内容となった。</p> <p>8. 講演会等 4回 参加人数300人 スライドトーク等 2回 参加人数34人 イヤホンガイドの実施 利用者数2,794人 展覧会に関連する音楽プログラム 1回 参加人数100人</p> <p>9. アンケート回収数 300件(母集団5,841人) アンケート結果 大変良い23.0%(69件)、良い53.3%(160件)、まあまあだった19.7%(59件)、あまり良くなかった2.3%(7件)、良くなかった0%(0件)、無回答1.7%(5件)</p>	<p>A</p>	<p>日本でこれまでまとめて紹介されたことのないドイツ・ロマン主義の素描をドレスデン版画素描館と協力して紹介したもので、入場者数も目標を上回り、図録も学術的にも充実したものであった。</p>
	<p>入館者数</p>	<p>41,000人以上 28,700人以上 41,000人未満 28,700人未満</p>	<p>48,114人</p>	<p>A</p>	
	<p>共催展 「レンブラントとレン ブラント派 聖書、神 話、物語」</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開催期間 平成15年9月13日(土)～平成15年12月14日(日)(80日間)</p> <p>2. 会場 国立西洋美術館企画展示館 地下2階～地下3階</p> <p>3. 主催 国立西洋美術館、NHK/NHKプロモーション 後援 外務省、文化庁、オランダ大使館 協力 損保ジャパン 日本航空、日本通運、ポーラ美術振興財団、西洋美術振興財団</p> <p>4. 出品点数 92件</p> <p>5. 入場料金 一般1,300円、大学生900円、高校生800円、一般(団体)950円、大学生(団体)510円、高校生(団体)450円、一般(割引)1,200円、大学生(割引)850円、高校生(割引)750円、一般(前売)1,100円、大学生(前売)800円、高校生(前売)700円、一般(2館共通入館券)1,700円、大学生(2館共通入館券)1,200円、高校生(2館共通入館券)1,100円、高齢者(65歳以上)(2館共通入館券)1,600円、高校生以上(とくまるチケット)1,000円、小中学生無料</p> <p>6. 入場料収入 87,362,350円</p> <p>7. 展覧会の内容 アムステルダム国立美術館とベルリン国立絵画館は、レンブラントをはじめとする17世紀オランダ絵画の宝庫として世界中に知られている。本展には、この両館からレンブラントの傑作6点を含むオランダ絵画の貴重な作品が多数出品された。さらに加えて、ロンドンやデン・ハーグ、ブタペストまた、ワシントン、ボストンなどの美術館から、重要なレンブラントとレンブラント派の油彩画も出品され、レンブラントと17世紀オランダ絵画に関心をもつ人々にとって、この展覧会はまたとない機会を提供するものと</p>	<p>A</p>	<p>21世紀初頭におけるレンブラント研究を可能な限り吸収しながら、17世紀オランダ絵画の中で物語画の果たした役割を再考しようとする企画の意図も明確で、質の高い展覧会であった。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 多様な入館者が見込まれる展覧会においては、内容や価格の異なる複数の図録等の作成を検討することが望ましい。</p>

			<p>なった。</p> <p>8. 講演会等 2回 参加人数245人 スライドトーク等 5回 参加人数592人 国内外のレンブラント研究者並びに、17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム 1回 参加人数101人 イヤホンガイドの実施 利用者数36,001人</p> <p>9. アンケート回収数 400件(母集団 13,036人) アンケート結果 大変良い26.5%(106件), 良い49.5%(198件), まあまあだった16.8%(67件) あまり良くなかった3.3%(13件), 良くなかった1.4%(6件), 無回答2.5%(10件)</p>		
(2)収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>272,526人</p> <p>1. 貸与・特別観覧の件数 貸与 2件 2点 特別観覧 64件 104点</p> <p>2. その他 寄託作品の貸与件数 1件, 1点</p>	A	<p>B</p> <p>美術品の保存の問題や主要な絵画は常設展示している等の事情はよく理解できるが、今後は、公私の美術館等からの貸与要望の主旨を十分考慮しつつ、合理的な判断基準を明確に定める等して、積極的に、幅広く国内外の美術館等の要望に応えていく必要がある。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 すみやかに、貸与規則の制定等の対応を進めていくことが望ましい。また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について、使用者やその目的等を勘案して、商業利用等については提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>収蔵品に関する調査研究 美術作品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2)調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	調査研究の実施状況	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 調査研究 (1) 収蔵品の調査研究 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体に関する調査研究 中世末期から20世紀初頭の西洋美術に関する調査研究 美術館教育に関する調査研究 美術館情報資料に関する調査研究</p> <p>(2) 展覧会のための調査研究 17, 18世紀フランス, フランドル・タピスリーの研究 ドイツ・ロマン主義の研究 レンブラントと17世紀オランダ物語画の研究 18世紀における「古代の受容」に関する研究</p> <p>(3) 科学研究費補助金による調査研究 「油絵具の乾燥における脂肪酸組成の変化に対する顔料の影響」の研究 「16-17世紀西欧における版画出版と古代の受容」の研究 「博物館の機能及びその効果的な運営の在り方に関する実証的研究」の研究(研究分担者として)</p> <p>(4) 保存・修理に関する調査研究 西洋美術作品の保存修復に関する調査研究</p> <p>2. 客員研究員等の招聘実績 8人 美術館教育に関する調査研究 ビストルフィ作品の石像ならびにブロンズ作品の修復と調査 作品輸送時における振動調査の共同研究 国立西洋美術館の所蔵作品の材料分析に関する調査研究 情報、広報事業等に関する英語表記の指導・助言 レンブラント展関連シンポジウムの企画運営及び報告書の編集 ヴァチカン展調査研究, 企画等協力 展覧会に関する音楽プログラムの調査研究, 企画等協力</p> <p>3. 大学院との連携協力 平成14年度より、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学専攻の教育・研究における連携・協力について協定を締結し、平成15年度は2名の大学院生を受け入れた。</p> <p>4. 特記事項 国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ絵画」を開催した。 国立西洋美術館在外研究員1名を派遣した。(平成14年度より継続) 「1910年代における仏独の前衛画家たちの交流と相互影響に関する調査研究」</p>	A	<p>A</p> <p>収蔵品や展覧会に直接に関係する調査研究を中心にして着実に進め、美術品の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。</p> <p>その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしての役割を考えると、調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。国立美術館4館共同の紀要の作成についても、検討していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>
<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化す</p>	美術館に関する情報の収集及び公開の状況	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>8人</p> <p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 1,641件 公開場所 企画展示館事務棟地下1階 研究資料センター (西洋美術史などの研究者を対象とした資料センターとして、西洋美術史研究図書、雑誌、マイクロフィッシュ等の資料約140,100点を所蔵し公開している。) 本館1階 資料コーナー (一般の利用者向けに本館1階のフリーゾーンに設置し、展覧会カタログ、年報、要覧など、過去およそ10年分の当館の出版物と、全国美術館案内や美術事典などを公開している。)</p> <p>利用者数 111人 貸出件数 229件, 764点(請求による出納件数のみ、開架書架の利用件数は含まない)</p>	A	<p>A</p> <p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり実施した。</p> <p>特に、ホームページへのアクセス件数がかかり伸びていることを評価する。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民に国立西洋美術館を利用されるように、利用しやすい館の運用と広報を積極的に行っていくことが望ま</p>

<p>るとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。</p> <p>また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>						<p>本館1階資料コーナーはフリーゾーンとしているため多数の利用者があるが、利用者数の集計はしていない</p> <p>2. 広報活動の状況</p> <p>刊行物による広報活動</p> <p>『国立西洋美術館ニュース ゼフュロス』(年4回発行(春、夏、秋、冬))等の刊行物を発行し、美術館の理解と利用の促進に向けて広報活動を行い、積極的に情報の発信に努めている。</p> <p>ホームページによる広報活動</p> <p>ホームページでは、コレクション、展覧会情報、講演会・スライドトーク等のイベント、交通・利用案内、館内施設案内などを常時掲載し、適時更新を行っている。海外からのアクセス向けには英語版のホームページを整備している。また、平成15年度は「館内施設」、「よくある質問コーナー」、「オンライン蔵書目録(OPAC)」のコンテンツを新たに追加した他、職員やインターンシップ及びボランティア募集等の要項の他、レストラン経営企画入札実施要項等の事業案内情報についても掲載を開始した。そのコンテンツの中で研究資料センターの積極的な広報を図るなど、ホームページの利便性向上とインターネットを活用した情報発信を積極的に推進した。</p> <p>マスメディア等による広報活動</p> <p>展覧会や美術館の活動についてマスメディア等への情報提供を行い、取材、撮影への協力を積極的に行うなどとして美術館事業の普及広報に努めている。また、平成15年度は企業が運営するWebサイトやメールマガジンへの情報提供や掲載を図った。</p> <p>3. デジタル化の状況</p> <p>平成15年度に資料管理のためのデータベース化を行った件数 125件</p>	<p>しい。</p> <p>収蔵品のデジタル化や文化財情報については有料提供も検討を行い、その公開についての取組が望まれる。美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権がその障害となっているため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開していくことが望ましい。</p> <p>研究資料センターを多くの国民が利用できるよう、広報を積極的に行うことが望ましい。</p>																																																																					
	<table border="1"> <tr> <td>出版件数</td> <td>美術館ニュース</td> <td>4回以上</td> <td>3回</td> <td>3回未満</td> <td>4回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>ホームページのアクセス件数</td> <td></td> <td>275,000件以上</td> <td>192,500件以上 275,000件未満</td> <td>192,500件未満</td> <td>655,128件</td> <td>A</td> </tr> </table>	出版件数	美術館ニュース	4回以上	3回	3回未満	4回	A	ホームページのアクセス件数		275,000件以上	192,500件以上 275,000件未満	192,500件未満	655,128件	A																																																													
出版件数	美術館ニュース	4回以上	3回	3回未満	4回	A																																																																						
ホームページのアクセス件数		275,000件以上	192,500件以上 275,000件未満	192,500件未満	655,128件	A																																																																						
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>				<p>1. 児童生徒・教員を対象とした事業</p> <p>Fun with Collection'03「ココロのマド - 絵のかたち」 1回</p> <p>Fun with Collectionは、当館の所蔵作品を中心として特定のテーマに沿って紹介するものであり、特別に展覧会という形式をとらず常設展の作品を活用したプログラムとして実施をしているため、参加者数という計上は行っていない。</p> <p>ワークショップ(創作・体験プログラム等) 5回 66人</p> <p>スクール・ギャラリートーク 46回 891人</p> <p>ファミリープログラム 4回 98人</p> <p>先生(小・中・高等学校教員)のための鑑賞プログラム 4回 144人</p> <p>教員研修会 5回 102人</p> <p>教員夏季研修会 1回 26人</p> <p>団体訪問者(学校・団体)への解説 35校 1,533人</p> <p>2. 講演会等の事業</p> <p>講演会 11回 1,072人</p> <p>スライドトーク等 10回 740人</p> <p>イヤホンガイド 3回 43,228件</p> <p>展覧会に関連する音楽プログラム 1回 100人</p> <p>国内外のレンブラント研究者並びに、17世紀オランダ絵画研究者によるシンポジウム 1回 101人</p>	<p>A</p> <p>児童生徒を対象とした活動のほか、講演会等を計画どおり実施して、参加者数が増加した。今後は、大学・大学院で専門の勉強を始めた学生等に向けたプログラムについても検討が必要である。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>企画をさらに工夫していくため、外部の意見を聞いていく場を作っていくことが望ましい。</p> <p>一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。</p>																																																																						
	<table border="1"> <tr> <td>子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>91回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>40人以上</td> <td>28人以上 40人未満</td> <td>28人未満</td> <td>2,588人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>先生(小中学校教員)のためのプログラム</td> <td>回数</td> <td>2回以上</td> <td>1回</td> <td>0回</td> <td>10回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>140人以上</td> <td>98人以上 140人未満</td> <td>98人未満</td> <td>272人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>企画展における講演会</td> <td>回数</td> <td>3回以上</td> <td>2回</td> <td>2回未満</td> <td>11回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>770人以上</td> <td>539人以上 770人未満</td> <td>539人未満</td> <td>1,072人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56%未満</td> <td>88.01% 回答数217件 良い88.01%(191件),あまり良くない4.15%(9件),良くない10.92%(2件),無回答6.92%(15件)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>スライドトーク等の実施</td> <td>回数</td> <td>5回以上</td> <td>4回</td> <td>4回未満</td> <td>10回</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>人数</td> <td>700人以上</td> <td>490人以上 700人未満</td> <td>490人未満</td> <td>740人</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td></td> <td>アンケート</td> <td>80%以上</td> <td>56%以上 80%未満</td> <td>56%未満</td> <td>86.04% 回答数129件 良い86.04%(111件),あまり良くない8.53%(11件),良くない0%(0件),無回答5.43%(7件)</td> <td>A</td> </tr> </table>	子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)	回数	3回以上	2回	2回未満	91回	A		人数	40人以上	28人以上 40人未満	28人未満	2,588人	A	先生(小中学校教員)のためのプログラム	回数	2回以上	1回	0回	10回	A		人数	140人以上	98人以上 140人未満	98人未満	272人	A	企画展における講演会	回数	3回以上	2回	2回未満	11回	A		人数	770人以上	539人以上 770人未満	539人未満	1,072人	A		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	88.01% 回答数217件 良い88.01%(191件),あまり良くない4.15%(9件),良くない10.92%(2件),無回答6.92%(15件)	A	スライドトーク等の実施	回数	5回以上	4回	4回未満	10回	A		人数	700人以上	490人以上 700人未満	490人未満	740人	A		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	86.04% 回答数129件 良い86.04%(111件),あまり良くない8.53%(11件),良くない0%(0件),無回答5.43%(7件)	A					
子供から楽しめる美術展(創作体験プログラム)	回数	3回以上	2回	2回未満	91回	A																																																																						
	人数	40人以上	28人以上 40人未満	28人未満	2,588人	A																																																																						
先生(小中学校教員)のためのプログラム	回数	2回以上	1回	0回	10回	A																																																																						
	人数	140人以上	98人以上 140人未満	98人未満	272人	A																																																																						
企画展における講演会	回数	3回以上	2回	2回未満	11回	A																																																																						
	人数	770人以上	539人以上 770人未満	539人未満	1,072人	A																																																																						
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	88.01% 回答数217件 良い88.01%(191件),あまり良くない4.15%(9件),良くない10.92%(2件),無回答6.92%(15件)	A																																																																						
スライドトーク等の実施	回数	5回以上	4回	4回未満	10回	A																																																																						
	人数	700人以上	490人以上 700人未満	490人未満	740人	A																																																																						
	アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56%未満	86.04% 回答数129件 良い86.04%(111件),あまり良くない8.53%(11件),良くない0%(0件),無回答5.43%(7件)	A																																																																						

	音楽プログラム	回数	1回	-	0回	1回	A	
	シンポジウム	回数	1回	-	0回	1回	A	
(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。	研修等の取組み状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 研修の取組 第11回美術館・歴史博物館学芸員専門研修会 58名 他の機関が実施する研修等事業への協力を実施 358名 2. 大学等との連携 東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻の教育・研究における連携・協力 2名 国立西洋美術館インターンシップ 6名（教育普及6名） 3. ボランティアの活用状況 平成14年度からの検討を踏まえ、ボランティア事業を具体化し、平成16年度からの実施に向けて実施要綱、選考要領を制定した他、ボランティア・コーディネーターを導入するなどして準備を進め、平成16年度11月を目処に開始することとした。	A	公私立の美術館の学芸担当職員への研修やインターンシップの受け入れ等について計画どおり実施した。 また、平成16年度に新たにボランティアを導入するための準備を行った。文化庁と共催で行う学芸員等専門研修会を開催した。 大学との連携やボランティアの活用については、先進的な事例として評価したい。 【より良い事業とするための意見等】 公私立の美術館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修の実施に当たってはプログラムをさらに検討することが望ましい。 また、美術館が持つ教育・学習の機能をどのように展開するのかについて、国立美術館各館で検討していくことが望ましい。			
(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 展覧会を開催するにあたり、新聞社、企業、メセナ財団より協力及び支援を得て、企画・運営、渉外、利用者サービス等の充実を図った。 全日本空輸株式会社より「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」を開催するにあたり、作品輸送及びクーリエ・展覧会関係者国際線航空券の割引協力を得た。 (財)東芝国際交流財団より「ドレスデン版画素描館所蔵 ドイツ・ロマン主義の風景素描」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。これにより作品リスト等の広報印刷物を作成し、入場者へ無料配布した。 (財)ポーラ美術振興財団より、国際シンポジウム「レンブラントと17世紀オランダ物語画」を開催するにあたり、運営費の助成を得た。 (財)西洋美術振興財団より、講演会等教育普及事業に関する助成を得た。 2. 企業等との連携を進め、美術館・展覧会情報等の掲載及び割引入場券発券等の幅広い広報活動を図った。 上野地区内の企業・店舗で組織する「上野のれん会」に加入し、ポスター掲示、チラシ・割引券等の配布、広報誌「うえの」(発行：上野のれん会)への展覧会情報掲載など、上野のれん会加盟店を通じた幅広い広報活動を実施した。 上野 松坂屋が発行する「Weekly Matsuzakaya」に展覧会情報を掲載した。 上野中央通り商店会「江戸開府400年記念、秋の芸術・文化まつり」事業と連携し、商店会で配布されるスクラッチカードに「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」展の割引券を添付した。 テクノシステム(株)が全国の幼・小・中・高校、及び文化施設へ向けて配信するメールマガジン「校外学習通信」へ美術館及び展覧会情報等の掲載を開始した。 JR東日本「平成16年度上野周辺散策マップ」への美術館情報等掲載に向けて準備した。 営団地下鉄と(株)NKBが開設する、東京の魅力案内するWebサイト「Let's Enjoy TOKYO」への美術館及び展覧会情報等掲載に向けて準備した。 東京の美術館・博物館等31館で実施する共通入館券(東京・ミュージアムぐるっとパス)実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。 東京都が実施する外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムカード」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。 「レンブラントとレンブラント派 聖書、神話、物語」において、「東郷青児美術館「ゴッホと花 - "ひまわり"をめぐって - 」展と連携し、とくまるチケット及び2館共通割引入館券の発行を実施した。 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連携し、2館共通割引入館券の発行を実施した。 「ヴァチカン美術館所蔵古代ローマ彫刻展 生きた証 - 古代ローマ人と肖像」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連動したスタンプラリーを実施した。 3. 地域との連携を進め、他の機関・団体等と共同・連携し、幅広い広報活動を行った。 東京都観光部、上野公園内施設(東京国立博物館、国立科学博物館、旧東京音楽学校奏楽堂、東京文化財研究所、国際子ども図書館、寛永寺、不忍弁天堂)と連携したライトアップ事業へ参加し、上野公園内全体のイメージアップを図った。 台東区教育委員会を通じて、台東区内の小中学校へ展覧会情報と観覧料金の無料化PRを実施した。 東京都「上野地区観光まちづくり検討会」、台東区「上野の山文化ゾーン連絡協議会」、「art-Link上野 - 谷中2003」へ参加し、地域との連携を推進 平成15年5月18日「国際博物館の日」に、上野地区内の美術館・博物館、上野動物園、上野のれん会、台東区と共同で普及広報イベントを実施した。	A	展覧会等において、企業や地域の地域から協力や助成金を受け、連携を深めてきていると評価できる。 今後ともに、より積極的に行っていく必要がある。 【より良い事業とするための意見等】 支援団体に対し特別内覧会を行うなど、美術館活動を理解してもらうための取組を検討することが望ましい。 今後は、なるべく多くの企業・個人等との関係を強化していくことが望ましい。			
7. その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 5箇所(本館1階1箇所、企画展示館地下1階1箇所、企画展示館地下2階3箇所) 障害者エレベータ 4基(新館1基、企画展示館3基) 段差解消(スロープ) 2箇所(正門、本館19世紀ホール) 風除扉の自動扉化 6箇所(本館2箇所、新館4箇所) 貸出用車椅子 10台(1階インフォメーション) 貸出用杖 10本(1階インフォメーション) 盲導犬・身体障害者補助犬を伴う利用可能 国立西洋美術館ホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備	A	平成14年度から導入した小・中学生の展覧会料金の無料化等の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。 外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献したが、さら			

<p>及び専門家からの批評聴取等を定期的に実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。</p> <p>(1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。</p> <p>(2)入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。</p> <p>(3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。</p>			<p>2. 観覧環境の充実 自主企画展・共催展において音声ガイドの実施 展示解説ビデオを上映 ジュニアパスポート、作品リスト及び、ワークシートを作成し、無料配布を実施 国立西洋美術館ガイド、展覧会案内チラシ、美術館情報等の広報印刷物を無料配布 国立西洋美術館ブリーフガイドを、より分かりやすい内容とするため、会場案内図及び美術館情報を見直し、カラーを多用した印刷へ改版を行った。(日本語版、英語版、韓国語版、中国語版2種類) 作品解説パネル、会場内サイン及び売札所の料金表示方法等を見直し、整備を実施 『びじゅつあー 国立西洋美術館はじめてガイド』を平成15年度初めて作成し、会場内で無料配布</p> <p>3. 夜間開館等の実施状況 夜間開館実施状況 開催日数 50日 小中学生の入場料の低廉化 以外の入場者料金の取り組み ア.平成15年度から学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を図った。 イ.自主企画展「ドイツ・ロマン主義の風景素描」において割引券を発行し、料金の低廉化を図った。 ウ.「レガラットとインフラット派」において「東郷青児美術館「ゴッホと花 - "ひまわり"をめぐって - 」展と連携し、とくまるチケット及び2館共通割引券の発行を実施した。 エ.「ガッパ美術館所蔵古代ローマ彫刻展」において、東京国立博物館「空海と高野山」展と連携し、2館共通割引券の発行を実施した。 オ.東京の美術館・博物館等31館で実施する共通入館券(東京・ミュージアムぐるっとパス)実行委員会に参加し、常設展共通入場券を発行した。 カ.東京都外国人旅行者向け観光事業「ウェルカムド」へ参加し、常設展の割引入場引換券を掲載した。 キ.常設展について、毎月第2・第4土曜日及び、文化の日を無料観覧日としている。 その他の入館者サービス ア.館内の売札所において、自主企画展及び当館共催展の前売券を販売した。 イ.自主企画展「ドイツ・ロマン主義の風景素描」において、前売券を東日本旅客鉄道、キット・びあで販売した。 ウ.展覧会の混雑時は、開館時間の延長や、開館時間を早めて対応している。 エ.無料観覧券については、有効期限付きの券を発行し混雑の緩和に努めている。 オ.年始の休館日数を短縮し、1月2日から開館した。 カ.ロダンの彫刻のある前庭及び、本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、デジタルギャラリー、資料コーナーがあるスペースをフリーゾーンとしている。</p> <p>4. 一般入館者等の要望の反映 入館者へのサービスの質を一層高めることを目的に、入館者と直に接する受付・案内の職員、看手及び美術館の職員に対して接客についての研修及び普通救命講習を実施した。 蔵書検索システム(OPAC)をインターネット上で公開し、利用者の利便性の向上を図った。</p> <p>5. レストラン・ミュージアムショップの充実 レストラン 洋菓子・パンで人気が高い(株)アトリエリーブが新規にレストラン経営者として出店 ケーキの品揃えを充実し、質的にも向上を図った。 ミュージアムショップ 所蔵作品3点のオリジナル複製画の受注販売を開始 年始の1月2日及び3日に、カレンダーの割引販売を実施 お客様が比較・選択しやすいよう、ディスプレイ方法の見直しに努めた。</p>	<p>に音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことが望ましい。</p>
--	--	--	---	---

【国立国際美術館】

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充当して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き1%の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には、下記の措置を講ずる。</p> <p>(1)各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2)省エネルギー、廃棄物減量化リサイクルの推進、ペーパーレス化の推進</p> <p>(3)講堂・セミナー室等を積極的に活用するなど施設の有効利用の推進</p> <p>(4)外部委託の推進</p> <p>(5)事務のOA化の推進</p> <p>(6)連絡システムの構築等による事務の効率化</p> <p>(7)積極的な一般競争入札を導入</p> <p>2 外部有識者も含めた事業評価の在り方について適宜、検討を行いつつ、年1回程度事業評価を実施し、その結果は組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。</p>	<p>効率化の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.業務の一元化：本部において、これまで行っている人事、共済、給与事務及び情報公開制度の共通的な事務を一元化した。</p> <p>2.省エネルギー等（リサイクル）</p> <p>ア.電気 使用量 835,212kwh（平成14年度比 93.57%） 料 金 21,471,348円（平成14年度比 92.17%）</p> <p>イ.水道 使用量 2,543m³（平成14年度比 90.02%） 料 金 819,544円（平成14年度比 84.88%）</p> <p>ウ.ガス 使用量 355m³（平成14年度比 89.65%） 料 金 54,613円（平成14年度比 112.13%）</p> <p>エ.一般廃棄物 11,180Kg（平成14年度比 108.12%） 料 金 240,714円（平成14年度比 105.58%）</p> <p>オ.産業廃棄物 800Kg（平成14年度比 - %） 料 金 42,000円（平成14年度比 - %）</p> <p>3.施設の有効利用：講堂の利用率 3%（12日/365日）</p> <p>4.外部委託：平成15年度も下記の外部委託を行い、業務の効率化を図った。 （1）常駐警備業務（2）機械警備業務（3）清掃業務（4）監視業務 （5）電気機械設備運転業務（6）昇降機設備保全業務（7）文書等運送業務 （8）庶務課業務（9）情報システム保守業務（10）集配金取次業務 （11）ミュージアムショップ運営業務</p> <p>5.OA化：館内LANを利用した情報の共有及びメールを利用した通知・連絡により、ペーパーレス化を図るとともに、事務の効率化を図った。</p> <p>6.一般競争入札：平成15年度契約では、一般競争入札に付す案件はなかった。 ただし、土地借料、陳列品購入費、新館工事費を除く。</p> <p>7.評議員会：開催回数 1回（平成16年2月24日(火)）</p> <p>8.研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善 文部科学省、人事院等の主催する実務研修や階層別研修などを受講することにより、職員の資質の向上が図られた。</p>	A	<p>国立国際美術館については、業務全般について一元化や省エネルギーに努力して、その結果として1.9%の効率化を図った。</p> <p>今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図る必要がある。</p> <p>外部委託については、必要な業務を精選する中で、適切に行っている。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後も、美術館本来の業務に支障を来さない程度に効率化を図ることが望ましい。また、平成16年度に大阪市北区中之島に移転するが、今後は、施設の有効利用を一層進めていく必要がある。</p>
		<p>効率化の達成率</p>	<p>1.5%以上</p>	<p>1.0%以上 1.5%未満</p>		<p>1.0%未満</p>	

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的 評価	定性的評価
<p>1 収集・保管</p> <p>(1)-1 体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、次に掲げる各館の収集方針に沿って、外部有識者の意見等を踏まえ、適時適切な購入を図る。また、そのための情報収集を行う。</p> <p>（国立国際美術館）</p> <p>日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、主に1945年以降の日本及び欧米の現代美術並びに国際的に注目される国内外の同時代の美術を系統的に収集する。</p> <p>(1)-2 収蔵品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。</p>	<p>美術作品の（購入・寄贈・寄託）の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.購入 137件</p> <p>2.寄贈 347件</p> <p>3.寄託 28件</p> <p>4.その他 収蔵品の欠落部分を補い、陳列を体系的に充実させるため、美術作品等選考委員会及び評価委員会の審議を踏まえ、美術作品を購入するとともに、当館にふさわしい作品として認められた作品について、積極的な寄贈受入を行うなど着実に作品収集を行った。</p>	A	<p>国立国際美術館の収集方針に基づき、展覧会の出品交渉など地道な活動を通じて美術作品を収集し、着実にコレクションの充実を図っていることは評価できる。</p> <p>特に、独立行政法人制度のメリットを生かし、購入や寄贈で高い成果を上げた。また、寄託についても、美術館への高い信頼によって大きな成果を上げた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】</p> <p>今後は、メディア・アートに対する対応を考えていくことが望ましい。購入・寄贈・寄託の拡大のために、税制上の改善が望まれる。また、大阪市北区中之島への移転に伴い、その立地条件を活かして地元企業等との連携を図っていくことが期待される。</p>
		<p>保管の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。</p>			<p>1.温湿度 展覧会場（空調実施時間 9:30～17:00） 夏季：温度 25 湿度 50% 冬季：温度 20 湿度 50% 収蔵庫（空調実施時間 9:30～17:00） 夏季、冬季：温度 22 湿度 55%</p> <p>2.照明 館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行ってきた。</p>	

<p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>			<p>3. 空気汚染 館内数十ヶ所で継続的な調査を行い、必要に応じた改善を行ってきた。 4. 防災 監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行ってきた。 5. 防犯 監視カメラの設置及び警備員による定期巡回等、必要に応じた対策を行ってきた。 6. その他 年間を通じた適正な温湿度の管理により、作品の保存環境の整備に努めてきた。 なお、保存カルテの作成については、今後も継続的に検討していきたい。</p>		<p>より良い保存環境の整備に努めることが望ましい。また、保存状況の記録カードについては、国立美術館各館共通化に努力することが望ましい。</p>			
<p>(3)-1 修理、保存処理を要する収蔵品等については、保存科学の専門家等との連携の下、修理、保存処理計画をたて、各館の修理施設等において以下のとおり実施する。 緊急に修理を必要とする収蔵品のうち、緊急性の高いものから各分野ごとに計画的に修理を実施。 伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術を取り入れて実施。 (3)-2 国内外の美術館等の修理、保存処理の充実に寄与する。</p>	<p>修理の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 修理件数 9件 ・洋画 1件 ・版画 7件 ・工芸 1件 2. その他 移転作業を進めるなかで、紙の修復を専門とする客員研究員と共同で全作品の状態チェックを行い、修理に向けた優先順位や保存状態が確認できたことは、大変有意義であった。 なお、データベース化については必要性を認識しており、法人内での統一した取り扱いを含め、今後も継続的に検討していきたい。</p>	<p>A</p>	<p>大阪市北区中之島への移転の前に、紙の修復を専門とする客員研究員を受け入れ、連携を図ったことは評価できる。緊急を要するものから計画的に修理を行ったが、新館移転後の積極的な取組に期待する。 なお、修理データは確実に記録した。 【より良い事業とするための意見等】 今後は、保存科学の専門職員をおくことが望ましいが、外部の専門家との連携を図っていくことが望まれる。また、今後は、作品に使用されている新しい媒体の保存について、研究を行っていくことが望ましい。保存カルテや修理データは、今後の保存・修理の貴重な記録となるため、今後とも確実にを行い、各館共通の規格によるデータベース化も検討することが望ましい。</p>			
<p>2 公衆への観覧 (1)-1 国民のニーズ、学術的動向等を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。 (1)-2 常設展においては、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究結果を基に、美術に関する理解の促進に寄与する展示を実施する。 (1)-3 企画展等においては、積年の研究成果の発表や時機に合わせた展示を企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、国民のニーズに対応した展示を実施する。企画展等の開催回数は概ね以下のとおりとする。なお、実施にあたっては、国内外の美術館及びその他の関連施設と連携を図るとともに、国際文化交流の推進に配慮する。 (東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度 (京都国立近代美術館) 年6～7回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5～6回程度 (1)-4 展覧会を開催するにあたっては、開催目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努力する。 (1)-5 各館の連携による共同企画展、巡回展等の実施について検討し推進する。 (1)-6 収蔵品の効果的活用、地方における鑑賞機会の充実を図る観点から、全国の公私立美術館等と連携協力して、地方巡回展を実施する。 なお、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の入館者数となるよう努める。 また、公立文化施設等と連携協力して、収蔵映画による優秀映画鑑賞会を実施する。 (3)入館者数については、各館で行う展覧会ごとに、その開催目的、想定する対象層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境、広報活動、過去の入館者数の状況等を踏まえて目標を設定し、その達成に努める。</p>	<p>展覧会の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 常設展(展示替 4回) 2. 特別展・企画展 5回 「鳴剛 -もうひとつの眼差し-」展 「高柳恵里」展 「ヤノベケンジ - MEGALOMANIA -」展 「大地の芸術 クレイワーク新世紀」展 「川崎清 美術館建築とその周辺」展 3. 常設展・特別展・企画展の入館者数 44,685人(平成14年度 50,090人)</p>	<p>A</p>	<p>国立国際美術館の特色や日常的な調査研究の成果を生かした常設展、現代美術に関する様々な内容の企画展、国内に優れた美術作品を鑑賞する機会を与えた地方巡回展など、難解と思われがちな現代美術への理解を高めるよう努力し、目標の入館者数3万人を超える約4万5千人が観覧した。大阪市北区中之島の新館移転後は、より多くの人々に観覧してもらえるよう企画や広報等を検討する必要がある。 【より良い事業とするための意見等】 新館移転による環境の変化に対応し、今後は、より独自性を持った企画を行うことが望ましい。入館者にわかりやすく満足感を与えるよう展示を工夫することが望ましい。</p>			
<p>(東京国立近代美術館) 本館 年3～5回程度 工芸館 年2～3回程度 フィルムセンター 年5～6番組程度 (京都国立近代美術館) 年6～7回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5～6回程度</p>	<p>常設展(企画展含む)</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する</p>	<p>1. 開会期間 245日間 2. 会場 地階, 1階, 2階展示場 3. 出品作品数 延413件 4. 入場料金 大人420円, 大学生130円, 高校生70円 大人(団体)210円, 大学生(団体)70円, 高校生(団体)40円 5. 入場料収入(常設展のみの入場料収入 210,620円)(目標入場料収入 235,000円) 6. アンケート回収数 1,329件(母集団 44,685人) アンケート結果 良い 52%(685件), 普通 43%(571件), 悪い 5%(73件)</p>	<p>A</p>	<p>国立国際美術館の方針に基づいて体系的に収集した約5千点の収蔵品(寄託品を含む)により、館の特色や日常的な調査研究の成果を生かして展示した。また、万博公園内最後の年であることを踏まえて、1970年の万博から77年の開館期の美術に焦点を当てたテーマ展示を行うなど、国立国際美術館の作品収蔵方針を明確にする特集展示を行い、現代美術への理解を高めるように努力した。 【より良い事業とするための意見等】 新館移転後も、多くの国民に常設展を観覧してもらえるよう、効果的な広報・展示の充実を図り、企画展の観覧者に常設展も観覧してもらえるような工夫を検討することが望ましい。</p>			
	<p>入館者数</p>	<table border="1"> <tr> <td>30,000人以上</td> <td>21,000人以上 30,000人未満</td> <td>21,000人未満</td> </tr> </table>	30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満	<p>44,685人</p>	<p>A</p>	
30,000人以上	21,000人以上 30,000人未満	21,000人未満						
	<p>企画展 「鳴剛 もうひとつの眼差し」展</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 開会期間 平成15年 4月 3日～平成15年 5月18日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 63件 5. 入場料金 大人420円, 大学・高校生130円, 大人(団体)210円, 大学・高校生(団体)70円 6. 入場料収入 794,310円(目標入場料収入 492,000円) 7. 展覧会の内容 写真とその写真を描く行為を反復した初期作品から、多重露光や映像のプレを素材として写真の視覚に注視した作品、描く対象を都市から自然に移し自然風景が写真の粒子と化した状態をより高精度に再現した作品、さらに近年の文化人類学的見地によって構成された作品に至るまで、代表的な作品60点余りによって鳴剛の絵画世界の全体を初めて本格的に紹介した。 8. 講演会等 3回 320人 9. アンケート回収数 290件(母集団 6,058人) アンケート結果 良い 68%(199件), 普通 31%(89件), 悪い 1%(2件)</p>	<p>A</p>	<p>「写真を描く」作家の展覧会で、現代美術の特性を示す、良い展示であった。展示手法にも工夫がみられ、今後も新たな試みを続けていくことが望ましい。現代美術に親しみのない層の来館が多かったことも評価できる。</p>			

入館者数	4,000人以上	2,800人以上 4,000人未満	2,800人 未満	6,058人	A	
企画展 「高柳恵里」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年 5月29日～平成15年 7月21日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 31件 5. 入場料金 大人420円, 大学生130円, 高校生70円 大人(団体)210円, 大学生(団体)70円, 高校生(団体)40円 6. 入場料収入 565,430円(目標入場料収入 554,000円) 7. 展覧会の内容 1990年頃に、日本の現代美術界において知られるようになった美術家で、以後も継続的に作品を発表し常に注目され続け、今日では同世代の美術家を代表する一人ともいべき高柳恵里の、1999年以降の近作30点に新作1点を加えて紹介した。 8. 講演会等 2回 194人 9. アンケート回収数 259件(母集団 4,257人) アンケート結果 良い 36%(93件), 普通 49%(127件), 悪い 15%(39件)	B	若い作家の個展として、新しい才能を紹介する試みであり、評価できる。 【より良い事業とするための意見等】 観覧者に提供する資料の充実を図ることが望ましい。
入館者数	4,500人以上	3,150人以上 4,500人未満	3,150人 未満	4,257人	B	
企画展 「ヤノベケンジ MEGA LOMANIA」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年 8月 2日～平成15年 9月23日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 資生堂, キリンビール株式会社, (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 37件 5. 入場料金 大人420円, 大学生130円, 高校生70円 大人(団体)210円, 大学生(団体)70円, 高校生(団体)40円 6. 入場料収入 2,509,730円(目標入場料収入 738,000円) 7. 展覧会の内容 地元大阪出身の作家ヤノベケンジの個展。国立国際美術館が立地する大阪万博跡地を幼少期の遊び場として過ごした作家が、その創造の原点ともなった万博をテーマに、初期作品から最新作まで展示した。万博の頃に作家自身が夢見た未来への思いを、今の子どもたちに受け継いでもらおうという目的をもって企画した。 8. 講演会等 3回 290人 9. アンケート回収数 335件(母集団 12,562人) アンケート結果 良い 72%(242件), 普通 26%(88件), 悪い 2%(5件)	A	大阪出身で、万博跡地を創作活動の原点としたヤノベケンジの展覧会であり、国立国際美術館が行う企画としての意義はおおいに評価できる。夏休み期間中で子どもの入場も多く、目標入場者数の2倍以上の来館があった。インターン、ボランティアに活動の場所を提供できたことも評価できる。
入館者数	6,000人以上	4,200人以上 6,000人未満	4,200人 未満	12,562人	A	
特別展 「大地の芸術 クレイワーク新世紀」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年10月 9日～平成15年11月25日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 59件 5. 入場料金 大人830円, 大学生450円, 高校生250円, 大人(団体)560円, 大学生(団体)250円, 高校生(団体)130円 6. 入場料収入 1,174,740円(目標入場料収入 2,281,000円) 7. 展覧会の内容 現代美術における素材としての土に注目し、土による表現(クレイワーク)の可能性について、独創的な創作活動を展開する9名の日本人作家(井上雅之, 鯉江良二, 重松あゆみ, 杉山泰平, 西村陽平, 日野田崇, 星野暁, 前田晶子, 三島喜美代)を取り上げ、その最新の試みを紹介した。 8. 講演会等 4回 534人 9. アンケート回収数 733件(母集団 9,365人) アンケート結果 良い 48%(353件), 普通 48%(353件), 悪い 4%(27件)	A	現代美術における素材としての土に注目し、クレイワークの可能性について、独創的な活動を行っている9人の作家の展覧会であり、美術表現の在り方を問う企画として興味深いものであった。
入館者数	8,500人以上	5,950人以上 8,500人未満	5,950人 未満	9,365人	A	
企画展 「川崎 清 美術館建築とその周辺」展	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			1. 開会期間 平成15年12月 4日～平成16年 1月18日 2. 会場 国立国際美術館 3. 主催 国立国際美術館 協賛 (財)ダイキン工業現代美術振興財団 4. 出品点数 110件 5. 入場料金 大人420円, 大学生130円, 高校生70円 大人(団体)210円, 大学生(団体)70円, 高校生(団体)40円 6. 入場料収入 541,900円(目標入場料収入 615,000円) 7. 展覧会の内容 1970年の日本万国博覧会において、万国博美術館(現・国立国際美術館)を設計した建築家である川崎 清の美術館・博物館建築に対する姿勢、思想を探り、併せて近作も紹介した。 8. 講演会等 3回 781人 9. アンケート回収数 486件(母集団 7,502人) アンケート結果 良い 51%(246件), 普通 45%(221件), 悪い 4%(19件)	A	国立国際美術館の万博公園での最後の企画として美術館設計者の川崎清の業績に焦点を当てた展示であり、時宜を得たものとしておおいに評価できる。建築については今後とも重要なテーマとして扱うことを検討していくことが望ましい。

	入館者数	5,000人以上	3,500人以上 5,000人未満	3,500人未満	7,502人	A	
(2) 収蔵品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に推進する。	貸与の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<ul style="list-style-type: none"> ・貸与 37件(885点) ・特別観覧 9件(14点) 	A	<p>公私立の美術館等からの要望等に対して応えるものなので、必ずしもその数をもって評価の対象にはなじまないが、積極的に美術品の貸与や特別観覧を行い、広く国民に公開することに貢献した。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 国立国際美術館の所蔵品を積極的に紹介する機会でもあることから、美術品の保管状態や展示計画等に留意しつつも、貸与要望の主旨を考慮しながら、今後とも幅広く応えることが望ましい。 また、国有財産の使用料に準拠している特別観覧の料金について、使用者やその目的等を勘案して、商業利用等については提供するサービスに見合った適切な使用料を検討していくことが望ましい。</p>
<p>3 調査研究</p> <p>(1)-1 調査研究が、収集・保管・修理・展示、教育普及その他の美術館活動の推進に寄与するものであることを踏まえ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設及び研究機関とも連携等を図りつつ、次に掲げる調査研究を積極的に実施する。</p> <p>収蔵品に関する調査研究 美術品に関する調査研究 収集・保管・展示に関する調査研究 美術史、美術動向、作者に関する調査研究 世界の映画作品や映画史に関する調査研究等</p> <p>(1)-2 国内外の美術館・博物館その他これに類する施設の職員を、客員研究員等の制度を活用し招聘し、研究交流を積極的に推進する。</p> <p>(2) 調査研究の成果については、展覧会、美術作品の収集等の美術館業務に確実に反映させるとともに、研究紀要、学術雑誌、学会及びインターネットを活用して広く情報を発信し、美術館に関連する研究の振興に供する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。</p>	調査研究の実施状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。			<p>1. 現代美術の調査研究</p> <p>(1) 日本の現代美術に関する調査研究 「浜口陽三年譜」(三木哲夫) 「浜口陽三参考文献抄」(三木哲夫) 「内藤礼《死者のための枕》」(島 敦彦) 「畠山直哉《アンダーグラウンド》」(島 敦彦) 「菅木志雄《PROTRUSION #279》」(中井康之) 「HIROSHIMAの暑い夏」(中井康之) 「審査を終えて」(加須屋明子) 「九州力 世界美術としての九州」展評(平芳幸浩)</p> <p>(2) 海外の現代美術に関する調査研究 「李禹煥《刻みより》」(中井康之) 「サニー・キム《ヤッホー、少女たち》」(加須屋明子) 『性を再考する 性の多様性概論』(加須屋明子) 「食間に 現代美術における生と死を巡って」(加須屋明子) 「世界中の子供達は「カラの皿」を目指して今しも旅の途上にある」(加須屋明子) 「ヴィック・ムニーズ《ヴァニタス》」(中西博之) 「像と視線 - ポップ・アート以降のイメージについて - 」(平芳幸浩) 「ポップ・アートと広告 - アンディ・ウォーホルを中心に - 」(平芳幸浩) 「ポップの系譜」(平芳幸浩) 「戦後アメリカ美術とデュシャン受容の言説の関係」(平芳幸浩) 「シェリー・レヴィーン《ブラック・ニューボーン》」(平芳幸浩)</p> <p>2. 展覧会のための調査研究</p> <p>(1) クレイワークに関する調査研究 「クレイワークの座標 - 80年代から現在までの状況 - 」(安來正博) 「作家論」(安來正博) 「作家年譜」(安來正博) 「三島喜美代《Work-2000》」(安來正博) 「大地の芸術 クレイワーク新世紀」(安來正博) 「大地の芸術 クレイワーク新世紀」(安來正博)</p> <p>(2) 鳴剛に関する調査研究 「もう一つの眼差し - 鳴剛の絵画 - 」(中井康之) 「鳴剛《SHONAN 2》」(中井康之)</p> <p>(3) 高柳恵里に関する調査研究 「高柳恵里試論」(中西博之) 「高柳恵里《置物セット》」(中西博之)</p> <p>(4) ヤノベケンジに関する調査研究 「ヤノベケンジ 過去と未来の往還」(平芳幸浩) 「ヤノベケンジ《クイーン・マンマ》」(平芳幸浩)</p> <p>(5) 川崎 清に関する調査研究 「川崎清 美術館建築とその周辺」(加須屋明子) 「川崎清(設計)「国立国際美術館」」(加須屋明子)</p> <p>3. 科学研究費補助金による調査研究 「大阪における近代商業デザインの調査研究」(基盤研究 代表 宮島久雄) 「四大(地・水・火・風)の感性論」(加須屋明子) 研究分担(基盤研究 代表 岩城見一) 「イタリアにおける美術作品の保存・修復の思想と歴史 - 欧米各国との比較から」(平芳幸浩) 研究分担(基盤研究 代表 岡田温司)</p> <p>4. その他(講演会、セミナー等での発表) 「近代版画入門」(三木哲夫) 「日本版画の100年」(三木哲夫) 「シンポジウム 彫刻が語り出す時」(安來正博) 「クレイワークの現在」(安來正博) 『美術史をつくった女性たち - モダニズムの歩みのなかで - 』(加須屋明子) 「メディアを理解する」~ジェンダーと新しい表現~」(加須屋明子) 「ポーランドの精神世界：生と死を巡って~カントルとパウカ~」(加須屋明子)</p> <p>5. 客員研究員等の招聘実績</p>	A	<p>収蔵品や展覧会に直接に関係する調査研究を中心にして着実にを行い 美術品の収集、展覧会及び図録の刊行等に成果を上げた。その他にも、科学研究費補助金をはじめとする外部資金の獲得や外部の研究者との連携・協力により、充実した調査研究が行われた。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 ナショナルセンターとしての役割を考えると、調査によって得られた結果は、データベース化して資料として積極的に公開し、学会等にも発表していくことが望ましい。国立美術館4館共同の紀要の作成についても、検討していくことが望ましい。今後は、海外の研究者との交流も積極的に進めていくことが望ましい。</p>

<p>4 教育普及</p> <p>(1)-1 美術史その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の美術館・博物館に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積を図るとともに、レファレンス機能の充実を図る。</p> <p>(1)-2 収蔵品等の美術作品その他関連する資料の情報について、長く後世に記録を残すために、デジタル化を推進する。</p> <p>(1)-3 国内外の美術館等との連携を強化するとともに、資料室等の整備・充実を図る。</p> <p>(5)-1 収集、保管、修理、展示、教育普及、調査研究その他の事業について、要覧、年報、展覧会図録、研究論文、調査報告書等の刊行物、ホームページ、またはマスメディアを利用して広く国民に積極的に広報活動を展開するとともに、国立美術館への理解の促進を図る。また、その内容について充実を図るよう努力するとともに、4館共同による広報体制の在り方について検討を行う。</p> <p>(5)-2 国内外に広く情報を提供することができるホームページについては、教育普及など多様な活用ができるようコンテンツを工夫し、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度のアクセス件数以上となるよう努力する。</p> <p>(5)-3 デジタル化した収蔵品等の情報について、美術情報システム等により広く積極的に公開するとともに、その利用方法について検討する。また、デジタル情報の有料提供についての方策を検討する。</p>	<p>美術館に関する情報の収集及び公開の状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>客員研究員1名を招聘し、以下の調査研究を行った。 ア：紙支持体作品の保存に関する調査研究 イ：現代美術作品の保存に関する調査研究</p> <p>1. 資料の収集及び公開 収集件数 993件 公開場所 一般への公開は行っていない。</p> <p>2. 広報活動の状況 刊行物による広報活動 年報、概要、図録、リーフレット、ジュニアガイドブック、月報、ポスター・チラシ（展覧会関係）、チラシ（子どものためのワークショップ用）、ポスター（移転広報用）、新館建築概要リーフレット ホームページによる広報活動 展覧会情報を中心に、各種教育普及事業の開催計画を掲載し、館の活動について積極的な情報発信を行うとともに、新館に関する情報提供にも努めた。 マスメディアの利用による広報活動 展覧会情報や館の活動状況について、マスメディアに対する積極的な情報提供を行うとともに、取材や撮影依頼にも可能な限り対応した。</p> <p>3. デジタル化の状況 平成15年度にデジタル化した美術作品の件数 ・文字データ 484件 ・画像データ 357件 ・図書データ 3,434件</p>	<p>A</p>	<p>資料の収集・公開、各種広報誌の発行、収蔵品のデジタル化など計画どおり実施した。</p> <p>特に、ホームページへのアクセス件数がかなり伸びていることを評価する。また、大阪市北区中之島への移転に関するポスターが好評であり、今後ともに、開館に向けて積極的にPRを続けてほしい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 より多くの国民に国立国際美術館を利用されるように、利用しやすい館の運用と広報を積極的に行っていくことが望ましい。 収蔵品のデジタル化や文化財情報については有料提供も検討を行い、その公開についての取組が望まれる。美術作品を広く紹介する方法として、インターネットを利用して情報を発信することは有効であるが、著作権がその障害となっているため、その対応について検討することが望ましい。また、著作権が切れたもの、公開の許諾が得られたものについては、公開していくことが望ましい。 図書資料室を多くの国民が利用できるよう、公開の在り方について検討することが望ましい。 また、新館移転後の活動に期待したい。</p>
<p>(2)新学習指導要領、完全学校週5日制の実施等を踏まえ、学校、社会教育関係団体と連携協力しながら、児童生徒を対象とした美術品解説資料等の刊行物の作成、講座、ワークショップ等を実施することにより、美術作品等への理解の促進、学習意欲の向上等を促し、心の教育に寄与するような教育普及事業を推進する。</p> <p>また、児童生徒を対象とした事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>(3)美術作品に関し、その理解を深めるような講演会、講座、スライドトーク及びギャラリートーク等を実施する等、生涯学習の推進に寄与する事業を行う。</p> <p>それらの事業について、中期目標の期間中毎年度平均で平成12年度の実績以上の参加者数の確保に努める。</p> <p>また、その参加者に対しアンケートを行い、回答数の80%以上から、その事業が有意義であったと回答されるよう内容について検討し、さらに充実を図る。</p>	<p>講座・講習会等の実施状況</p>	<p>法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。</p>	<p>1. 児童生徒を対象とした事業 こどものためのワークショップ 4回 157人 ビデオ上映 1回 43人</p> <p>2. 講演会等の事業 講演会 9回 1,416人(対談3回:564人を含む。) ギャラリートーク 6回 703人 ビデオ上映 4回 63人</p>	<p>B</p>	<p>児童生徒を対象とした活動のほか、講演会等を計画どおり実施して、参加者数が増加した。今後は、大学・大学院で専門の勉強を始めた学生等に向けたプログラムについても検討が必要である。新館移転後の活動に期待したい。</p> <p>【より良い事業とするための意見等】 企画をさらに工夫していくため、外部の意見を聞いていく場を作っていくことが望ましい。 一般観覧者にも配慮しつつ、展覧会場内で学校の教員が児童生徒に解説できる方策を検討することが望ましい。なお、現代美術はわかりにくいと感じられることもあるから、できる限り、解説やギャラリートークを実施していくことが望ましい。</p>
<p>出版件数</p>	<p>ジュニアガイドブック</p>	<p>1回以上</p>	<p>1回</p>	<p>A</p>	
<p>月報</p>	<p>12回以上</p>	<p>8回以上 12回未満</p>	<p>12回</p>	<p>A</p>	
<p>展覧会案内</p>	<p>1回以上</p>	<p>-</p>	<p>1回</p>	<p>A</p>	
<p>ホームページのアクセス件数</p>	<p>155,993件以上</p>	<p>109,195件以上 155,993件未満</p>	<p>109,195件未満</p>	<p>412,690件</p>	<p>A</p>
<p>子供のためのワークショップ</p>	<p>回数</p>	<p>4回以上</p>	<p>3回</p>	<p>3回未満</p>	<p>4回</p>
<p>人数</p>	<p>188人以上</p>	<p>132人以上 188人未満</p>	<p>132人未満</p>	<p>157人</p>	<p>157人</p>
<p>ビデオ上映</p>	<p>回数</p>	<p>3回以上</p>	<p>2回</p>	<p>2回未満</p>	<p>1回</p>
<p>人数</p>	<p>30人以上</p>	<p>21人以上 30人未満</p>	<p>21人未満</p>	<p>43人</p>	<p>43人</p>
<p>講演会</p>	<p>回数</p>	<p>4回以上</p>	<p>3回</p>	<p>3回未満</p>	<p>9回</p>
<p>人数</p>	<p>2,201人以上</p>	<p>1,541人以上 2,201人未満</p>	<p>1,541人未満</p>	<p>1,416人</p>	<p>1,416人</p>
<p>アンケート</p>	<p>80%以上</p>	<p>56%以上 80%未満</p>	<p>56%未満</p>	<p>79.11%</p>	<p>79.11%</p>
<p>ギャラリートーク</p>	<p>回数</p>	<p>5回以上</p>	<p>4回</p>	<p>4回未満</p>	<p>6回</p>
<p>人数</p>	<p>358人以上</p>	<p>251人以上 358人未満</p>	<p>251人未満</p>	<p>703人</p>	<p>703人</p>
<p>アンケート</p>	<p>80%以上</p>	<p>56%以上 80%未満</p>	<p>56%未満</p>	<p>84.17%</p>	<p>84.17%</p>
<p>フィルム上映会</p>	<p>回数</p>	<p>2回以上</p>	<p>1回</p>	<p>0回</p>	<p>0回</p>

		人数	400人以上	280人以上 400人未満	280人 未満	0人	C	
		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	0%	C	
	ビデオ上映	回数	4回以上	3回	3回 未満	4回	A	
		人数	4,347人以上	3,043人以上 4,347人未満	3,043人 未満	63人	C	
		アンケート	80%以上	56%以上 80%未満	56% 未満	71.43%	B	
(4)-1 美術館・博物館関係者等を対象とした研修プログラムについて検討、実施する。 (4)-2 全国の公私立美術館等の学芸担当職員（キュレーター）の資質を向上し、専門性を高めるための研修を実施し、人材養成を推進する。 (4)-3 公私立美術館・博物館等の展覧会の企画に対する援助・助言を推進する。 (4)-4 公私立美術館・博物館等が実施する研修会への協力・支援を行うとともに、情報交換、人的ネットワークの形成に努める。 (6)-1 ボランティア等や支援団体を育成し、ボランティア等と連携協力して展覧会での解説など国立美術館が提供するサービスの充実を図る。	研修等の取組み状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 大学等との連携 大学生の学芸員資格取得のための博物館実習（19名受入）を行った。 2. インターンの活用状況 3名（大学院生及び修了者）を受け入れ、学芸業務全般にわたって従事させた。 3. ボランティアの活用状況 41名（大学生）を受け入れ、美術館業務の補助業務に従事させた。	A	公私立の美術館の学芸担当職員への研修については受け入れ希望がなかったため、博物館実習生の受け入れについては計画どおり実施した。 また、インターンシップ制度を導入して成果をあげた。 【より良い事業とするための意見等】 公私立の美術館では学芸員を長期間派遣するだけの余裕がないため、研修の実施に当たってはプログラムを更に検討することが望ましい。また、今後とも、大学・大学院との連携を図っていくことが望ましい。 また、美術館が持つ教育・学習の機能をどのように展開するのかについて、国立美術館4館で検討していくことが望ましい。			
(6)-2 企業との連携等、国立美術館の業務がより充実するよう今後の渉外活動の方針について検討を行う。	渉外活動の状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	館の業務充実を図るため、展覧会に対する助成団体への申請を行った結果、次のとおり成果をあげることができた。館の事業をより充実したものとするために有効な方策であり、今後も積極的に取り組んでいきたい。 「ヤノベケンジ - MEGAROMANIA - 」展 助成：キリンビール株式会社、株式会社資生堂	B	展覧会等において、企業から協力や助成金を受けているが、大阪市北区中之島の移転を期に、より一層の努力を期待したい。今後とも、より積極的に行っていく必要がある。移転後の活動に期待したい。 【より良い事業とするための意見等】 支援団体に対し特別内覧会を行うなど、美術館活動を理解してもらうための取組を検討することが望ましい。 今後は、なるべく多くの企業・個人等との関係を強化していくことが望ましい。			
5 新たな美術館施設の円滑な運営について (2) 国立国際美術館新館については、平成16年の移転に向けて、体制整備、展示等の実施準備を進め、開館後は円滑な事業実施に努める。具体的な管理運営のあり方等については開館までに検討を進める。	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	館長の優れたリーダーシップのもと、学芸課、庶務課の職員が一丸となり、平成15年度の事業活動を実施しながら移転に向けた準備を着実に進めてきた。 また、新館における管理運営のあり方等については、各部会が相互に連携を取りながら検討を進め、移転後の円滑な事業実施に向け準備を進めてきた。	A	大阪市北区中之島に建設中の新館の開館に向けて、移転後の運営に関する様々な検討が着実に進められた。 【より良い事業とするための意見等】 今後とも、美術作品を適切に保管し、入館者が楽しく快適に過ごせる美術館にするよう検討を進めることが望ましい。			
7. その他の入館者サービス (1)-1 高齢者、身体障害者等の利用にも配慮した快適な観覧環境を提供するため、各館の方針に従って展示方法、表示、動線、施設設備の工夫、整備に努める。 (1)-2 入館者サービスの充実を図るため、観覧環境の整備プログラム等を策定し、計画的な整備を行う。 (1)-3 一般入館者を対象とする満足度調査及び専門家からの批評聴取等を定期的実施し、調査結果を展示等に反映させるとともに、必要なサービスの向上に努める。 (1)-4 展示解説の内容を充実させるとともに、見やすさにも配慮する。また、音声ガイド等を活用した情報提供を積極的に推進し、入者に対するサービスの向上を図る。 (2) 入館者のニーズを把握、分析し、夜間開館の実施等開館時間の弾力化や小中学生の入場料の低廉化など、入館者へのサービスを心がけた柔軟な美術館展示活動等	その他の入館者サービスの状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評定を決定する。	1. 高齢者・身体障害者のための施設整備等 障害者トイレ 1個所（1階 1個所） 障害者エレベータ 2基 段差解消（スロープ） 1個所（正面玄関） 貸出用車椅子 6台（1階） 2. 高齢者に配慮して、拡大鏡（ルーペ）を受付に配置し、希望者に貸出しを行った。 3. 観覧環境の充実 展示作品リストを含めたリーフレットを無料配布するとともに、館内にビデオテークを設置し、情報提供を行った。 4. 入場料金の低廉化 平成15年度についても、特別展を含めた全ての展覧会において、小・中学生の観覧料を無料とした。学生料金を大学生料金と高校生料金に分け、高校生料金の低廉化を実施した。 5. 「川崎清 美術館建築とその周辺」展では、夕間に浮かぶ幻想的な外観を作品の一つとして鑑賞してもらえるよう、毎週金曜日の閉館時間を1時間延長した。 6. 一般入館者等の要望の反映 アンケート結果の分析を行い、可能なものから改善に努めるとともに、新館運営に向けて参考とした。 7. レストラン・ミュージアムショップの充実 現代美術をより親しく感じてもらえるよう、販売グッズの内容を検討し、充実に努めた。	A	平成14年度から導入した小・中学生の展覧会料金の無料化等の効果が表れてきている。また、開館日の増、柔軟な開館時間の設定、レストラン等のサービスの改善等の入館者サービスの向上に努めた。 外国人観光客に対しても、多言語による館紹介パンフレットを充実させるなど、日本文化の理解促進に貢献した。大阪市中之島の移転後は、より一層、入館者サービスに努める必要がある。 さらに、音声ガイドやボランティアによる外国語解説等のサービスを充実していくことが望ましい。			

を行い、気軽に利用でき、親しまれる美術館となるよう努力する。 (3)ミュージアムショップやレストラン等の施設を充実させるなど、入館者にとって快適な空間となるよう館内環境を工夫する。					
---	--	--	--	--	--

【国立新美術館】(平成15年6月に新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)から国立新美術館に名称を決定。)

中期計画	指標又は評価項目	評価基準			指標又は評価項目に係る実績	評価	
		A	B	C		段階的評価	定性的評価
6 新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)の開設に向けた準備について 文化庁が平成18年を目途に開設を予定している新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)について、文化庁と連携・協力し、その円滑な開設に向けた体制整備、展示事業等の準備を推進する。	開館への準備状況	法人による自己点検評価の結果を踏まえつつ、各委員の協議により、評価を決定する。			1.平成15年4月1日に、東京国立近代美術館フィルムセンター内に国立新美術館設立準備室を設置した。 (1)設立準備室長として、辻村哲夫東京国立近代美術館長を兼務発令し、調査官1名、研究員3名、事務職2名を配置した。 (2)平成15年8月15日より、事務総主幹を配置し、設立準備室の事務組織の体制強化を図った。 2.文化庁が設置した新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)設立準備委員会(座長:平山郁夫)で取りまとめた「新国立美術展示施設(ナショナル・ギャラリー)(仮称)管理運営等に関する検討結果報告書」に基づき、以下の事項について検討を行った。 (1)展覧会事業 ・公募展事業に関する施設使用条件等について ・自主企画展及び共催展の在り方について (2)情報提供・提供事業 ・国内外の展覧会に関する図録、記録等の資料について ・国内外の展覧会に関する情報を提供するための美術館情報システムについて (3)教育普及事業 ・展覧会の開催に併せた講演会、研修会、公開講座、シンポジウム、ボランティア等の在り方について 3.「2.」の検討を建設工事に反映させるため、設計図書の調整を行った。 4.開設準備に関する重要事項を検討するため、国立新美術館運営協議会を設置した。	段階的評価	平成15年度は、東京国立近代美術館フィルムセンター内に国立新美術館設立準備室を新たに設置するとともに、事務総主幹をはじめスタッフの充実を図った。また、開設準備に関する重要事項を検討するため、国立新美術館運営協議会を設置して検討を進めた。ただし、評価については、運営協議会等が本格的に活動を開始する16年度から行うこととする。 なお、今後は、管理運営に関する具体的な内容をさらに明確にし、ホームページの充実を図るなど、国民に対してより積極的に情報を公開していく必要がある。 【より良い事業とするための意見等】 今後は、開館に向けての準備を着実に進めるとともに、国民に向けて、館の理念や活動目標、準備状況等について、十分な広報活動を積極的に行い、さらに情報を公開していく必要がある。